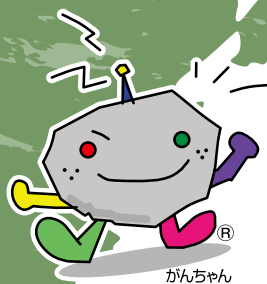


発行日／2019年3月1日
発行／国立大学法人 岩手大学
企画・編集／岩手大学地域連携推進部地域創生推進課
〒020-8551 岩手県盛岡市上田四丁目 3-5
TEL.019-621-6629（代表）
<http://www.iwate-u.ac.jp/>





岩手の
“大地”と
“ひと”と
 共に



国立大学法人
岩手大学



岩手の“大地”と“ひと”と共に

Contents 目次

第1部 はじめに 04

新たな「地域連携」の在り方を期待する 岩手大学学長 岩淵 明	04
2年目の三陸復興・地域創生推進機構の歩みー復興活動から学び、地域創生に活かすー 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構長 菅原 悦子	06

第2部 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 08

01. 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構について	08
02. 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の取組	10
(1) 三陸復興部門	10
① 学習支援班	10
② ボランティア班	12
③ いわて高等教育コンソーシアム連携班	14
④ 心のケア班	18
⑤ 被災動物支援班	21
⑥ 地域コミュニティ再建支援班	24
⑦ ものづくり産業復興推進班	26
⑧ 農地復興班	28
⑨ 園芸振興班	31
⑩ 農林畜産業復興総合計画班	34
(2) 地域創生部門	36
(3) 生涯学習部門	42
(4) ものづくり技術教育研究部門	48
(5) 三陸水産教育研究部門	52
(6) 地域防災教育研究部門	58
(7) 平泉文化教育研究部門	64

03. 釜石サテライト・各エクステンションセンター 69

(1) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの設置	69
(2) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの活動	70
① 釜石サテライト	70
② 久慈エクステンションセンター	76
③ 宮古エクステンションセンター	79
④ 大船渡エクステンションセンター	82

04. 相互友好協定協力締結自治体・共同研究員 84

(1) 相互友好協定協力締結自治体・共同研究員について	84
(2) 相互友好協定協力締結自治体・共同研究員の活動	84

第3部 その他の取組について 92

01. 釜石キャンパス開所	92
02. 地域連携フォーラム	94
03. 首都圏向け報告会	95
04. VMAT キックオフシンポジウム	97

第4部 活動報告 98

01. 学協会誌（論文）	98
02. 著 書	101
03. 研究報告・活動報告	101
04. 学会発表・各種講演・報告等	103
05. 委員会等	115
06. プロジェクト・外部資金	117
07. その他	119

参考（資料集） 122

岩手大学の復興支援に関する主な出来事	122
大学三陸復興推進機構規則	128

ご挨拶



新たな「地域連携」の在り方を期待する

岩手大学学長 岩渕 明

従来の三陸復興推進機構と地域連携推進機構を統合した「三陸復興・地域創成推進機構」がスタートして2年になりますが、それぞれの部門がそのミッションに従って精力的に活動を展開してきたことに、学長として敬意を表します。

私は平成29年度も、時間の許す範囲で機構主催の行事に積極的に参加しましたが、地域自治体や地域住民等、多くの人がそれぞれの立場から岩手大学に期待していることを、強く感じました。特に、学生がそれぞれの地域に入り、住民と協同作業をしてきたことへの感謝の言葉には驚きました。

平成30年度には釜石キャンパスに水産系教育研究棟を建てることを決定しましたが、これは、これまでの釜石市や岩手県との連携の賜物でもあります。陸前高田市の協力のもと、立教大学と「陸前高田グローバスキャンパス」を設置し、活動していることも地域連携の成果です。また、9月に開催したシニアカレッジには全国から約30名の参加者があり、大学の現状やテーマに沿った一週間にわたる講義は、まさに社会人学び直しの好例です。同様に12月に東京で開催した震災復興の活動報告会では、被災地の復興状況の変化に対応した学生ボランティア活動を含む本学の活動に関心が寄せられ、「生」の状況を伝えていく役割を岩手大学が担い続けるべきであることを感じました。加えて、平成28年台風第10号による災害を通じ、学校の危機管理の重要性もあらためて注目されました。更には、平成25年から継続実施しているCOC事業やCOC+事業も、地域連携そのものです。

平成29年度に一年かけて準備を進めた「銀河オープンラボ」が、平成30年5月に開所式を迎えます。これまで岩手大学は、地域共同研究センター、盛岡市産学官連携研究センター（コラボMIU）、ものづくり研究棟と、地域企業との産学共同研究の場を整備してきましたが、今回の銀河オープンラボは、研究成果を確実に社会実装するための拠点となります。製品開発の研究開発の場として地域中小企業の利用が期待され、県内関連組織と連携しながら学内研究者の研究融合を目指すオープン・イノベーションを行う場であります。

先日、東京で開催された日独学長会議に出席しました。両国のいずれの大学も自分の強みを強化することを大学戦略の重要課題に挙げていました。あらためて岩手大学の強みを考えてみますと、結局は「地域連携」であると強く再認識しました。国立大学法人化の際に校是として掲げた「岩手の大地と人とともに」のとおり、INSなどの産学官民の強固な人的ネットワークを活用し、岩手県の実況に則した地域連携が岩手大学の強みです。

本学における地域連携は、社会の環境変化に対応して変わってきました。伝統的な工学系の技術移転を中心とした産学連携に加え、震災を契機に、あらゆる産業に関わる復興支援、あるいは一般市民を対象にした学び直しやコミュニティ創生支援等、分野拡大しております。従って、全学を挙げた震災復興活動を通じた地域連携は他大学にはない特徴的な活動であり、それを教育・研究に活用していくことこそ岩手大学の使命です。平成29年度の大学院改組に伴う地域創生専攻の新設は、まさに地域連携における人材育成に主眼を置いた教育展開の第一歩であります。

三陸復興・地域創生推進機構は一生懸命取り組んでおりますが、機構の部門ごとに進める活動では、更なる発展は限界があります。例えば、ボランティアや地域課題研究、あるいは演奏会など学生に関わる活動に対して、教育推進機構、研究推進機構と連携・補完して、あるいはリードしながら地域との窓口として大学全体の地域連携を強化することが今後とるべき方向性と考えています。地域貢献を標榜している岩手大学にとってふさわしい地位を占めるためにも、客観的指標となる地域貢献ランキング（日経グローバル）の評価項目を精査し、全学で対応を図ることも必要です。機構の枠を超え部署を横断し、教育、研究、国際交流あるいは県内の各種委員会委員などの活動を総括的にまとめた「岩手大学地域連携白書」のようなものを作成することから始めてみるのも良いでしょう。大学の持つ多様な機能を活用しながら地域の発展に寄与することが、日本あるいは世界に影響を与え、第3期の目標であるグローバルな大学作りに帰着すると確信しております。



釜石キャンパス看板除幕式の様子

説明



2年目の三陸復興・地域創生推進機構の歩み ー復興活動から学び、地域創生に活かすー

三陸復興・地域創生推進機構長 菅原 悦子

I はじめに：2年目の機構の取り組み

平成28年、復興活動を基盤とし、全学をあげて復興と地域創生に取り組む新たな組織として三陸復興・地域創生推進機構を開設し、2年目を迎えました。岩手大学は東日本大震災以降、被災県にある地域の拠点大学として、地域の復興推進・支援に重要な役割を果たしてきました。この復興活動は本学に託された使命（ミッション）であり、岩手県にとどまらず、世界に共通する課題であるとの認識から、継続していく必要があると考えています。本機構では『地域の中核的学術拠点として、東日本大震災からの復興を着実に前進させ、その上で地域の持続的発展を目指す“地域創生”を実現していくため、「知の創出機能」の充実・強化を推進する。』を戦略として掲げています。本報告書では、2年目の各部門の取り組みや自治体から派遣された共同研究員等の活躍についてご紹介し、ご理解とさらなるご支援をお願いするものです。本文では、2年目の主な機構の取り組みを紹介します。

2 釜石サテライトから釜石キャンパスへ

6月に釜石サテライトは釜石キャンパスへ名称変更することにし、開設記念フォーラムを実施しました。4月から本学大学院総合科学研究科「地域創生専攻地域産業コース水産業革新プログラム」が新設され、平成28年4月に開設されている農学部「食糧生産環境学科水産システム学コース」の学生とともに、釜石に居住し教育を受けることになり、釜石キャンパスの開設となりました。本学では釜石市の協力により、震災直後の平成23年10月より復興活動の拠点として釜石サテライトをスタートし、教育ボランティアや心のケア等に取り組み、平成25年には平田地区に三陸水産研究センターを設置し、サテライトの充実に努めてきました。平成30年度末までには教育棟も新設されることになっており、キャンパス機能はさらに充実します。釜石キャンパスと機構はより一層連携して、人材育成や地域創生に貢献していきます。

3 地方創生に向けた岩手三陸連携会議との連携協力協定の締結

9月には三陸沿岸13自治体で構成され、広域で三陸創生を目指している岩手三陸連携会議と地方創生に向けた連携協力協定を締結しました。三陸沿岸地域では、震災後、復興道路や港湾の利活用や観光振興、三陸ブランドの構築等、広域で取り組むべき多様な課題があります。本機構では、これらの地域ニーズに沿って各種事業を展開したいと考え、岩手三陸連携会議と連携協力協定を締結しました。

4 地域連携フォーラム（盛岡市・釜石市・八幡平市）と共同研究員の活躍

本機構では自治体等との連携を深め、新たな地域創生モデルの構築のための政策提言なども目指しています。平成29年度も協定自治体である盛岡市、釜石市、北上市、久慈市、八幡平市から市職員を共同研究員として派遣していただきました。共同研究員の取り組みを中心に紹介する地域連携フォーラムを、例年11月に開催している盛岡市に加え、12月釜石市、2月八幡平市でも実施しました。盛岡市では本学発ベンチャー企業の健康長寿実現に向けた商品開発や本学教員の医薬品産業分野での先進的な研究等を紹介しました。釜石市では地元企業と本学教員との共同研究成果等、震災から復興や地域創生につながる多くの産学官連携事例や研究成果を発表することができました。八幡平市では地元企業との連携による商品開発、学生による防災教育や観光振興についての研究事例を紹介しました。特に、八幡平市では多数の地元高校生の参加もあり、機構の取り組みを広く周知できたこと等、今後のモデルとしたい地域連携フォーラムであったと思います。

5 学校防災に関する岩手県教育委員会・岩泉町教育委員会との協定締結

平成28年8月の台風第10号による岩手県での被害は震災に続く大きなもので、本機構では多数の部門が連携して地域への支援に迅速に取り組み、これまでの復興活動で学んだ成果を十分生かすことができました。この成果をさらに発展させることを目指し、本機構の「地域防災教育研究部門」（地域防災研究センター）は、岩手県教育委員会・岩泉町教育委員会と連携し、岩泉町内の学校被害調査を実施し、その成果を「学校用参考リーフレット：2016年台風第10号豪雨災害の教訓を踏まえ～学校防災体制の充実に向けて～」にまとめ、発行しました。本リーフレットを活用し、防災教育を充実させるとともに、学校防災分野における教育・研究や啓発活動をより推進するため、両教育委員会と協定を締結しました。12月に開催された首都圏向けの機構報告会の「平成28年度台風第10号被害と防災教育」をテーマにした講演で、着実に成果を上げていることが報告されました。

6 30年度の展望：「総合科学研究科地域創生専攻」「COC＋事業」との連携強化

4月、本学の研究科が一体となった「総合科学研究科」が創設され、総合科目として震災復興・地域創生に関連する科目が必修となり、「地域創生専攻」では地域インターンシップが実施される等、本機構との連携強化が期待されています。そこで、本機構では「地域創生モデル構築支援事業」を創設し、機構の活動成果を教育分野に還元する仕組みを構築しました。また、地元企業との共同研究ニーズにこたえるため、研究者にスポットをあてた研究シーズ集や動画を作成し、地域企業との新たな産学連携の開拓にも取り組みました。また、学生が積極的に地域課題を研究テーマとして取り組む体制整備のため、「COC＋事業」で実施してきた地域課題解決プログラムを、本機構が継承することにしました。更に、学生が自ら地域課題を発見し、地域をフィールドとして自主的活動に取り組むプラットフォームの立ち上げの検討も終了し、平成30年度本格始動する計画です。平成30年度も、本機構は地域創生を先導する人材育成に寄与し、持続可能な地域社会の創生に着実に貢献したいと考えています。

01 岩手大学三陸復興推進機構・地域創生推進機構について

岩手大学では東日本大震災後、「岩手の復興と再生に」をスローガンに掲げ、全学組織として「岩手大学三陸復興推進機構」を立ち上げた。三陸復興推進機構は、被災した三陸沿岸地域の復旧・復興支援活動に全学体制で取り組んできましたが、復興はまだ、道半ばである。一方、震災から7年が経過し、三陸沿岸地域のみならず、県内の自治体は、急速な人口減少やグローバル競争の中で産業衰退など、多くの問題を抱えているのが現状である。

本学では、これからの課題に対処すべく、平成28年4月に新たに「三陸復興・地域創生推進機構」を設置した。これまでの地（知）の拠点として本学の教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元に取り組んできた「地域連携推進機構」と三陸の復旧・復興支援に取り組んできた「三陸復興推進機構」を一体化し、総力をあげて取り組みを強化していく。「三陸復興・地域創生推進機構」は、地域創生、人材育成及びなりわい再生に取り組む「実践領域」と地域特性を生かした教育・研究の推進を図る「教育研究領域」の2つの領域から構成される。

それぞれの領域は、地域ニーズに応じていくとともに、その教育研究の成果を大学院総合科学研究科地域創生専攻等における学生の教育・研究に反映させていき、地域創生を先導する人材の育成や持続可能な地域社会のまち・ひと・しごと創生の実現を目指し、教育研究及び社会貢献の推進に取り組んでいく。

実践領域とは

実践領域は、東日本大震災の復興・復旧支援活動に様々な分野から継続的に取り組む「三陸復興部門」、民間企業や自治体等と岩手大学を結ぶ窓口として、金融機関を含む産学官民金ネットワークの構築、学内研究シーズと地域とのマッチングなどを行う「地域創生部門」、地域における生涯学習の推進、社会人への学習機会の創出に取り組む「生涯学習部門」の3つの部門から構成され、①被災地のニーズに沿った復興支援活動、②地（知）の拠点としての教育研究成果や知的資産の地域への普及・還元、③岩手大学が有する知的資産を用いた地域における生涯学習振興を図っていく。

教育研究領域とは

教育研究領域は、「ものづくり技術教育研究部門」、「三陸水産教育研究部門」、「地域防災教育研究部門」、「平泉文化教育研究部門」の4つの分野によって構成されている。各部門は全学の教育研究施設であるそれぞれの研究センターがその業務を担い、岩手県における地域特性を生かした専門領域の教育・研究の推進を図っていく。

三陸復興・地域創生推進機構は、このように実践領域と教育研究領域の取り組みを推進することにより、教育研究領域の成果を基礎とし、実践領域での取り組みや課題解決で導かれた知見を地域創生専攻等の教育研究に還元していく。

三陸復興・地域創生推進機構組織図



02 岩手大学三陸復興推進機構・地域創生推進機構の取組

(1) 三陸復興部門

部門長 後藤 尚人（人文社会科学部 教授）



旧三陸復興推進機構から引き継いだ「学習支援班」「ボランティア班」「いわて高等教育コンソーシアム連携班」「心のケア班」「被災動物支援班」「地域コミュニティ再建支援班」「ものづくり産業復興推進班」「農地復興班」「園芸振興班」「農林畜産業復興総合計画班」の10班から構成されている。

釜石サテライト及び久慈、宮古、大船渡エクステンションセンターと連携して、三陸地域をフィールドとした各種復興推進活動に取り組んでいる。

① 学習支援班

学習支援班は、教育委員会、NPO 団体などと連携しながら、被災地の小中学生を対象とした学習支援や居場所づくりへの支援などを実施している。

活動テーマ
と
概要

- ・長期休業中の児童への学校施設開放支援
- ・小中学生の交流事業
- ・高齢者を対象とした生涯学習支援
- ・中学生への学習支援

代表者 教育学部：岩木 信喜
担当者 教育学部：遠藤 孝夫、佐々木 全
教育学研究科：高橋 和夫

- 長期休業中の児童への学校施設開放支援：体育館を利用した遊びなどを通じた学校施設開放。
- 小中学生の交流事業：少年リーダーを育成することが目的であるが、H29 年度は実施しなかった。
- 高齢者を対象とした生涯学習支援：高齢者への生涯学習の場の提供が目的であるが、H29 年度は実施しなかった。
- 中学生への学習支援：長期休業期間の学習支援活動。

活動内容

● 長期休業中の児童への学校施設開放支援

釜石市立唐丹小学校は、東日本大震災で校舎が津波の被害に遭い、場所を移し、プレハブの校舎で学んでいた。校庭の面積も少なく体育館は隣接する中学校と共用しているため、児童が活動する場所や時間にかなりの制約がかかっていた。このような状況を踏まえ、釜石市教育委員会からの依頼を受け、学生たちが開放された体育館を使用して子どもたちが伸び伸びと遊ぶことができるように学校施設開放支援に取り組んだ。子どもたちの安全に配慮しながら、子どもたちが遊びたいことを優先させ、ドッジボールやバドミントンなど様々な遊びを行った。なお、唐丹小学校は平成29年2月20日から新しく建設した校舎で授業を開始している。

実施期間：平成29年8月8日（火）

平成30年1月11日（木）、12日（金）

参加児童：延べ68名

ボランティア学生：延べ52名



体育館でドッジボール（小学校）



最後にみんなでハイタッチ（小学校）

● 長期休業中の生徒への学習支援

三陸復興・地域創生推進機構に共同研究員として受け入れている釜石市職員の仲介により、釜石市立大平中学校から生徒への学習支援の要請があった。大学生が中学生に教えることで生徒の学力及び学習意欲の向上を図るとともに、交流を通して高等教育機関へ興味関心を持ち将来の選択肢を広げてほしいという狙いがあった。勉強を教えるだけでなく、一緒にお昼ごはんを食べ、最後の授業時間にはスポーツなどをして交流を深めた。終了後にボランティア学生に対してアンケートを実施し、特に教員を志望する学生にとって、普段関わるのが少ない沿岸の中学生に勉強を教えるとともに交流できたことは貴重な体験となっていることが窺えた。

実施期間：平成29年8月8日（火）、10日（木）

：平成30年1月9日（火）、11日（木）

参加生徒：延べ153名

ボランティア学生：延べ52名



開講式で披露された大平ソーラン（中学校）



学習支援の様子（中学校）

【平成30年度の活動予定】

- 長期休業中の児童への学校施設開放支援
釜石市教育委員会の依頼により、開放された学校で宿題の学習補助や外遊び、体育館を利用した遊びなどを補助する学校施設開放に取り組んでいく。
- 小中学生の交流事業
釜石市教育委員会が主催する未来の釜石を担うリーダーを育成する「少年リーダー交流キャンプ」等において、教員養成課程の学生を中心に事業の運営に取り組む。
- 高齢者を対象とした生涯学習支援
大槌教育委員会、医療法人あかね会及びNPO 法人ソーシャルハーツの依頼により、大槌町内の高齢者向けサービスセンターの入居者対象に生涯学習の場の提供を行う。
- 中学生への学習支援
釜石市教育委員会との連携により、被災した学校を中心に長期休業期間に学習支援活動に取り組む。

② ボランティア班

ボランティア班は、岩手大学三陸復興サポート学生委員会の学生が中心となり、宮古市、釜石市および陸前高田市のボランティアセンターなどと連携し、仮設住宅への訪問、地域のイベント支援、子どもの休日活動など、地域のニーズに応じた活動を行っている。

活動テーマ
と
概要

三陸復興学生活動組織の独立支援

代表者 教育学部：名古屋 恒彦
担当者 学生支援課：今野 和男、植松 千尋
地域連携・COC 推進課：早川 浩之

ボランティア班では、東日本大震災発災後の平成 23 年度より、陸前高田市、宮古市、釜石市を中心に学生を組織し、ボランティア派遣を行ってきた。これらの活動を経て平成 28 年度から、三陸復興サポート学生委員会（サークル）岩手大学 YMCA（同好会）として活動が独立した。両団体とも班員が両団体の顧問となり活動している。

活動内容

● ボランティア活動の継続支援等

学生委員会を中心に、陸前高田市、釜石市での仮設住宅での活動、子ども支援活動に関して、学生委員会の自主的活動を前提に、交通手段の確保、関係団体との連絡調整などの支援を行った。ボランティア班では、東日本大震災発災後、ボランティア活動に本学学生が関心をもちやすくするために、これまでも継続してさまざまな啓発活動を行ってきた。発災から 6 年を経過した平成 29 年度においても、学生委員会の活動を支援する形で、三陸復興サポートスタディツアー（平成 29 年 5 月 21 日（日））を実施し、連携している沿岸団体のご協力を得て釜石市、陸前高田市を見学をした。



釜石市でのサロン活動の様子



陸前高田市での子ども支援活動の様子



陸前高田市での子ども支援活動の様子



釜石市でのサロン活動の様子

● 外部団体との連携

ボランティア班では、陸前高田市、釜石市、宮古市などで NPO 法人等と連携し、学生委員会、岩手大学 YMCA の活動を継続している。学生団体がサークルや同好会として独立したことから、学生たちと沿岸の NPO 法人等との直接のやりとりがいっそう活発になった。そのような中で、ボランティア班教職員も実務的な連絡や会議への出席等により、NPO 法人等との連絡・連携を深めた。

● 学生活動への経済的支援

三陸復興サポート学生委員会や岩手大学 YMCA がサークルや同好会活動として独立したことから、独自に活動資金を獲得することを、ボランティア班として支援することとした。特に三陸復興サポート学生委員会に対しては、各種助成金の応募に当たり、書類作成への助言等を班員が行い、学生の自治的活動の充実を図った。また、ボランティア班としても、三陸復興・地域創生推進機構プロジェクトへの応募を行い、これらの活動に学生委員会の参画を得た。

【平成 30 年度の活動予定】

ボランティア班は、班としての活動は、平成 29 年度をもって終了するが、今後も継続的に学生委員会及び岩手大学 YMCA の活動は学生活動として継続する。旧班員がこれらの団体を支援する沿岸の NPO 法人等と連携をとるなどしながら、引き続き学生による復興活動を支援をしていく。

③ いわて高等教育コンソーシアム連携班

いわて高等教育コンソーシアム連携班は、いわて高等教育コンソーシアム連携校（岩手大学の他、岩手県立大学、岩手県立短期大学部、岩手県立大学宮古短期大学部、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、盛岡大学短期大学部、放送大学岩手学習センター、一関工業専門高等学校）と連携し、被災地の復興を担う中核的人材の育成を推進している。

活動テーマ
と
概要

「地域リーダー育成プログラム」の充実と発展

代表者 人文社会科学部：後藤 尚人
担当者 人文社会科学部：藤本 幸二
教育推進機構：脇野 博、江本 理恵
総務部総務広報課：鈴木 一寿、佐藤 美樹、工藤 朗、檜木 裕朗

いわて高等教育コンソーシアムで平成 27 年度から実施している「地域リーダー育成プログラム」は、多様な局面で地域の中核を担う人材の育成を目指している。当該プログラムは、コア科目の開講と、地域課題解決プロジェクトから成り、コア科目の必要単位数を満たし、かつ地域課題解決プロジェクトを遂行した学生には「地域を担う中核的人材認定証」が授与される。
当該プログラムの充実と発展に向け、コア科目及び地域課題解決プロジェクトの見直しや拡充に取り組み、よりよい「地域リーダー育成プログラム」の展開を目指す。

活動内容

● 地域リーダー育成プログラム 「地域を担う中核的人材」の認定

地域を担う中核的人材認定申請要件（コア科目 4 科目 8 単位以上修得、地域課題解決プロジェクトの遂行）を満たした学生から認定についての申請があり、審査に合格した以下の学生 2 名を「地域を担う中核的人材」として認定し、認定証を授与した。「地域リーダー育成プログラム」開始以降初の「地域を担う中核的人材認定者」である。



認定証授与式

<認定証授与者>

岩手大学農学部生物産業科学コース 3 年
吉野 明子
岩手大学教育学部日本語・地域文化コース 4 年
梅木 紳太郎



プログラム開始以降初の認定者（2名）

● コア科目 ボランティアとリーダーシップの実施（H29.9.16～9.20）

「ボランティアとリーダーシップ」は、ボランティア活動に関する知識や技能、リーダーの役割や組織の動かし方等に関する講義や実習を通じて、様々な状況に対応し得る能力と知見を修得することを目的とした合宿形式の特別講義（前期集中講義）である。今年度の履修学生は 55 名（岩手大学 50 名、盛岡大学 2 名、一関高専 2 名、長崎県立大学 1 名）。
山田町にある岩手県立陸中海岸青少年の家を拠点にボランティアの基礎知識、災害ボランティアの意義コミュニケーション能力、フォローアップの必要性等を座学で学んだ後、それらの学びを実践すべく「ボランティア実習」として、山田町の伝統ある「大杉神社神幸祭」における「十二支巡行」（十二支の干支を模したものを持って練り歩く）を担当し、会場周辺の清掃等、地元、山田町の方々と交流もできた。
本特別講義への参加を通じて、学生の様々な意識の変化や成長がみられた講義となった。



ボランティア実習：山田町
「大杉神社神幸祭」の十二支巡行



講義最終日 集合写真



長崎県立大学 西村先生講義
「コミュニケーショントレーニング」

● コア科目 いわて学Ⅱの実施（H29.9.30～11.18）

これまでの「いわて学Ⅱ」では、平泉を中心とした岩手の歴史と産業について取りあげてきたが、今年度はテーマを一新し、盛岡の歴史や地理について学ぶことを目的とし、サブタイトル「もりおか学」として、集中講義形式で開講した。岩手大学・盛岡大学・富士大学・岩手県立大学の 4 校の学生から構成する履修登録者は 63 名であった。
講義では、土器や土偶の時代から、古代の志波城や近世の盛岡城下町に至る歴史、盛岡の地形や地質、北上川と雫石川のダム役割等について学んだ他、野外調査・施設見学之机を合計 4 回設けた。受講者は、講義で学んだ内容を自分の目で確認しながら、町並みに微かに残る歴史について理解を深めた。



講義風景



四十四田ダム内部の見学



史蹟・志波城の見学

● その他コア科目の実施

上記以外のコア科目開講状況は以下の通りである。

- ・いわて学Ⅰ「三陸から知るいわて」(H29.5.10～6.18)
履修登録者 86名(岩手大28名、県立大12名、富士大3名、盛岡大43名)
- ・地場産業・企業論(H29.5.10～7.5)
履修登録者 5名(岩手大2名、県立大3名)
- ・グローバル基礎研修「平泉の世界」(H29.8.16～8.19)
履修登録者 19名(岩手大18名(うち留学生1名)、盛岡大1名)
- ・危機管理と復興(H29.10.28～12.16)
履修登録者 23名(岩手大20名、県立大1名、医大2名)
- ・グローバル基礎研修「三陸ジオパーク・被災地復興視察研修」(H30.2.15～2.23)
履修登録者 26名(岩手大26名(うち留学生5名))



うれいら商店街 地域住民からのヒアリングの状況



学生たちが運営した
「三陸鉄道ダンボールクラフトコーナー」



三陸鉄道とイトーヨーカドーの
オリジナルコラボ商品



東北かけはしプロジェクトで
これまでの活動を紹介する大学生

● 地域課題解決プロジェクト西和賀地区における活動

住民のおおよそ半が高齢者となり、過疎化が進む岩手県西和賀地区をフィールドとした新たな地域課題解決プロジェクトとして、“地域創生～いつまでも住み続けたいと思うまちづくり～”をテーマに西和賀高校の生徒といわてコンソ連携校の学生がともに考え、広い意味での地域課題解決に向けた取り組みを開始した。

今年度は岩手大学生6名、岩手県立大学生1名、盛岡大学生1名の計8名が10月から月に1回のペースで西和賀高校を訪問し、高校生とともに意見交換を行った。

意見交換の中で西和賀地区の特色のひとつである「雪」を生かしたPR手法として雪上運動会の開催が提案され、平成30年1月21日(日)に西和賀高校グラウンドを会場として実現した。



かんんじきのはき方を考える参加者



大学生と西和賀高校の生徒で意見交換



雪上運動会の様子

【平成30年度の活動予定】

地域リーダー育成プログラムを継続し、「地域を担う中核的人材」の育成を推進する。

平成30年度はいわて高等教育コンソーシアム設立から10年という節目の年であり、これまでの活動についての総括、評価が実施されることとなっている。この総括を結果を踏まえ、地域リーダー育成プログラムの充実と発展に向けた検討を行う予定である。



龍泉洞の水 工場見学



毛越寺にて



中尊寺護国蔵の前で

● 地域課題解決プロジェクト さんてつ活用推進チームの活動

三陸鉄道の利用自体が観光目的となるような企画を提案することで、さんてつの有効活用方法を探るプロジェクトであり、平成28年度から継続して活動している。

平成29年度は、昨年度からの継続企画として、さんてつ魅力再発見マップ(南リアス線編)を制作した他、3鉄まつり(H29.9.2)運営補助ボランティアやJR山田線盛岡宮古間運転再開記念イベント(H29.11.5(日))への参加等、三陸鉄道のPRに関する様々な活動を展開した。

さらに、㈱イトーヨーカ堂様からお誘いを頂き、平成30年3月3日(土)には、㈱イトーヨーカ堂「東北かけはしプロジェクト」(会場:イトーヨーカドーアリオ葛西店)に参加し、これまでの活動を紹介するステージ発表等を行う機会を得た。東北地方の現状、並びにその中にある三陸鉄道を関東圏の皆様にご紹介いただく大変貴重な機会となった。



さんてつマップ

④ 心のケア班

心のケア班は被災者が心の安定と健康を増進し、復興段階における様々なストレスを乗り越えていけるようにリラクゼーションセミナーや市民講座の開催、三陸沿岸の県立高校へのスクールカウンセリングの派遣、支援者への支援などを行っている。また、釜石サテライトに「こころの相談ルーム」を設置し、カウンセリング相談を行っている。

活動テーマ
と
概要

被災者および支援者への長期的なこころのサポート

代表者 人文社会科学部：山口 浩
担当者 人文社会科学部：織田 信男、松岡 和生、奥野 雅子、藤原 孝至、廣瀬 直美
教育学部：阿久津 洋巳、山本 奨、岩木 信喜
保健管理センター：立原 聖子、早坂 浩志
三陸復興・地域創生推進機構：佐々木 誠
三陸復興支援課：木村 隆行

- 上記の活動テーマを推進するために、
1. 被災者および支援者への支援に関わる計画立案・実施・調整
 2. 釜石サテライトにおける「こころの相談ルーム」の運営
 3. 心のケア班主催「市民講座」の実施
 4. 沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援
 5. 心のケアに関わる心理学的基礎研究
 6. 被災地の長期的支援に関わる臨床心理士養成のための沿岸研修活動の実施などに取り組んだ。

活動内容

● 1. 被災者および支援者への支援に関わる計画立案・実施・調整

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の佐々木誠・特任准教授（臨床心理士）が被災者および支援者への支援計画の立案・実施・調整にあたった。具体的には、釜石サテライトを拠点とし、関係のできた諸団体と協力し、支援者団体への連絡会議に参加（8回）、外部団体との打合せ（5回）、学会での支援活動の報告（3回）、被災地での支援に関わる復興庁への報告と意見交換（1回）、メディア取材に関わる被災地およびトラウマと喪失に関する意見交換（1）、震災遺児のサロンへの参加（2回）、釜石市で被災した子どもの養育支援事業への協力（10回）を行い、情報収集、支援計画立案、その実行をし、また支援の現状について報告を行った。

● 2. 釜石サテライトにおける「こころの相談ルーム」の運営

佐々木誠・特任准教授が「こころの相談ルーム」を運営し、被災者へのカウンセリング、支援者へのコンサルテーション、沿岸地区に派遣されているスクールカウンセラーへのスーパービジョンなどを行なった（件数として61件）。また、必要に応じて岩手大学こころの相談センターでも同様の支援を行った（11件）。平成29年度は、他の専門機関（病院・教育委員会）からのリファーや紹介を受けたケースがあった。また、遠方からの来談や、トラウマへの心理療法を希望する来談者が増えた。地域の心理支援リソースとしての位置づけが徐々に浸透してきていることが確認できた。

● 3. 心のケア班主催「市民講座」の実施

被災地において心のケアに関わる市民講座を以下のとおりに実施した。
H30/1/20（土）宮古市「悲しみを抱える・悲しみを支える」（佐々木誠）
H30/1/27（土）釜石サテライト「自分の怒りとつきあうヒント」（佐々木誠）
H30/2/3（土）陸前高田「相手を支える話の聴き方」（佐々木誠）
H30/2/14（水）大船渡「子どもの可能性を大きくする心理学的方法」（織田信男）
H30/2/16（金）宮古「リラクゼーションでストレスを乗り越えよう!」（山口浩）
H30/2/28（水）釜石サテライト「心理学の立場から宗教を考える」（奥野雅子）
の6回を実施し、合計126名が参加した。



H30年2月14日（水）の市民講座の様子（織田信男教授）

● 4. 三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援

岩手県教育委員会の要請に従って、県立釜石高校へ1名（立原聖子）派遣し年間10回の支援を行い、また県立大槌高校へ4名（織田信男、早坂浩志、山本奨、山口浩）派遣し年間合計39回の支援を行った。当該学校で、生徒や保護者の相談、また教職員へのコンサルテーションに携わり、講話も担当した。

● 5. 心のケアに関わる心理学的基礎研究の遂行

1. 災害トラウマ及びPTSD発症メカニズムの心理学的基礎研究に関しては、以下の研究が進められ一定の研究成果を得た。光脳機能イメージング（fNIRS）装置を用いた研究として：
(1)fNIRS計測における標準的データ解析手法を開発、提案し、その成果は、心理学専門書『視覚実験研究ガイドブック』（朝倉書店、2017年度出版）に掲載された（阿久津洋巳）。
(2)fNIRSによって、国際情動画像刺激（IAPS）暴露時の情動喚起に伴う皮質活動を刺激特性とストレス対処に関わる個人差の観点から検討し、抑うつ、悲観主義傾向などの被ストレス特性の高い群に特有の前頭葉賦活パターン等を見いだした（阿久津裕巳、松岡和生）。
(3)fNIRSを用いて、視覚イメージの物体・空間処理の課題特性とイメージ喚起の個人特性に応じて後頭葉の脳血流動態に特徴的なパターンがあることを確認した。これらの研究成果は関連心理学会において発表予定である。
2. 視線計測装置を用いた研究として：
(1)アイトラッカー（視線活動計測装置）によって抑うつ特性、高不安特性に特異的な眼球運動特性があることを確認した。
(2)強い知覚的イメージが喚起されやすい者のイメージ想起時に特異的に生起する視線活動の計測に成功した（研

⑤ 被災動物支援班 小動物グループ／大動物グループ

被災動物支援班は、移動診療車「ワンにゃん号」を出動させ、被災動物に関する「なんでも相談会」、沿岸地域での臨床獣医師を対象とした「高度獣医療セミナー」、「ペット同行避難訓練についての勉強会」などを行っている。また、被災地での畜産業に対する支援として、被災地の産業動物に対する放射性物質の影響調査や高度獣医療を実施するとともに獣医学科課程学生の臨床教育にも活かしている。

活動テーマと概要

動物と共に生きる

代表者 農学部：佐藤 れえ子
担当者 農学部：岡田 啓司、宇塚 雄次、山崎 真大、井口 愛子、内田 直宏、小林 沙織
三陸復興・地域創生推進機構機構：山崎 弥生

<小動物グループ>

①地元獣医師や拠点保健所、被災動物支援ボランティア団体、被災地住民からのニーズ調査
②動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、処方食の提供
③岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催

<大動物グループ>

④福島第一原子力発電所事故旧警戒区域内の牛に対する繁殖検診と牛群管理

活動内容

<小動物グループ>

● 動物移動診療車「ワンにゃん号」における被災動物の診療、岩手県ペット同行避難訓練および同行避難シンポジウム参加

- 動物愛護フェスティバルにおける「動物なんでも相談会」の開催（9月23日）。
- 宮城県蔵王キツネ村への「ワンにゃん号」出動（7月22～23日）。キツネ村オーナーより依頼を受け、展示動物の健康診断と調査を行った。
- 岩手県合同防災訓練におけるペット同行避難訓練（8月26日）に参加し、「ワンにゃん号」の展示とペット同行避難の啓発活動を行った。ペットフード会社マースジャパンリミテッドの協力を得、ペットフードやペットシートなどの入ったペット防災袋を避難訓練参加者に配布した。
- 岩手県主催のペット同行避難シンポジウム（11月3日）から依頼を受け、パネリストとして被災動物支援班の活動を発表した。

- 研究成果は来年度の日本心理学会第82回大会，Neuroscience meeting で報告予定)。以上の研究成果はPTSD のイメージフラッシュバックの基礎メカニズムの解明につながるものである。
- 災害トラウマ緩和のためのストレス対処とリラクセーションの実践技法の基礎研究として，脳波を用いたニューロフィードバックによる感情制御に関する基礎研究データの収集および訓練アプリケーションの開発を行った（山口浩）。

● 6. 被災地の長期的支援に関わる臨床心理士養成のための沿岸研修活動の実施

臨床心理士を目指す大学院生に、被災地支援について講義（臨床心理地域援助特論：佐々木誠）や現場体験を通して学んでもらった。より具体的には、H29/9/11（月）～12（火）に陸前高田市竹駒地区コミュニティセンターにて、仮設住民（参加者13名）へのタッピングタッチ研修と交流会を院生主導で実施した。また前後して、現地視察（2件）と、自主ゼミナール（2件）、引率教員による講義（1件）を実施した。これらについては、H30/3/3（土）に 陸前高田グローバルキャンパスで行われた、シンポジウム2018にて口頭発表とポスター発表の形で学生による報告を行った。



臨床心理士を目指す大学院生のR市における研修活動と交流会

【平成30年度の活動予定】

- 被災者および支援者への長期的なこころのサポートを行うために、
- 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構に特任准教授（臨床心理士）を雇用（予定）し、被災者や支援者への支援計画立案・実施・調整にあたる。
 - 釜石サテライトの「心の相談ルーム」をH30年度後期から再開運営する。
 - 被災地において、心のケアに関わる市民講座を実施する。
 - 三陸沿岸県立高校へのスクールカウンセリング支援を継続する。
 - 心のケアに係わる心理学的基礎研究を遂行する。
 - 長期的に被災地支援に係わる臨床心理士を養成するため、大学院生に講義（佐々木誠）を通して学ばせる。
 - 今までの市民講座の内容を基にした心理教育テキストを作成するといった活動を予定している。



被災動物支援班（小動物グループ）の活動（防災訓練）



被災動物支援班（小動物グループ）の活動（キツネ村での調査）

● 動物医療支援チーム VMAT 発足に向けたシンポジウム開催

東日本大震災や熊本地震などの発生に伴い、大型災害において、広域から被災地を支援することができる動物医療支援チーム（VMAT）の存在が不可欠となっており、そのために人材育成と組織化が急務である。東北ではまだ発足されていないことから、本学北桐ホールにて VMAT キックオフシンポジウムを開催した。災害動物医療研究会代表幹事である日本獣医生命科学大学の羽山伸一教授の講演や先行事例としての群馬県 VMAT の事例等を発表していただいた。また県内の獣医師会、動物愛護団体、岩手大学からパネリストをお呼びし、岩手 VMAT 発足に向けた討議を行った。参加人数（一般も含む）65 名。

● 岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催

1. 岩手小動物臨床研究会、合計 6 回開催。動員獣医師数のべ 40 名、学生 30 名。
2. 岩手県より依頼を受け保健所勤務の獣医師向けセミナーを開催（3 月 10 日）。参加獣医師 30 名。
3. 被災地における開業獣医師から依頼を受けた症例の検査・研究と学術誌への発表
(H Shino, Y Otsuka-Yamasaki, T Sato, K Ooi, O Inanami, R Sato and M Yamasaki. J Vet Intern Med. 2018 32:165-171.)

<大動物グループ>

● 福島原発被災地域における低線量持続被ばく牛の学術的調査（別紙参照）

● 定期総合調査の実施

第 13 回（6 月 3 日、4 日）、第 13 回（9 月 9 日、10 日）、第 13 回（12 月 2 日、3 日）に、帰還困難区域にある 3 牧場で定期総合調査を実施した。

● 疾病牛の検査・診療・解剖

随時血液検査や診療および解剖を実施した。

● シンポジウム開催

岩手大学と北里大学の教員が中心となっている、一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会が主催するシンポジウムの主催者側として関わった。2018 年 3 月 21 日、福島市にて開催。

▼一般社団法人
原発事故被災動物と
環境研究会 HP



▼facebook



被災動物支援班（大動物グループ）の福島での活動



ドキュメンタリー映画
「被ばく牛と生きる」ポスター



被災動物支援班（大動物グループ）の公開シンポジウム

● 農家懇談会の実施

帰還困難区域内で牛を継続使用している方々と、今後の方針について、11 月 26 日に仙台で話し合いを持った。

【平成 30 年度の活動予定】

小動物グループ

- ① 動物愛護フェスティバル内での「被災どうぶつ何でも健康相談会・診療」や仮設・災害復興住宅、動物保護団体などに動物移動診療車「ワンにゃん号」を派遣し、高度獣医療の提供を行い、保護動物・家庭小動物とその飼い主に対する支援を行う。
- ② 岩手小動物臨床研究会および岩手県獣医師会との共催による被災地の臨床獣医師向け「高度獣医療セミナー」の開催。
- ③ 岩手県と連携したペット同行避難訓練の実施。
- ④ 災害動物救援チーム 岩手 VMAT 講習会の主催 他

大動物グループ

福島原発被災地域における低線量持続被ばく牛の継続調査と牛の健康管理および農家支援の実施。

⑥ 地域コミュニティ再建支援班

地域コミュニティ再建支援班は、被災地の地域コミュニティの再建を総合的に支援している。被災地のニーズ調査、仮設住宅調査、災害公営住宅並びに集合移転地におけるコミュニティ調査などの各種調査のほか、被災地の復興後のまち・むらづくり計画や、復興祈念公園等の計画等について、住民主体の計画案の作成や計画策定後の管理運営を行っている。

活動テーマ
と
概要

地域コミュニティの再建および復興まちづくりに関する諸活動

代表者 農学部：広田 純一
担当者 人文社会科学部：竹村 祥子、五味 壮平、杭田 俊之、
教育学部：麥倉 哲
理工学部：南 正昭
農学部：伊藤 幸男、三宅 諭、
山本 清龍（平成 30 年 2 月から三陸復興・地域創生推進機構 客員准教授）
三陸復興・地域創生推進機構：船戸 義和

被災地の地域コミュニティの再建および復興まちづくりに関して、災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援、一般被災地におけるコミュニティ形成支援、復興まちづくり支援、研修会・講演会・シンポジウム等の実施、委員会・研究会等を通じた政策提言、地域コミュニティ・被災者に関する調査研究を行った。

活動内容

● 災害公営住宅におけるコミュニティ形成支援

現在急ピッチで建設・入居が進んでいる災害公営住宅における新たなコミュニティ形成支援を行った。具体的には、行政・社協・NPO 等による支援チームの立ち上げ、入居者の顔合わせ会の実施、入居者による自治会設立準備会の設置、準備会による話し合い、自治会の設立、自治会による共同作業・懇親行事の開催支援等である。支援を行った災害公営住宅は、大槌町、山田町、大船渡市、陸前高田市の 4 市町で、合計 11 ヶ所、支援回数 172 回、延参加住民数 4662 名に上る。



大槌町松ノ下災害公営住宅の自治会役員会（2017 年 10 月）

● 地域コミュニティの再建支援および復興まちづくり支援

土地の高上げや土地区画整理事業、防災集団移転事業等がほぼ完了し、住宅や商店等の建設が進む市街地や集落で、地域コミュニティの再編や活性化に向けた支援を行った。大槌町では、町のコミュニティ総合支援室と協働して、町内を5つのエリアに分け、地域コーディネーターとアドバイザーを配置して、住民同士のつながりを作りながら、住民自治の再建に取り組む「元気なご近所づくりプロジェクト」を推進した。また、陸前高田市では、岩手大学グローバルキャンパスを通じて、岩大 E_code による「あがってかだって大作戦」等、各種の交流・研修事業を行った。その他、高田松原復興祈念公園における市民協働ワーキング、森の前地区の動く七夕の運営支援等、釜石市鶴住

居まちづくり協議会の活動支援、宮古市・鉾ヶ崎小学校まち歩きおよび歴史と文化を活かした復興まちづくり支援、野田村・都市公園におけるグラウンドワークの支援等を行った。



大槌町「元気なご近所づくり」のワークショップ（平成 29 年 7 月）

● 講演・研修・シンポジウムの実施

地域コミュニティの再建や復興まちづくりに関する各種の講演・研修・シンポジウム等を主催したり、講師・パネリストとして参加した。具体的には、災害防災学会・大槌シンポジウム（7 月、大槌町）、JSURP 震災復興タスクフォースシンポジウム（7 月、東京大学工学部：日本都市計画家協会主催）、岩手県仮設住宅支援員研修（9 月、釜石市）、災害公営住宅のコミュニティづくりに関する研修会（11 月、釜石市および山田町：岩手県委託・CLC 主催）、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構首都圏報告会（12 月、東京都日比谷コンベンションホール）、農村計画学会日韓シンポジウム（12 月、熊本市）陸前高田大学グローバルキャンパスシンポジウム 2018（3 月、陸前高田市）、東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議シンポジウム（3 月、野田村）等である。



陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム（平成 30 年 3 月）

● 調査研究、および委員会・研究会を通じた政策提言

仮設住宅および災害公営住宅において、被災者の現状や、生活再建に関する実態調査を行った。これは大槌町において震災後継続的に行っているもので、現地での報告会の開催、研究論文・レポート、新聞記事、研究会・研修会等によって、その成果を公開・還元している。また、各種の委員会・研究会への参画を通じて、震災復興・防災に関する政策提言を行った。具体的には、岩手県・東日本大震災津波復興委員会総合企画専門委員会、宮古都市計画事業鉾ヶ崎・光岸地地区土地区画整理審議会、岩手県・高田松原津波復興祈念公園有識者会議、ひょうご震災祈念 21 世紀研究機構・東日本大震災復興研究会、厚生労働省・福祉と地域づくり検討委員会等である。

【平成 30 年度の活動予定】

平成 30 年度も基本的には平成 29 年度の活動を継続して実施していく予定である。災害公営住宅のコミュニティ形成支援については、建設・入居がピークを迎える大槌町を中心として、山田町、大船渡市、陸前高田市、釜石市で実施する。一般被災地におけるコミュニティ形成支援は、大槌町のコミュニティ総合支援をはじめとして、陸前高田市、釜石市、山田町で、また復興まちづくりでは、これらの自治体に加えて、県北の宮古市、田野畑村、野田村、久慈市でも活動支援・計画支援を行っていく。更に、研修会・講演会・シンポジウム等に関しては、地域コミュニティ再建支援班主催のシンポジウムを年度末に開催するほか、国や自治体・NPO 等が主催する研修会・シンポジウム・フォーラム等にも、講師・コーディネーター・パネリストとして積極的に参画する。国や自治体・シンクタンク等の委員・研究会等を通じた政策提言も同様である。

⑦ ものづくり産業復興推進班

ものづくり産業復興推進班は、(公財) 釜石・大槌地域産業育成センター内に活動拠点（釜石ものづくりサテライト）を構えて、難削材の加工技術や CAD/CAM 技術などを地域企業に定着させるための講習会や技術相談などの取り組みを進めている。

活動テーマ
と
概要

「地域に根付くものづくり産業支援を！」

代表者 理工学部：水野 雅裕
担当者 理工学部：廣瀬 宏一
三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤、菊池 康仙、熊谷 和彦、真野 孝幸

▼ものづくり産業
復興推進部門
ものづくりサテライトHP



H29 年度、ものづくり産業復興推進班では特任研究員 2 名と、コーディネーター 1 名を、活動の拠点である「岩手大学釜石ものづくりサテライト」に配置して活動した。
昨年からは釜石・大槌地域産業育成センターからの受託事業「岩手大学釜石ものづくりサテライト」を実施し、これまでの施設運営や試作対応、講習会の実施だけではなく、定期技術相談会の実施など、地域の企業調査、地域企業との連携などにも力を入れて取り組んだ。

活動内容

● 加工技術の支援

釜石ものづくりサテライトの設備を活用して試作品等の加工図面の作成、樹脂モデルの制作、加工条件の設定および加工作業について、相談に対応し、技術指導を行うことが求められている。
平成 29 年度は、市内企業等 13 社 57 回、大槌町内企業 5 社 8 回、その他 11 社 13 回の技術相談、指導を実施した。(合計 29 社 78 回)



技術相談・技術指導

● 地域の企業のニーズ調査

地域企業が加工している素材、加工分野について訪問して聞き取り調査を行うため、ものづくり企業への訪問調査を実施した。釜石市内 9 社 19 回、大槌町内 4 社 11 回、その他地域企業 23 社 25 回、その他機関 3 機関 3 回、合計 36 社 3 機関へ 58 回の訪問調査を実施した。その結果様々なニーズが明らかとなり、4 件の外部資金獲得支援等を実施することができた。また、東日本大震災を機に釜石から撤退した企業の技術者の中に釜石へ戻って起業したいと考えている人が多くいることを聞くことが出来、今後のサテライトの方向性を定める上で知見を得た。

● 地域企業の新製品創出を支援

「釜石ものづくりサテライト」が設置される「釜石・大槌地域産業育成センター」では、定期的に地域のものづくり企業が集まって「新製品研究会（三陸テカルデ）」の会合が開かれており、釜石市で試合が開催される「ラグビーワールドカップ 2019」に向けた「お土産品作りプロジェクト」と、セルロースナノファイバー (CNF) の地産地消モデルの開発を三井物産とともに検討を進めた。
お土産物プロジェクトでは展示会用の試作サンプルの作成支援を行った。また、CNF については全国で開催されるセミナーや展示会などで情報収集を行い、新製品研究会へ情報を還元した。残念ながら CNF の地産地消モデルについては、明確な計画を作ることは出来なかった。



地域企業の新製品創出

● 地域ものづくり人材育成支援

各種の技術講習会の自主開催や、講習会・体験会等の催しの開催支援を通して、幅広く地域のものづくり人材の育成支援を行っている。
地域企業を対象に、CAD/CAM の講習会を 3 回 (4 日)、3 次元計測器講習 1 回 (1 日) を開催した。また釜石・大槌地域産業育成センターが主催する「釜石・大槌地域産業フェア」では、毎年地域の高校生に釜石ものづくりサテライトの紹介を行い、「ものづくり」にまつわる学習の機会を提供した。

【平成 30 年度の活動予定】

(公財) 釜石・大槌地域産業育成センターからの受託事業 3 年目となる H30 年度は、引き続き「釜石ものづくりサテライト」の施設運営を行うが、運営体制を変更 (2 名体制へ) することから、今まで以上に地域企業と大学との共同研究の締結が重要になってくる。試作対応、講習会の実施にあわせて、平成 29 年度に設立出来なかった「切削加工研究会」を地域企業とともに立ち上げ、地域企業との産学連携や、新製品開発支援の取り組みを加速していきたい。更に岩手県沿岸における製造業の支援の方向性についても、沿岸の様々な企業や自治体と議論を活発化していく予定である。

⑧ 農地復興班

農地復興班は、津波により土壌肥沃土が低下した農地と周辺環境において、土壌調査、水質調査、気象水文観測、堤防の沈下量調査及び植生調査を行っている。また、草地の地用再開に資するために急傾斜、石礫などの草地更新などの除染対応がとれない牧草地を対象に低減対策や利用可能時期の推定を行う。

活動テーマ
と
概要

- ①牧草地の放射性物質動態調査と低減方策の策定
- ②リサイクル技術を用いた被災農用地基盤の復興
- ③水田排水による湾内への栄養塩負荷量の推定
- ④水田の土壌の定期観測および土壌環境のリモートセンシング

代表者 農学部：山本 清仁
担当者 農学部：倉島 栄一、颯田 尚哉、築城 幹典、金山 素平、濱上 邦彦、
原科 幸爾、武藤 由子、立石 貴浩

- ①急傾斜、石礫などのため草地更新などの除染対策がとれない牧草地を対象に、放射性物質の動態調査を行う。また、それらの結果をもとに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行い、草地の利用再開に資する。
- ②カキ殻の主成分である炭酸カルシウムに着目し、リン酸を用いた土の固化処理技術を検討する。固化性能の評価と被災農用地への応用を検討するため基礎的な室内実験を行う。
- ③広田湾における栄養塩類の動態の把握のために、気仙川および小友水田排水の影響を考慮し、栄養塩負荷量の推定を定期水質観測の結果をもとに行う。
- ④盛土復旧した水田の稲の生育状況を面的に把握するために、ドローンに搭載したマルチスペクトルカメラによるリモートセンシングを行い、生育不良の原因について考察する。

活 動 内 容

● 牧草地の放射性物質動態調査と低減方策の策定

一関市、栃木県那須塩原市および福島県須賀川市において、空間放射線量率、牧草中放射性セシウム濃度および土壌中放射性セシウムの垂直分布を調査した。ベルリンで開催された第4回放射線医学と環境放射能に関する国際会議に参加し成果を発表した。システム農学会2017年度秋季大会において、連合農学研究科の学生が口頭発表を行うとともに、システム農学会誌に放射性物質汚染の実態把握に関する論文が掲載された。また、日本草地学会熊本大会において、連合農学研究科の学生が口頭発表を行った。



那須塩原市における空間放射線量率の調査

● リサイクル技術を用いた被災農用地基盤の復興

陸前高田市のカキ小屋から廃棄カキ殻の提供を受け、カキ殻を利用した土の固化処理について実験を行った。これに関連した成果を、イタリアで開催された第16回廃棄物管理と埋立地に関する国際シンポジウムにおいて、大学院生がポスター発表した。

高田地区中心市街地に関する盛土の地盤沈下測定に関して陸前高田市復興局の職員と協議した。これに関連した成果を、農業農村工学会大会講演会において学生が口頭発表した。

森林の適正管理や防災上の観点から岩手南部・沿岸地域において放置される竹林の対策を目的として、竹繊維を混合した土の力学的性質に関する実験を行い、その成果を農業農村工学会東北支部会において大学院生が発表し、奨励賞を受賞した。



陸前高田市のカキ小屋の廃棄カキ殻



カキ殻を利用した土の固化処理の実験結果

● 水田排水による湾内への栄養塩負荷量の推定

広田湾に流出する小友地区の農業排水による栄養塩負荷量を推定することを目的に用排水路の水質調査を行った。流量・水質の定期観測および水位の連続観測の結果から、HQ曲線、LQ式の作成とその精度検討を行った。また、小友地区農業排水と、同じく広田湾に流出する河川である気仙川の流量および物質負荷量との比較も行った。これに関連した成果を、マレーシアで開催された第36回IAHR国際会議と、中国で行われた国際農業技術フォーラム、陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウムにおいて発表した。

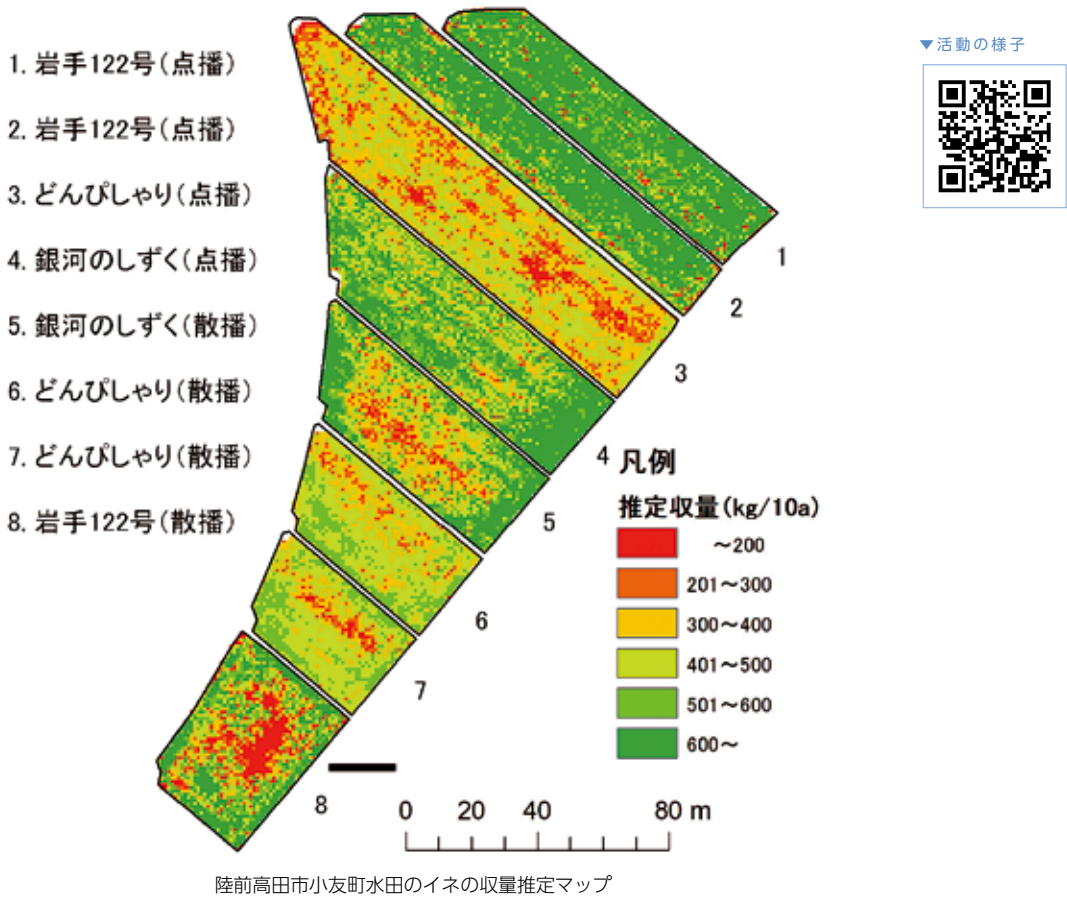


陸前高田市の用排水路における水質調査

● 水田の土壌の定期観測および土壌環境のリモートセンシング

収量低下した水田についての解決策提案のために、陸前高田市小友地区と滝沢農場にて水田の生育調査（マルチスペクトルセンサを搭載したドローンによる空撮）を行い、その活動内容について滝沢市で開催されたいわてスマート農業祭に出展し、PRした。調査結果より、幼穂形成期から穂ばらみ期にかけての植生指数（NDVI、NDRE）と収量に強い相関があることが分かった。

土壌環境の継続的な記録による震災被害の記録のために、陸前高田市小友町水田において、電磁探査、電気探査および採取土壌のイオン濃度測定を行った。その成果に関連した卒業論文を作成した学生に北水会長賞が授与された。



【平成 30年度の活動予定】

- ①除染対策がとれない牧草地を対象に、放射性物質の動態調査を行うとともに、効果的な低減対策や利用可能時期の推定を行い、草地の利用再開に資する。
- ②リン酸カルシウム化合物を析出した土の基礎的な固化性能の把握、試料の構造骨格の観察を行い、カキ殻を使用した土の固化処理について実験的に検討する。
- ③広田湾に流出する陸前高田市小友地区の農業排水の流量と栄養塩負荷量の推定を目的とし、推定式の作成とその精度検討を行う。また、小友地区の農業排水による栄養塩負荷量の評価のため、去年の気仙川での調査結果との比較も行う。
- ④ドローン搭載のマルチスペクトルセンサを用いたイネの生育状況モニタリングを実施する。

⑨ 園芸振興班

園芸振興班は、夏期冷涼、冬期温暖な三陸の気候を活かし、ブランド化が期待できる園芸作物として、レストランや洋菓子店、デパートなどからの需要があるクッキングトマト、夏秋どりイチゴ、早どりカリフラワーの栽培技術や販売方法を被災地の農家や生産グループに提案している。

活動テーマと概要

三陸ブランド野菜品目の栽培技術の開発と経営評価による生産支援、加工技術の開発・普及と6次産業化の支援、販路開拓と販売支援システムの開発を行っている

▼園芸振興班HP



代表者 農学部：松嶋 卯月
担当者 農学部：佐藤 和憲、折笠 貴寛
農学部附属寒冷フィールドサイエンス教育研究センター：由比 進
三陸復興・地域創生推進機構：岡田 益己

園芸グループでは三陸沿岸の気候・風土を活かした園芸産地作りを目指して、経験の浅い者でも取り組める園芸作物の導入やその栽培・加工技術の提供に取り組んでいる。ブランド化と収益性が期待される野菜品目としてクッキングトマトや夏秋どりイチゴ、ミニカリフラワーに着目し、現地での栽培普及活動、および販売促進活動を展開している。

活動内容

● 三陸ブランド野菜品目の作型・栽培技術の導入

早どりのミニカリフラワーについては、久慈市と陸前高田市において、生産者を対象として、チェーンポットと手動機械を用いた移植法の講習会と作型の説明会を開催した。また、田野畑村と気仙沼市の生産者に対して、試験栽培の支援を行った。

夏秋どりイチゴについては、田野畑村と岩泉町の生産者に栽培やハウス管理を指導した。平成 29 年夏の天候不順による生産量の減収について、その原因を探るための検討会を開催した。イチゴ・トマト等の高設栽培に用いるもみ殻培地で、生理障害が起こることが判明したため、その対策を生産者に周知するとともに、ホームページでも情報を公開した。四季成り性品種「なつあかり」の開花不良現象の原因が明らかになったので、正常開花株を増殖するための仕組みを栗石町の生産者と立ち上げ、2～3年を目処に苗を供給できる見通しとなった。



久慈市で開催した姫かりふ栽培検討会



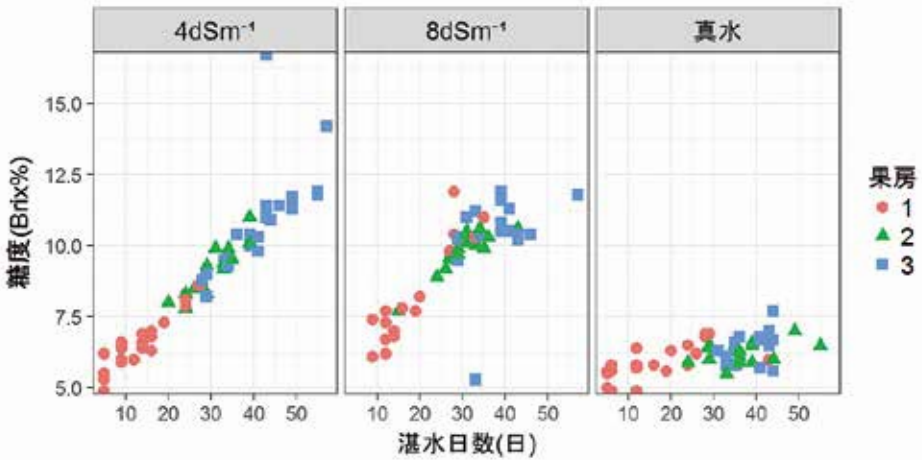
夏秋どりイチゴの作柄検討会



● 三陸ブランド野菜品目の作型・栽培技術の開発

難しい灌水管理なしに、かつ、低コストで高温期に高糖度トマトを栽培する技術として、もみ殻培地を利用した高糖度トマトの塩水湛水栽培法を確立し、三陸沿岸への普及を目指している。本年は、供給する塩水濃度、それによる培地の電気伝導度変化およびトマト果実の糖度上昇との関係について調査を行った。湛水の塩濃度 4dSm^{-1} および 8dSm^{-1} 両区において、塩水湛水処理後 30 日程度で、収穫された果実糖度を夏場に収穫されるトマトの中では高糖度といえる 8%(Brix) の果実が得られたが、処理時間の経過と共に果実収量が低下した。また、培地の電気伝導度は処理後当初は上昇するが、40 日以降は横ばいとなることが明らかになった。果実収量の低下を抑えるには過剰な塩ストレスを防ぐことが有効であるため、処理 40 日前に湛水を真水に変えるなどの処理が有効であると考えられる。

三陸ブランド野菜品目の作型・栽培技術の開発



4dSm^{-1} 、 8dSm^{-1} の塩水および真水で、もみ殻培地を用いた湛水栽培を行ったトマトにおける果実糖度と湛水日数の関係

● 地域特産園芸作物の乾燥・加工技術の開発・普及と 6 次産業化の支援

クッキングトマト加工法確立については、赤外線乾燥施設にクッキングトマトの乾燥および粉末化を依頼し、そば店や菓子店などにサンプルを提供して、利用拡大を図るとともに、利用上の課題のフィードバックを行っている。また、クッキングトマト乾燥品の低コスト化を目的とし、既存の熱風乾燥機やパン焼き炉の余熱を用いたドライパウダーの製造についても検討を開始した。今年度は、最適処理条件を導出するために、異なる処理条件（温度・時間・質量）で製造したドライパウダーの食味試験を行い、評価項目の設定に必要なスクリーニング試験を実施した。更に、支援している農家とともに、冬場の乾燥加工に向けて高効率・低コストの乾燥前処理法について調査している。



クッキングトマトを用いたドライパウダー試作品の製造



クッキングトマトパウダーを練り込んだ「変わり蕎麦」。「変わり蕎麦に練りこむ素材としてベスト。トマト味がしっかり味わえて風味も良好」との評価を受けた。
A：パウダーを粉に入れる。 B：麺を打つ。 C：ゆであがった蕎麦（写真：“そば処 久保田”さん提供）。

● 三陸ブランド野菜・加工品の販路開拓と販売支援システムの開発

クッキングトマトについては、盛岡市内のレストランに陸前高田産を提供した。また、ドライパウダーの試供品を市内レストランに配布し、食味などの聞き取り調査を行った。姫かりふについては、田野畑産と岩手大学下台圃場の試験栽培品が築地場外市場店に試験出荷され、好評を得た。田野畑村から築地へはシタケ出荷の定期便があるため、築地市場への出荷が容易に実現した。こうした定期物流を持たない地域間の輸送手段の確保について、関係機関やバイヤーなどと情報交換を行っている。今後、三陸ブランド野菜の販路開拓を行うには、農林水産省が導入した地理的表示保護制度（GI）への登録が考えられる。そこで、本制度の活用による三陸産野菜のブランド化の可能性をアンケート調査によって消費者の認識と評価の側面から検討し、全般的なGIに対する認知度の低さ、および現行GIマークだけでは（情報）不十分との評価を得た。



築地市場で試験販売された店頭の姫かりふ（渡辺貴氏 写真提供）

【平成 30 年度の活動予定】

三陸ブランド野菜として、これまでに取り組んだクッキングトマト、夏秋どりイチゴ、ミニカリフラワーについては、引き続き好適品種の選抜、作型の開発・確立、栽培技術や生産を支援するための気象情報の利用技術などの開発・導入を進める。減圧マイクロ波、熱風や赤外線など従来の乾燥法を用いた乾燥クッキングトマトの開発・商品化を図るとともに、他の作物への応用も進める。6 次産業発展の支援では、ブランド野菜の一般消費者への浸透を図るため、市場調査やバイヤーへのヒアリングなどを通して商品を紹介する。また、陸前高田グローバルキャンパスを活用し、農業技術相談の実施を行う。

⑩ 農林畜産業復興総合計画班

農林畜産業復興総合計画班は、岩手県の観光の復興状況および課題を明らかにし、グリーンツーリズムなど、農林畜産業や水産業を基盤とする観光振興のあり方について提言している。
また、自然災害が発生する地域における保護地域の役割や課題について検討し、今後の整備や管理のあり方について提言している。
さらに、漁業文化の保全や人材育成支援について継続的に取り組んでいる。

活動テーマ
と
概要

自然資源を活用した防災・減災と産業振興、地域の活性化

代表者 農学部：佐藤 和憲
担当者 農学部：伊藤 幸男、木下 幸雄、山本 信次、松木 佐和子
山本清龍（平成 30 年 2 月から三陸復興・地域創生推進機構 客員准教授）

農業経済、林業、観光の視点から、総合的な地域の産業復興、地域の活性化を目指し、復興支援活動および研究活動を展開した。具体的には 1）自然資源を活用した産業振興と地域の活性化、 2）自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興、 3）東北地方の観光復興の 3 点を目標とし、復興支援活動および調査研究活動を展開した。

活動内容

● 自然資源を活用した産業振興と地域の活性化

釜石市尾崎半島は、東日本大震災により農林漁業を営む陸域、海域が被災し、三陸沿岸部の狭隘な地形に立地する集落の地域活動、産業が著しく停滞していた。さらに 2017 年 5 月 8 日には追い打ちをかけるように森林火災が発生した。そこで、今年度はまず、鎮火直後の 6 月に尾崎 100 年学舎と共同で尾崎白浜集落、佐須集落をそれぞれ拠点とする森林の被災状況調査を実施した（たとえば、朝日新聞 6 月 5 日）。また、新たな被災の直後という状況に鑑み、当初の活動計画を変更し、尾崎神社の周辺環境の整備に重点を置いて、地域の復旧、活性化に結びつくと考えられる活動を展開した。



森林火災調査_釜石市尾崎半島

★自然保護を基盤とした災害リスクの削減とグリーン復興

三陸沿岸部では、三陸沿岸部は「復興」の名を冠するわが国初の国立公園が設立され、生態系を基盤とした災害リスクの削減（Eco-DRR）、グリーンインフラの活用が求められており、自然の恵みだけでなく脅威とどのように向き合うべきか、地域が来訪者を巻き込んでグリーン復興の方向性を模索するための取り組みを行った。具体的には、宮城県石巻市において震災遺構と語り部の役割に関する研究活動を展開し、来訪者の意識に及ぼす効果を実証した。また、琵琶湖西岸域では、霞堤と農地の再活用による災害リスクの削減について調査を行った。



石巻調査

★東北地方の観光復興

人的被害の観点からは東北地方太平洋沿岸部の岩手県、宮城県、福島県が被災の中心地だが、東日本大震災後の観光客の落ち込みの点では青森県、秋田県、山形県にも大きく影響が及んでおり、新しいツーリズムの提案と観光復興への支援が求められている。2017 年度は、世界自然遺産白神山地、十和田湖を事例として取り上げ、ビジターセンターを拠点とする地域の魅力、個性の発信方法、休屋地区の廃屋を撤去した場合の旅行消費額の増加、すなわち経済効果の試算を行った。また、2015 年に世界文化遺産構成資産に指定された釜石市橋野高炉跡の活用方法を検討するなど、2018 年度の活動にむけた打ち合わせ、現地調査を実施した。



十和田奥入瀬調査

【平成 30 年度の活動予定】

1. 地域主導型で自然資源、農産物等を活用して地域活性化に取り組んでいる地域を選定し、震災影響の残存状況と復興状況、および潜在的な自然資源を把握し、中長期的な課題の論点整理を行う。
2. 災害リスクの削減とグリーンインフラの活用には、災害メカニズムの理解だけでなく、地域住民の自然に対する向き合い方や将来に対する考え方についても考慮する必要がある。そこで、震災遺構の活用状況と語り部ガイドの活動について実態調査を行う。
3. 東北地方の代表的な観光地の中から復興支援対象地を選定し、地域内の旅行消費額を把握するとともに、1. の成果をふまえて来訪者が地域の経済振興、環境保全に貢献する枠組みを検討する。

(2) 地域創生部門



部門長 今井 潤（三陸復興・地域創生推進機構 教授）

地域創生部門は県内の様々な産業新機関や自治体と連携し、民間企業等からの技術相談も受け付けている。更に、共同研究や、インキュベーション施設への入居の支援も行っている。学部等と連携し、地域課題解決プログラムやCOC+ 事業にも積極的に関わっている。

▼地域創生部門 HP



活動テーマと概要

- ・三陸復興の優れた活動の継承と地域創生への転換
- ・地域志向研究の促進
- ・組織的な産学官連携体制整備と共同研究の推進
- ・地域創生モデルの構築
- ・COC 事業と連携した学生が関わる地域創生活動の促進

代表者 部門長 三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤
担当者 部門員 三陸復興・地域創生推進機構：山下 晋、小川 薫、河村 弘之、貫洞 義一
人文社会科学部：浅沼 道成、阿部 裕之、池田 成一、木村 直弘、栗林 徹、田中 隆充、玉澤 友基、本村 健太、山本 明彦、小島 聡子
教育学部：長谷川 弓子、平田 光彦、大野 眞男、鎌田 安久、澤村 省逸、清水 将、溝口 昭彦、上濱 龍也、清水 茂幸、藁谷 収、金澤 文緒、田中 成行
理工学部：高木 浩一、小山 猛

東日本大震災からの復興で得た知見を基に、岩手発の地域創生モデルの構築を目指す。そのため、組織的な産学官連携を実施するための体制強化と、研究シーズ等を発信することにより、地域創生を担う新たな産業の核となるイノベーションの創出に取り組む。さらに起業およびイノベーション思考人材の育成にも努める。

活動内容

● リエゾン-I マッチングフェア

11月15日（水）に、本学復興祈念銀河ホールとものづくり協創工房において、リエゾン-I マッチングフェアを開催した（参加者約150名）。㈱フォルテ葛西純代表取締役から、「“未来を生きて、欠けているものを作ろう”『スタートアップ思考が生み出す社会インパクトの可能性』」と題した基調講演を頂いたあと、リエゾン-I の取り組み紹介、研究開発事業化育成資金昨年度贈呈企業2社（㈱モディー、アイカーボン㈱）から取り組み紹介の発表があった。その後会場をものづくり協創工房に移し、リエゾン-I 参画機関の研究シーズ41件のポスター発表が行われた。発表者からショートプレゼンテーションも行われ、時間終了まで活発な議論が続いた。



ポスター発表の様子

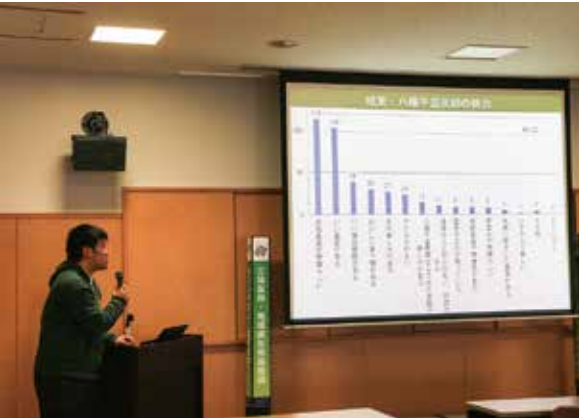
▼リエゾン-I マッチ



● 地域課題解決プログラム

3月16日に、盛岡市産学官連携研究センター大会議室において平成29年度地域課題解決プログラム成果発表会を行った（参加者約70名）。岩手県内より49件の地域ニーズがあつまり、学内に公募した後、31件の課題が採択され、1年間の研究が行われた。観光、インバウンド対策、防災、地域づくり、未利用資源活用、障がい者支援など、様々な地域課題に対して、すべての学部の学生が研究に取り組み、その成果を地域に還元した。

▼地域課題プログラム



地域課題解決プログラム



地域課題解決プログラム

● 外部資金獲得支援

地域創生部門において、下記の外部資金獲得支援を実施した。

JST 地域産学バリュープログラム（11 件申請支援、4 件採択）、戦略的基盤高度化支援事業（サポイン）（3 件支援・採択）、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（1 件申請・採択）、「知」の集積による産学連携推進事業のうち研究開発プラットフォーム運営等委託事業（1 件申請）、産学連携デジタルものづくり中核人材育成事業（1 件申請・採択）、いわて戦略的研究開発推進事業（4 件申請、2 件採択）、岩手県地域イノベーション創出研究開発支援事業（4 件申請、3 件採択）、さんりく基金調査研究事業（16 件申請、3 件採択）

また、東北経済産業局、東北総合通信局、NEDO、JST、中小企業基盤整備機構による外部資金獲得に向けた岩手大学個別相談会（1/12）を開催した。（研究者 5 名参加）

更に文部科学省地域イノベーションエコシステムに岩手県と共同申請を行った。

● 共同研究・大型研究プロジェクト進捗管理等

下記の大型プロジェクト等の進捗管理等を実施した。

- ・内閣府戦略的イノベーション創造プログラム
- ・JST マッチングプランナープログラム（報告書支援等、探索試験 6 件、企業ニーズ解決試験 5 件）
- ・戦略的基盤技術高度化支援事業（3 件）
- ・農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（2 件）
- ・「知」の集積による産学連携推進事業のうち研究開発プラットフォーム運営等委託事業（1 件）
- ・いわて戦略的研究開発推進事業（2 件）
- ・その他受託事業（岩手県から 2 件）

● 地域科学技術実証拠点（銀河オープンラボ）設置準備

平成 28 年 12 月に文部科学省地域科学技術実証拠点整備事業の採択を受け、平成 30 年 3 月の完成を目指し、研究推進機構と連携し、建物整備と試験研究機器の仕様策定などの支援を行った。

大幅に予算が削減されたこともあり、各研究グループの設備調達の調整や、共通部分の備品購入の予算確保、施設名称の決定等を実施した。

更に研究推進機構長の下、銀河オープンラボ設置準備委員会に参画し、運営管理要項、使用に関する取扱規則の作成を行い、施設使用料について案を作成した。



銀河オープンラボ

● 研究室見学ツアー

産学連携研究室ツアー〔10 月 21 日（土）9：30 ～ 12：30〕

ふるさといわて創造協議会新産業雇用創出ワーキンググループ（事務局：COC 推進室）と協同で、地域企業等を対象に「産学連携研究室ツアー in 岩手大学不来方祭 2017」を初めて実施した。

本企画は、不来方祭当日に実施されたオープンキャンパスの研究室公開に併せて、地域企業等が各研究室をツアー形式で訪問し、教職員と気軽に話すことで大学の研究に触れ、研究室の今を知っていただくことを目的として実施したものであり、地域企業の役職員等18人の参加があった。

また、後日技術相談や、共同研究に結びついた案件も発生した。

▼ 研究室ツアー



● 学内競争的資金（地域創生モデル構築支援事業）

平成 29 年度後期から、岩手県内の地域課題に学生が主体的に取り組み、地域からも学びを得る地域創生人材の育成に資すると思われる授業科目（大学院および学部正規の科目）を対象とし、フィールドワークなどの活動経費を補助することとし、5件の申請があり、審査の結果4件を採択した。

科目名称	教員名
健康づくり運動実習	人文社会学部 浅沼道成教授
学習指導要領とカリキュラム開発	教育学部 田代高章教授
英語インターンシッププログラム／スクールインターンシッププログラム	教育学部 山崎友子教授
臨床心理学地域援助特論	本機構 佐々木誠特任准教授

● 大学発ベンチャー支援および盛岡市産学官連携研究センターの管理運営

平成 29 年度に設立された岩手大学発ベンチャー企業は下記の 2 社である。

- ・(株) ライフサポート研究所 福祉介護機器開発 理工学部 佐々木誠准教授
- ・(株) 北上プレス技研 金型製品製造（サポインの成果）理工学部 清水友治准教授

盛岡市産学官連携研究センターは、設立 10 周年を迎え、MIUCafe やセミナーなど多くのイベント開催による情報発信を行うことが出来た。4 月時点で、14 社 29 室が使用されていたが、4 回の審査・評価委員会を実施した後、3 月には 11 社 29 室と入居企業数が減少した。主に景気の向上で仕事が多くなったものの、人材を確保出来ず、やむを得ず研究開発を中止し、退去する企業が多く見受けられた。

▼ M I U



● 地域創生人材育成に向けた取り組み

(1) 地域創生人材育成に向けた人材育成事業の実施

大船渡市との共同研究により、地域課題からビジネスプランを作成する地域創生人材プログラムを、社会人、高校生向けに実施した。受講生の高校生の2グループが、大船渡ビジネスプランコンテストで、奨励賞を受賞した。

(2) 学生活動センター設置の検討

三陸復興部門と連携し、12 月より学生支援組織の設立に向けた検討会を4回実施した。①地域に関わる活動・研究に関心を持つ学生・大学院生、②地域に関わり、継続性を持って活動する学生チーム、③特定の地域プロジェクトに取り組む時限的な学生チームを包括的に支援するプラットフォームとして、NEXT STEP 工房（仮称）を立ち上げ、平成 30 年度から本格的に活動することとした。

●新しいシーズ集の作成

研究成果が使用されるシーンを想定したイメージ図を記載することなどにより、地域企業等が抱える技術課題から最適な研究者を容易に探し出せる「産学連携シーズ集」（掲載研究者 57 名）を製作した。なお、各研究者に関する記載については、当該研究者の研究成果のみを紹介するのではなく、研究室全体の取組を紹介することにより、幅広い分野のニーズにマッチングできるように工夫している。また、本学保有特許の有効活用と特許情報をきっかけとした共同研究等へつなげるため、研究シーズ動画（4 本）や、「オープン特許集」（掲載特許 28 件）を製作しイベント等において PR を行った。

また WEB での公開も始めた。http://www.ccrd.iwate-u.ac.jp/seeds/index.html

▼ 技術課題



●宮沢賢治センター定例研究会や記念フォーラムの開催

- ・平成 29 年度の定例研究会は、第 94 回（5 月 19 日）第 95 回（7 月 21 日）第 96 回（9 月 29 日）第 97 回（11 月 28 日）第 98 回（2018 年 1 月 26 日）に開催し平均で 28 名の参加者を集めた。
- ・平成 29 年度研究力強化支援経費の交付を受け、宮澤賢治卒業 100 年記念フォーラムを農学部附属農業教育資料館および宮沢賢治学会イーハトーブセンターと共同で開催（2018 年 3 月 24 日）、150 名と満員の聴衆を集め、またマスコミ各社の取材があり、IBC は、昼のニュース（3 月 25 日）、および 3 月 27 日の晩のローカル・ニュース（「ニュース・エコー」で 3 分ほどの特集）、岩手日報 3 月 28 日 21 頁（文化欄）、盛岡タイムス 3 月 29 日 6 頁で、それぞれ写真付きで大きく報告記事が掲載された。

▼ 記念フォーラム開催



賢治フォーラム

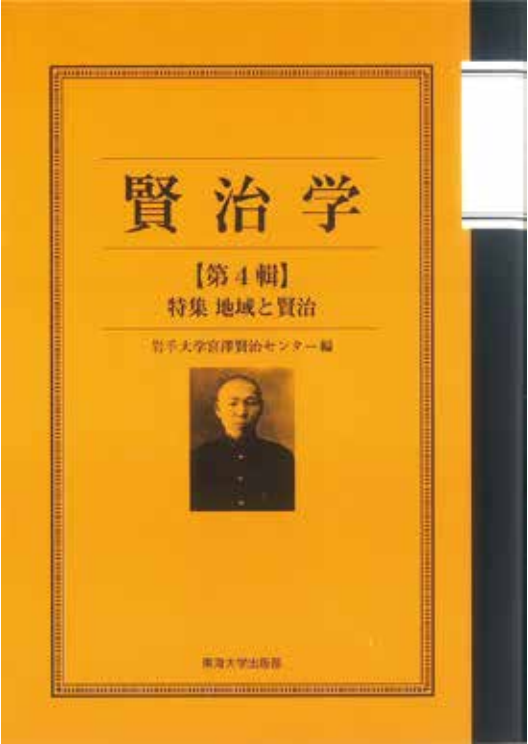
▼ 宮沢賢治センター



●『賢治学』の編集・刊行

- ・昨年度に編集を終了した『賢治学』第 4 輯を東海大学出版部より 2017 年 7 月 20 日に刊行した。内容は、第 4 輯に寄せて、特集「地域と賢治」（地域創生フォーラム講演 1 本＋論考 4 本）、コラム「それぞれの賢治」（エッセイ 4 本）、宮澤賢治センター研究例会より（論文 1 本）、フォーラム「賢治学」（論文 5 本）、編集後記で、総 222 頁、ISBN：978-4-486-02152-0。
- ・続いて年度内に『賢治学』第 5 輯を編集し終え、翌年度平成 30 年 7 月 25 日に東海大学出版部から刊行。内容は、第 5 輯に寄せて、特集「賢治学の現代的展開」（地域創生フォーラム講演 1 本＋論考 2 本＋エッセイ 1 本）、コラム「それぞれの賢治」（エッセイ 2 本）、宮澤賢治センター研究例会より（論文 3 本）、フォーラム「賢治学」（論文 5 本）、編集後記で、総 206 頁、ISBN：978-4-486-02177-3。

▼ 賢治学



賢治学

【平成 30 年度の活動予定】

特任教授を採用し、地域創生モデル構築のための検討会を立ち上げるとともに、機構の組織改革に向けた検討も同時に進める。更に地域創生人材育成のため、NEXT STEP 工房の立ち上げを支援するとともに、人材育成の方向性について検討する。

地域企業との産学官連携や、地域創生の取り組みのため、協定締結自治体との意見交換会を実施するとともに、産学連携シーズ集や研究シーズ動画を充実させ、県内企業との共同研究件数の増加などを目指し、研究の紹介の機会を増加させる。

銀河オープンラボに入居している研究グループを中心に、オープンイノベーションの取り組みを県内外の企業と進め、社会実装を目指す研究開発拠点の整備を行う。

(3) 生涯学習部門

部門長 朴 賢淑（三陸復興・地域創生推進機構 准教授）



生涯学習部門では 岩手大学の「地域社会に開かれた大学」の理念の基、公開講座、社会教育主事講習、社会人学び直しプログラムなどを開講し、地域住民を対象に様々な学びの機会を提供することで大学の教育研究の成果を社会に還元している。近年、経済のグローバル化や社会変化に伴い人々の価値観も変化しており、成人学習者の関心も身近な課題から社会的課題へと移行しつつある。こうした状況を鑑み生涯学習部門では、多様な成人学習者のニーズにあった生涯学習プログラムの充実化を目指している。また、成人学習者が「学びをほどこ、編みなおす力」、「地域で生かす力」、「学び続ける力」などを身に付け、地域活動や職業生活で約立てることによって地域の生涯学習の振興を目指している。

活動テーマ
と
概要

- ・ 社会人学び直しプログラムの開発
- ・ 地域課題セミナー（がんちゃんの学び）
- ・ 社会教育主事養成
- ・ 公開講座

代表者 三陸復興・地域創生推進機構：部門長 朴 賢淑

学内外との連携による生涯学習プログラムの開発に重点を置きながら地域住民のニーズを反映した社会人学び直しプログラムの開発を中心に行った。また、岩手大学が進めるべき社会人学び直しプログラムの在り方を検討するために、シンポジウムの開催をととして岩手大学の取り組みを全国に発信することができた。

活動内容

● 生涯学習基盤づくり

生涯学習部門員を学内の4学部の教員で構成することで学内における連携を強化し、月1回部門会議を開催することで生涯学習部門の取り組みについて情報共有することが可能となった。

また、岩手県立生涯学習推進センターが開催する事業に積極的に参加してコメントするなど、行政とも連携を取ることで、岩手県全体を視野に入れた生涯学習基盤づくりのための組織・環境づくりを進めている。岩手県は人口に対し土地が非常に広く、全ての地域への均等な教育機会の提供が課題となっていることから各市町村の社会教育施設と連携し、遠隔教育システムの導入を検討している。

● 社会人学び直しプログラムの開発

地域ニーズにあった新たな社会人学び直しプログラムの開発のために調査・研究を行っている。今年度からは、4学部から5名の教員を生涯学習部門会議のメンバーに加え協議を重ねてきた。

また、平成28年度から始めた社会人学び直しシリーズ講習の「がんちゃんの学び」を今年度も実施した。今年度は「地域課題」をテーマとして、受講者に地域課題を再考し、解決策を共に考える機会を提供することができた。

さらに、従来の公開講座を検討・再分類することによって地域に密着したプログラムを提供することができた。

● 学内社会人学び直しプログラムの整理と連携

地域ニーズにあった社会人学び直しプログラムを開発するために学内既存プログラムの整理と地域の学習ニーズの調査を並行して進めた。学内の諸プログラムの実施担当者とのミーティングを通して、受講者の確保が共通の課題であることが明らかになった。

一方、プログラムに参加した受講生を対象に実施したアンケート調査では、「非常にいい取り組みであるのでより多くの人に知らせたい」といった意見もあり、プログラムの広報が不十分である可能性もあるとし、生涯学習部門のホームページ、冊子を通して岩手大学で行っている社会人学び直しプログラムの広報に力を入れた。

● 地域住民の生涯学習ニーズ調査

地域ニーズにあったカリキュラムを提供するため、地域住民を対象にアンケート調査を行った。その結果、年齢構成は20代から70代まで幅広く、年齢代によって、学習ニーズ、学習を行う時間において違いがみられた。なお、アンケートの結果は、平成29年度生涯学習部門成果報告書を参照されたい。

● いわてアグリフロンティアスクールとの連携事業

学内の既存の社会人学び直しプログラムとの連携を図るために各プログラムの担当者、学部長との意見交換を通して各プログラムの現状と課題を共有することができた。さらに生涯学習部門では課題の一つであるコンピューター講座を開講することによって、いわてアグリフロンティアスクールの受講生への学習支援を行った。

講義終了後のアンケート調査では、講義について概ね「満足・やや満足」の評価を得たが、講習時間が短い、練習時間が少ないなどの課題も明らかになった。

● 地域課題シリーズセミナー「がんちゃんの学び」の開催

地域住民のニーズの多様化・高度化に対応した環境整備とともに、地域の課題に対応できる人材育成プログラムの開発を行った。その一環として平成 29 年度は、地域の課題を再考するため、各実践分野で活躍している方々を講師として招き、シリーズセミナー「がんちゃんの学び」を 6 回開講した。セミナーでは実践者の活動についてご紹介いただくことで、地域の課題を共有し、ディスカッションを踏まえて参加者と地域課題の解決策について議論を深めることができた。

また、参加者を対象にアンケート調査を行うことで地域学習者の学習ニーズを把握することができた。参加者からは「(地域課題について) 視野が広がった」、「岩手県についての情報を得ることができた」、「岩手大学の成人向けプログラムを知ることができた」など、コメントをいただくと同時に、多数の要望・意見も出ており、次年度の事業計画に生かすこととした。



地域課題シリーズセミナーの様子



がんちゃんの学びシリーズポスター

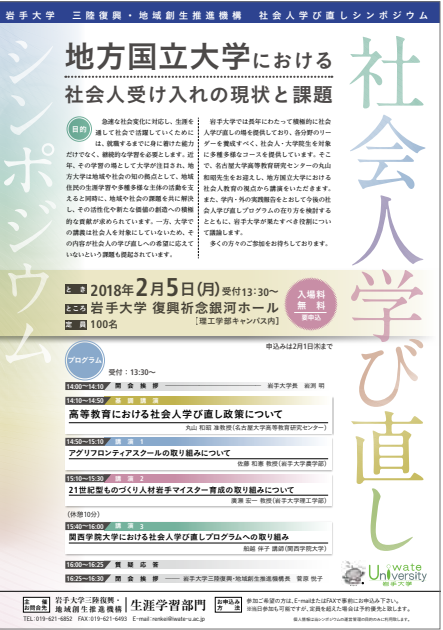
● 社会人学び直しシンポジウムの開催

部門事業の主な柱の一つとして社会人学び直しプログラムの開発を掲げており、平成 29 年度は学内ですで行われている社会人学び直しプログラムの連携に力を入れた。そこで、シンポジウム「地方国立大学における社会人受け入れの現状と課題」を開催し、各プログラムについて紹介することで、課題を確認するとともに社会人学び直しにおける大学への期待を踏まえ、今後の推進策を検討した。

シンポジウムでは、全国から参加した大学関係者と大学における社会人学び直しの政策の動向及び実践場面における現状と課題を共有するとともに、議論を深めることができた。



社会人学び直しシンポジウムの様子



社会人学び直しシンポジウムポスター

● 総合科学研究科との連携事業

岩手大学では自然科学、人文科学、社会科学等の専門知識に基づきながら、文理の枠を超えた幅広い視野を持って新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会や地球規模の課題解決に貢献する人材を育成するため、平成 29 年 4 月から全学の大学院修士課程と博士前期課程の研究科を統合し、総合科学研究科（修士課程）を設置している。幅広い人々に総合科学研究科の取り組みを知ってもらうため、共通科目授業の一部である「地域創生特論」、「地域文化特論」、「先端生命科学特論」、「グローバル環境科学特論」の 4 科目、8 講義を地域住民に公開した。

生涯学習部門では、従来の公開講座での経験を活かし、授業公開の受講者募集、アンケート調査を行い、授業評価と共に社会人の学習ニーズに関するデータ構築を試みた。アンケート調査結果については、平成 29 年度生涯学習部門成果報告書を参照されたい。

岩手大学

大学院総合科学研究科共通科目授業公開

岩手大学は今年 4 月に大学院修士課程（人文社会科学研究科、農学研究科）と博士前期課程（工学研究科）の研究科を統合し、総合科学研究科を設置しました。総合科学研究科の教育の特色の 1 つとして、全専攻学生を対象とした研究科共通科目を設置しています。

このたび、大学院の授業を企業等にお勧めの方をはじめとする一般市民の方々に広く知っていただくために一部の研究科共通科目を公開することといたしました。この機会にぜひ岩手大学へお越しいただき、授業をご参観くださいますようお願い申し上げます。

◆ 日 時：平成 29 年 11 月 17 日（金）

◆ 受講対象者：一般市民

◆ 公開授業一覧

開講時間	科目名	授業内容	担当講師	研究分野
14：45～16：15	地域創生特論	【地域創生の胎動】 地域創生に関する実際の取り組みを具体例をもとに解説	廣田 純一教授 五味 壮平教授	農学土木学・農村計画学 情報学 数理解論・物性基礎
16：30～18：00	地域文化特論	【岩手の暮らしと文化】	高橋 安一教授	人文地理学
16：30～18：00	先端生命科学特論	【におい、フェロモンを感じる動物の嗅覚メカニズム】 においやフェロモンを受容する動物の嗅覚システムについて解説	宮崎 雅雄准教授	嗅覚 タンパク質 動物行動学
16：30～18：00	グローバル環境科学特論	【自然環境と減災】 自然災害から人命や財産を守るための知識、技術や災害に強い地域づくりについて学ぶ	井良沢 道也教授	林学・森林工学

◆ 受 講 料：無料

◆ お問合せ先：岩手大学 学務部 大学院・専門教育課 総合科学研究科グループ
TEL:019-621-6603 E-mail:gsenko@iwate-u.ac.jp

◆ 受講受付：学生センターA棟1階5番窓口（授業資料・講義室内）
（裏面の地図をご参照ください）

☆岩手大学における社会人学び直しプログラム開発のため、三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門のアンケート調査へのご協力をお願い致します。

総合科学研究科授業公開ポスター

44 | 岩手の“大地”と“ひと”と共に

平成 29 年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 活動報告 | 45

第2部 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構

● 公開講座の実施

生涯学習部門では地域に密着した社会貢献を目指しており、大学の研究成果を広く社会に還元するため全学で開講する公開講座を取りまとめ、実施経費の支援、受講者募集、成果報告を行っている。平成 29 年度も学内公募を通して、「語学・文学」、「スポーツ」、「芸術」、「農学」、「理工学」など幅広い分野の 18 講座を開講することができた。また講義の質向上のため講習終了後受講者にはアンケート調査を行うと共に授業担当者には活動報告書を提出してもらった。アンケート調査の結果及び活動報告は、平成 29 年度生涯学習部門成果報告書を参照されたい。なお、平成 30 年度開講予定の公開講座は下記の表の通りである。

▼ 平成 30 年度
公開講座一覧



	講座名	開催日時	対象者	募集人数	受講料	講義概要
自然観察・牧場体験	フィールドセミナー 春の植物観察会	2018年6月3日（日） 10：00～12：30	市民一般	15 人	無料	滝沢演習林敷地内で不伐の森等を散策し、開葉期を迎えた春の樹木の観察と森林管理についての講話を通して、理解を深めていただきます。
	哲学者 内山 節 氏を迎えての 第13回「哲学の森」	2018年8月18日（土）～19日（日） 18日／13:30～17:00 19日／8:30～12:00	市民一般 （高校生以上）	30人	無料	滝沢演習林に哲学者内山節氏をお迎えし、森の中でこれからの社会や地域づくりのあり方などについて講演いただくとともに、森林散策・意見交換の機会を設け、様々な考える場を提供します。
	牧場体験「子牛の誕生？トラクタに乗ろう」	2018年9月22日（土）～23日（日） 22日／13：00～23日／13：30	小学生以上の親子	25人	1,100円	岩手大学御明牧場にて、牛の分娩を観察、農業機械を体験し、農業への理解、関心を持っていただきます。
	フィールドセミナー 秋の植物観察会	2018年9月30日（日） 10:00～12:30	市民一般	15 人	無料	滝沢演習林敷地内で、樹木観察や不伐の森等の散策を通じて秋の森の様子を観察してもらい、理解を深めていただきます。
	フィールドセミナー ウォッチングビンゴをしながら親子で楽しむ秋の森	2018年11月11日（日） 9:30～12:30	市民一般	20人	無料	滝沢演習林でウォッチングビンゴをしながら森の樹木、草木、虫、鳥などを観察するセミナーを開催し、秋の森の様子、生き物の姿について理解を深めていただきます。
	かんじきをはいて冬の森を歩こう	2019年2月17日（日） 13:00～15:30	市民一般	20人	無料	かんじきを履いて冬季の滝沢演習林を散策し、自然観察・アニマルトラッキングなどを行います。冬の森林と親しむことを通して、森林保全に関わる理解の深化を図ります。
	フィールドセミナー 春をむかえる森をみる	2019年3月24日（日） 9:30～12:00	市民一般	20人	無料	滝沢演習林で冬越しをすませた森の生きものを観察し、春を迎える森の様子、生きものの姿について理解を深めていただきます。
獣医学	半日獣医学生体験 ～獣医学科はどんな勉強をするところ？～	2018年6月～7月の土曜日 または日曜日を予定 13:00～16:00	中・高校生、 市民一般	100人	無料	基礎系、臨床系、応用系の科目の模擬講義を開講し、中高生にもわかりやすく説明します。また、実習の現場を見ていただけるように、普段目にすることの出来ない附属動物病院や病理標本室などのバックツアーを開催します。
農学	農学部5学科（植物生命科学科・応用生物化学科・森林科学科・食料生産環境学科・動物科学科）の実験講座	2018年6月30日（土） 13：00 ～ 17：00	高校生および 高校教員	80人	無料	本講座を通じて、教科書では得られない実験・実習の面白さや、農学への興味と関心をもってもらうと同時に、それぞれの進路の参考になることを期待します。
スポーツ	岩大スポーツアカデミー 2018 コーチのためのサッカー-C	2018年7月～9月 9：00 ～ 18：00	18歳以上 （高校生不可）	30人	12,000円 ※別途 教材費あり	サッカーの指導とわけ小学生の指導に携わろうとする方に対して、サッカーの技術・指導法・その他サッカーに関する幅広い情報を提供し、指導力向上を目指して開講するものです。
	岩大スポーツアカデミー 2018 コーチのためのサッカー-D	2019年2月を予定 9：00 ～ 18：00			7,000円 ※別途 教材費あり	また、本講座を修了・資格検定審査に合格し所定の手続きを経た方には、岩手県サッカー協会より、(公財)日本サッカー協会公認「C級サッカーコーチ」、「D級サッカーコーチ」の資格を与えるものとします。
	岩大スポーツアカデミー 2018 少年少女のためのバスケットボール	2018年8月1日～3日 1日：17：00～18：00 2、3日：16：00～18：00	小学4年生～ 6年生	30人	無料	バスケットボールを愛し、学びたい少年少女に対し、レベル・目的に応じたプログラムを提供し、資質の向上を目指し開講します。
	岩大スポーツアカデミー 2018 少年少女のための陸上競技	2019年1月末～2月中旬を予定 9：30～12：00	小学3年生～ 6年生	100人	無料	陸上競技を愛し、学びたい少年少女に対して、基本技能の習得と冬季トレーニングなどについて、レベル・目的に応じたプログラムを提供し、資質の向上を目指し開講します。
地域	地域政策入門 一生活と経済・環境一	2018年7月28日（土） 13：30 ～ 16：30	高校生、 市民一般	50人	無料	新設した地域政策課程での教育内容の一端を紹介し、広く本課程を知っていただくことを目的として開催します。本年度も地域政策に関するテーマを設定し、法学・経済学・環境学の3分野から話題を提供します。
	あなたは下戸(げこ)?それとも饅蛇(うわばみ)? ～DNA鑑定を用いた実験教室～	2018年秋の週末（1日）を予定 10：00～17：00	市民一般 （高校生以上）	8人	無料	ヒトのアルコール飲料に対する強さは遺伝的に決まっており、PCR-RFLP（ポリメラーゼ連鎖反応-制限酵素断片長多型）分析というDNA鑑定法により、アルコールを摂取しなくても、強い弱いかわることができます。本プログラムでは、参加者の皆さん自身のDNAのPCR-RFLP分析を通じて、生命科学の基礎技術がどのように応用されているかを体験していただきます。
理工学	ニワトリ胚を用いた研究は、ライフサイエンスに どのような貢献をしてきたか（ニワトリ初期胚の観察会）	2018年8月25日（土）予定 11:00～12:30 予定	市民一般	30人	無料	ニワトリ胚を用いた研究の歴史を解説した後、主に基礎的分野に焦点を当てつつ、最新の研究成果をわかりやすく説明します。また、講演に引き続き、ニワトリ初期胚の観察会も行います。本講座は大船渡市カメリアホールを会場に、子供から大人まで幅広い方を対象に開講します。

平成 30 年度 公開講座一覧（予定）

● 社会教育主事養成

生涯学習部門では、地域の社会教育の担い手となる専門的職員ー社会教育主事の養成を行っている。文部科学省の委託事業である社会教育主事講習は、北東北の岩手県・青森県・秋田県の学習者を対象に岩手大学、弘前大学、秋田大学が持ち回りで開講している。

平成 29 年度は岩手大学が主催校なり、各大学、各県の教育委員会と連携を取り、学内外の教員の協力のもとで実施した。なお、講習は 4 週間の集中講義の形式で、4科目（9単位）開講した。

受講者は、岩手県（18 名）、秋田県（11 名）、青森県（11 名）から 40 名が参加し、全員修了することができた。



社会教育主事講習



授業の様子

平成29年度 社会教育主事講習日程表

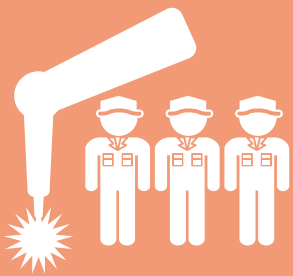
会場	期 日	8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:30～18:00
青 少 年 立 交 交 流 手 の 山 家	7月18日（火）		12:00～ 受付	13:10～13:40 開講式 13:45～14:30 オリエンテーション	社会教育と生涯学習 岩手大学 准教授 朴 賢淑(生涯学習概論①)	社会教育演習① 新妻・浅沼・朴
	7月19日（水）	社会教育と市民活動 岩手大学 准教授 朴 賢淑(生涯学習概論①)	岩手県の生涯学習振興と課題 岩手県生涯学習振興会 会長 中村 利之(社会教育特講①)		社会教育演習② 新妻・浅沼・朴	社会教育演習③ 新妻・浅沼・朴
	7月20日（木）	地域の国際化と社会教育 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育特講②)	生涯学習と企業連携 岩手大学 教授 今井 潤(社会教育特講③)	生涯学習と地域スポーツ 岩手大学 教授 浅沼 道成(生涯学習概論②)		社会教育演習④ 新妻・浅沼・朴
	7月21日（金）	社会教育対象の理解 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育計画①)	社会教育演習⑤ 朴	高齢化と社会教育(社会教育特講④) 八幡平市企画財政課 関 貴之 オークフィールド八幡平山下 直基	社会教育演習⑥ 浅沼・朴	
会場	期 日	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00
岩 手 大 学 図 書 館 生 涯 学 習 ・ 多 目 的 学 習 室	7月24日（月）	社会教育と市民活動 岩手大学 准教授 朴 賢淑(社会教育特講⑤)	社会教育演習⑦ 浅沼・朴	社会教育事業計画 東北大学 教授 高橋 満(社会教育計画②)		社会教育調査の理論と方法Ⅰ 岩手大学 教授 竹村 祥子(社会教育計画③)
	7月25日（火）	国際理解教育と生涯学習 岩手大学 准教授 尾中 夏美(社会教育特講⑥)		学校外教育論 弘前大学 講師 深澤 拓郎(生涯学習概論③)		社会教育調査の理論と方法Ⅱ 岩手大学 准教授 小野澤 章子(社会教育計画④)
	7月26日（水）	地域農業の問題と社会教育 岩手大学 教授 佐藤 和憲(社会教育特講⑦)	高等教育と生涯学習 東北大学 助教 清水 積文(生涯学習概論④)		社会教育演習⑧ 新妻・浅沼・朴	新妻・浅沼・朴
	7月27日（木）	社会教育演習⑩ 浅沼・朴	社会教育演習⑩ 浅沼・朴	生涯学習社会における学力 東北大学 講師 田中 光晴(社会教育特講⑧)		生涯学習とメンタルトレーニング 岩手大学 准教授 長谷川 弓子(社会教育特講⑨)
	7月28日（金）	地域社会教育計画Ⅰ 岩手大学 客員教授 新妻 二男(社会教育計画⑤)				
	7月31日（月）	社会福祉と社会教育 大阪府教育委員会 スクールソーシャルワーカー 上原 裕介(社会教育計画⑥)				社会教育演習⑫ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月1日（火）	文化財の理解と生涯学習 岩手大学 教授 飯 敏裕(社会教育特講⑩)	生涯学習とまちづくり 岩手大学 准教授 松本 大(社会教育計画⑦)	地域社会教育計画Ⅱ 弘前大学 准教授 松本 大(社会教育計画⑦)		
	8月2日（水）	社会教育演習⑬ 浅沼・朴	地域復興と行政の役割 金石市観光振興部企業立地課 主任 井上 諭直(社会教育特講⑫)	震災復興と地域づくり 岩手大学 教授 五味 壮平(社会教育特講⑬)	社会教育演習⑭ 新妻・浅沼・長谷川・朴	社会教育演習⑮ 新妻・浅沼・長谷川・朴
	8月3日（木）	社会教育施設として「美術館」 岩手大学 教授 廣谷 取(生涯学習概論⑥)	社会教育演習⑮ 浅沼・長谷川・朴	生涯学習と社会教育施設 青森県立保健大学 講師 廣森 直子(生涯学習概論⑦)	男女共同参画社会と女性労働	
	8月4日（金）	社会教育演習⑯ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑯ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑯ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑯ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑯ 新妻・浅沼・朴
	8月7日（月）	震災復興とコミュニティ作りへの取り組み 岩手大学 特任研究員 船戸 義和(社会教育特講⑭)	生涯学習と教育制度 東北大学 准教授 後藤 武敏(社会教育特講⑮)		生涯学習と地域連携 岩手県立大学 准教授 渡部 芳美(社会教育特講⑯)	社会教育演習⑱ 朴
	8月8日（火）	貧困問題と子ども支援 特定非営利活動法人インクルーわって 理事長 山屋 理恵(社会教育特講⑮)		社会教育演習⑱ 新妻・朴	社会教育演習⑱ 新妻・朴	社会教育演習⑱ 新妻・朴
	8月9日（水）	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 浅沼・朴	生涯学習と人間形成 秋田大学 准教授 小池 孝範(生涯学習概論⑧)		社会教育演習⑲ 浅沼・朴
	8月10日（木）	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	社会教育演習⑲ 新妻・浅沼・朴	開講式		

【平成 30 年度の活動予定】

1. 地域住民のニーズにあった社会人学び直しプログラムを開発するため、既存の公開講座を再分類し、支援体制を整える。
2. 活動の成果をシンポジウムの開催、学会での発表、報告書にまとめるなどで情報発信する。
3. 平成 30 年度も北東北の主催校として社会教育主事講習を平成 30 年7月17日から8月9日までの間で実施する。講習では生涯学習概論、社会教育計画、社会教育演習、社会教育特講の 4 科目（9 単位）を開講する。
4. 北東北三県の大学・社会教育担当者と連携を取りながら、遠隔教育システムの導入を視野に入れた生涯学習プログラムの開発研究を行う。

(4) ものづくり技術教育研究部門

部門長 平塚 貞人（理工学部 教授）



ものづくり技術教育研究部門は、地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における先端的水準の研究成果を基に、地域ニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくり講演会、講習会、セミナーなどの取り組みを進めている。

活動テーマと概要

ものづくり技術の人材育成セミナーと講演会の開催

代表者 理工学部：平塚 貞人

担当者 理工学部：長田 洋、鎌田 康寛、恒川 佳隆、西館 数芽、西村 文仁、平原 英俊、廣瀬 宏一、藤代 博之、本間 尚樹、水本 将之、八代 仁、吉本 則之、叶 榮彬、内館 道正、柴崎 祐二、清水 友治、土岐 規仁、晴山 巧、吉野 泰弘、吉原 信人、脇 裕之、福江 高志、村岡 宏樹

岩手のものづくり教育研究において、地域のニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくりセミナーと講演会を開催した。

活動内容

● ものづくり技術研究センター 特別講演会の開催

11月22日（水）に本学復興祈念銀河ホールで九州工業大学名誉教授の鈴木裕先生より「3Dプリンターの最新技術」と題して、3Dプリンターを用いた積層成形技術、熱可塑性 CFRP 部材の自動車への適応例などの内容が紹介された。株式会社ナニワ炉機研究所の村田博敏氏より「鋳造技術とは」と題して、鋳鉄の溶解技術、鋳造における環境・エネルギー問題への取り組み、バイオコックス技術などの内容が紹介された。



講演する鈴木裕氏



講演する村田博敏氏

● ASIA JOINT SYMPOSIUM 2017 の開催

10月18日～19日に大連理工大学と共催で ASIA JOINT SYMPOSIUM 2017 が開催された。その産学連携国際シンポジウムセッションの中で、「工業、金型ものづくり、農業、学生交流」をテーマに、岩手大学でのものづくり技術教育と研究についての講演と日本、中国、韓国の産学連携についての講演会が開催された。



開会のスピーチ



講演発表（金型・鋳造分科会）の様子

● 金型技術研究センター特別講演会の開催

6月9日（金）に岩手大学において、日本工業大学の横田悦二郎教授より「金型産業の過去と未来」と題して、最新の金型技術、アジアにおける金型技術の現状、今後の金型加工技術のポイントについて講演された。

● 金型技術研究センター講演会の開催

6月30日（金）に本学共用教育研究棟において、日本端子㈱の佐藤秀樹氏より「3代目社長は会社をつぶすのか」と題して、企業における金型技術の歴史と金型製品に要求されるのも、企業の生き残りについて講演された。

● 金型技術研究センター特別講演会の開催

7月25日（火）に本学金型技術研究センターにおいてアルプス電気（株）技術顧問谷本勲氏より「伊達政宗は宮城県に何を残したか～我々は沃土の民になっていないか～」と題して、講演会が開催された。



講演する谷本勲氏

● 鋳造技術研究センター特別講演会の開催

6月9日（金）に本学共用教育研究棟において、北光金属工業の大月栄治氏より「日本の人口は、減少に転じ、ものづくりは変革を迫られている。今がチャンスだ。」と題して、今後の鋳造技術と動向、生き残りについて講演された。



講演する大月栄治氏

● 鋳造技術研究センター講演会の開催

6月21日に、水沢サンパレスホテルにおいて、美和ロック㈱前工場長の山田元氏より「失敗に教えてくれたこと」と題して、鋳造におけるものづくりの難しさ、楽しさについて講演会が開催された。

● 鋳造技術研究センター特別講演会の開催

8月3日（木）に本学鋳造技術研究センターにおいて、室蘭工業大学の清水一道教授より「鋳物シンジケート（鋳物大量受注も広域共同生産ネットワーク構築プロジェクト）Jの取り組み」と題して、企業における鋳物受注のためのネットワーク構築の仕組みについての講演会が開催された。

● 生産技術研究センターシンポジウムの開催

8月28日（月）にホテル千秋閣で農業と電子技術のコラボレーションー農工連携の最前線をテーマに、農研機構東北農業研究センターの長坂善禎氏より「大規模農業でのICT利用」と題して、㈱ネクスグループの秋山司氏より「テクノロジーで日本の未来を変えていく～NCXXFARMのご紹介～」、諏訪東京理科大学の渡邊康之教授より「農業と太陽光発電を両立！ 発電するビニールハウスの開発」と題して、本学農学部武田純一教授より「果樹園作業用ロボットの開発について」と題してシンポジウムが開催された。



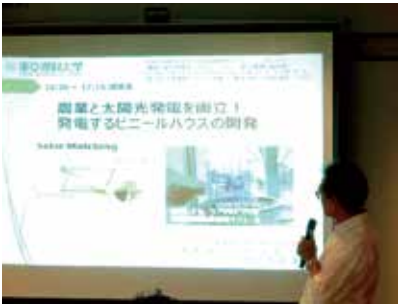
シンポジウムの様子



講演する長坂善禎氏



講演する秋山司氏



講演する渡邊康之氏



講演する武田純一氏



パネル展示の様子

● 三陸復興プロジェクト高度ものづくり人材育成セミナーの開催

被災した三陸沿岸地域の復興推進の取組の一つとして、3月29日に釜石市内で、「地域イノベーション事業における金型・鋳造・生産技術分野の成果」についてのセミナーが開催された。



講演する廣瀬宏一氏



講演する長田洋氏

【平成30年度の活動予定】

岩手のものづくり教育研究において、地域のニーズに対応した金型、鋳造、複合デバイス分野における高度専門技術者の育成のためのものづくりセミナーと講演会を開催する。



(5) 三陸水産教育研究部門

部門長 田中 教幸（農学部 教授）

三陸水産教育研究部門は、三陸水産研究センターが担当する研究開発と大学教育による人材育成を主なミッションとする。平成 28 年度に開講された農学部食料生産環境学科水産システム学コースの学生教育を行うとともに、生産から加工、流通、販売システムモデルの構築を目指し、そのノウハウの普及と継続的なイノベーションの基盤整備に取り組む。

▼ 岩手県水産技術センター



活動テーマ
と
概要

岩手県沿岸における水産資源の持続的利用と新たな漁業生産体制構築を目指した東日本大震災からの復興支援

代表者 農学部：田中 教幸
担当者 人文社会科学部：竹原 明秀、田中 隆充、横山 英信、寺崎 正紀
教育学部：梶原 昌五
理工学部：梅田 輝之、高木 浩一、萩原 義裕、廣瀬 宏一、船崎 健一、伊藤 歩、小野寺 英輝、三好 扶、吉野 泰弘、石川 奈緒、福江 高志、松林 由里子
農学部：平井 俊朗、上村 松生、三浦 靖、山下 哲郎、後藤 友明、石村 学志、袁 春紅、伊藤 幸男、伊藤 芳明、塚本 知玄、濱上 邦彦、山田 美和、塚越 英晴
三陸水産研究センター：北村 志乃、佐藤 琢哉
三陸復興支援課：田村 直司

学術・地域貢献・人材育成による震災後の持続的な三陸水産業復興に増殖分野から貢献することを目的として、(1) 資源の持続的利用 (2) 水産資源増殖の高度化による新たな漁業生産体制の構築を主要なテーマとして掲げ、関連する様々な外部資金を活用しながら関連機関の協力を得て三陸復興・地域創生推進機構の活動を進めている。

活動内容

● 東日本大震災後の三陸沿岸域における魚類相と主要魚種の加入動態把握【増殖分野】

野田湾と大槌魚類採集調査を行い、震災以前を含む過去のデータとの比較から魚類相の特徴を調べた。調査結果から、両湾で種数の増加と密度の増大が認められた。本海域で優占する漁業資源であるヒラメ当歳魚とマコガレイ当歳魚の平成 29 年度における密度は、ヒラメでは野田湾が低水準、大槌湾が平均的な水準であったのに対し、マコガレイでは平成 25 年に次ぐ高い水準であった。大槌湾を対象として魚類相と優占種の胃内容物組成、底生生物組成を比較したところ、ヒラメ稚魚ではアミ類の分布密度の変動とは連動しておらず、魚類やエビジャコを代替餌料として利用していること、マコガレイ稚魚では日和見的に底生生物を利用していることが明らかとなった。



加入動向調査

● 遡上全期にわたるサケの網羅的遺伝特性解析【増殖分野】

三陸における重要な水産資源であるサケは、近年続いている不漁原因の究明が喫緊の課題となっているが、岩手県のサケを対象とする遺伝学的な分析はほとんど行われておらず、遺伝的要因の資源変動への影響を把握する必要がある。本研究は、三陸沿岸河川を代表する津軽石川と大槌川をモデル河川とし、昨年度に引き続き遡上全期にわたるサケの遺伝特性を調べた。平成 29 年度の結果においても各集団内の遺伝的多様性は津軽石川前期群で高く、津軽石川後期群と大槌川後期群の遺伝的多様性はほぼ同レベルであった。また、津軽石川の前期群と両河川の後期群の間では遺伝的に分化している可能性があった。津軽石川と大槌川の同旬の集団は近縁関係にないことから、異なる集団組成であることが示唆された。



サケの網羅的遺伝特性解析

● 三陸の貝類養殖漁業に大きな被害をもたらす外来種ヨーロッパザラボヤの生態学的研究【増殖分野】

三陸のホタテガイ等二枚貝養殖で東日本大震災以降深刻な問題の一つとなっている外来性ホヤ類の一種であるヨーロッパザラボヤの基礎的な生物学的特性把握を目的として、フィールドでの調査と飼育試験による付着と成熟特性の把握を行った。フィールドでの新規付着基質を用いた調査から、本海域におけるヨーロッパザラボヤの付着には季節性が認められ、6 月に増加することがわかった。飼育試験と組織切片を用いて産卵と性成熟の水温変化との関係を調べたところ、ヨーロッパザラボヤの産卵は水温変化に呼応して行われる特性を有しているが、水温低下が進むと性成熟が停止するために産卵が行われなくなることがわかった。



ヨーロッパザラボヤ

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	ものづくり技術 教育研究部門	三陸水産 教育研究部門	地域防災 教育研究部門	平泉文化 教育研究部門

● 定置網におけるクロマグロ小型魚混獲回避技術開発【増殖分野】

クロマグロ資源管理は、国際合意の下、小型魚の漁獲抑制が実行に移されているが、「待ち」の漁業である定置網は魚種の選択性が低く、主対象魚種の漁獲を維持しつつクロマグロ小型魚の選択的な漁獲回避技術の開発が求められている。本研究は、自走式水中ビデオカメラを用いて定置網揚網過程におけるクロマグロ小型魚と他の主要魚種の選択的漁獲の可能性を評価するとともに、分離落網を開発してその効果を把握することを目的として実施した。揚網中、クロマグロ小型魚は他魚種と異なる単独の魚群を形成して浅めの深度を遊泳していることがわかった。また、仕切り網と漏斗口を備えた分離落網が他魚種とクロマグロ小型魚分離に効果的であることが示された。



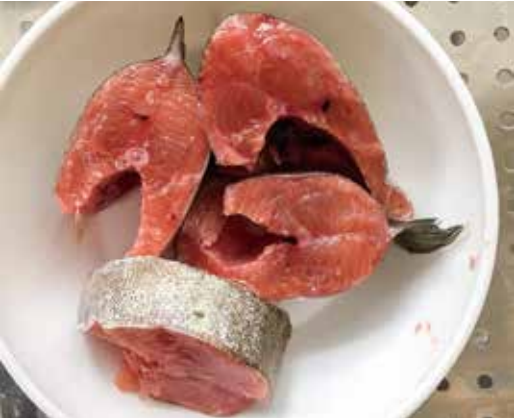
クロマグロ小型魚混獲回避技術開発

● マボヤ人工種苗生産に関する研究【増殖分野】

平成 24 年度から共同研究として取り組んできた山田町大浦地区におけるマボヤ人工採苗試験は確実な成果を得ており、漁業者からの要請が無かったことから、今年度は漁業者の自立的種苗生産技術の確立を目指して共同研究は行わなかった。マボヤ被嚢軟化症対策のため、平成 28 年 7 月から行ってきた被嚢軟化症発症海域で採集したマボヤの室内飼育（耐性株作出のための継代飼育を目的とする）は、平成 29 年 7 月に最後の 1 個体が死亡したため、失敗に終わっている。平成 29 年度は、無給餌の室内でも、水温を 19℃に維持した状態でマボヤを 1 年間飼育可能であることが明らかとなった。

● サクラマス海水養殖試験【養殖分野】

平成 28 年度文部科学省国立大学改革基盤強化促進費事業により新たに整備された冷水魚陸上養殖研究設備を利用して、岩手県内水面水産技術センターとの共同研究の下、県内産サクラマス海水飼育試験を実施した。パー、スモルト両群の屋内施設における通年飼育試験により、両群間の海水生残性、成長の比較を行った。スモルト群は試験期間を通して生残率が高く維持されたが、個体間の成長のバラツキが大きく、出荷サイズ近くにまで育成できた個体は少数であった。飼育 9 ヶ月目よりスモルト群の約半数にギンザケ養殖用餌を与え、通常マス餌との比較により、肉質に与える影響を検証し、更にスモルト群育成個体の一部を親魚育成し、次世代における海水生残性を検証する予定である。



サクラマス海水飼育試験 肉質状況

● ニジマス（トラウトサーモン）海水養殖試験【養殖分野】

当初予定していた、秋から春にかけて屋外陸上施設におけるトラウトサーモン（ニジマス）海水飼育試験は、施設整備が遅れたため実施できなかったが、次年度の試験実施に向けて、屋外飼育施設への殺菌海水配管整備を行った。北海道大学、宮崎大学との連携により海水養殖高適合性種苗開発に向けて、通常ニジマス、降海型ニジマス（スチールヘッドマス）、高温耐性系ニジマスの飼育試験を開始し、各系統の海水養殖特性の検証を開始し、外部資金獲得に向けた活動を行った。今後も国内各地保有のニジマス系統について生理的特性情報を集積し、育種に向けた基盤形成を行う。

● 光周期による摂餌活性制御試験【養殖分野】

大西洋サケなどによる先行研究をふまえて、岩手県産シロザケ稚魚を用いて、4 光周期試験区（24L、16L:8D、12L:12D、8L:16D； L：明期，D：暗期）について明期間一定回数飽食給餌による飼育試験を約 1 ヶ月間実施したところ、当初 8L:16D 区が他区より有意に高成長を示した。これは明期の短い試験区では給餌間隔が短いことによる影響と考えられたため、その後、24L、16L:8D 区で、明期間一定間隔飽食給餌へと変更したところ、給餌回数の多い 24L の方がより成長し、餌料転換効率も優る傾向を示した。この明期延長による成長促進効果は、摂餌活性持続による可能性があると考えられた。

● 新規養殖対象魚の開発（チョウザメ）【養殖分野】

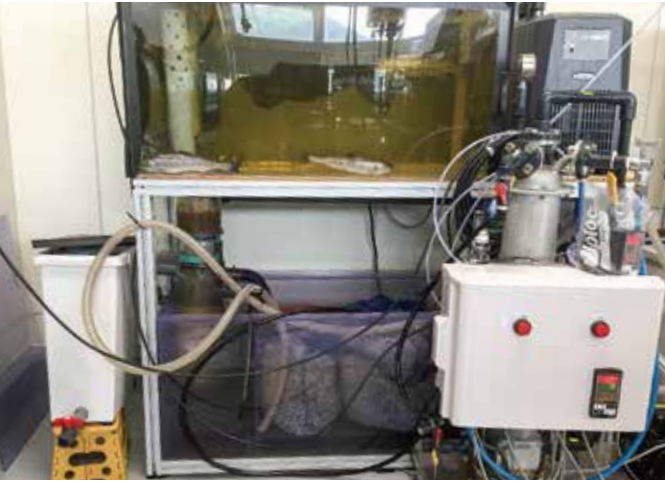
近年、国内各地でチョウザメ（キャビア）生産とそれを基にした地域振興に注目が集まっていることから、清水川養魚場（八幡平市）、岩手県内水面水産技術センター、北海道大学との共同で、チョウザメ種苗生産に向けた共同研究を開始した。清水川養魚場所有のアムールチョウザメ雌魚について卵巣生検を実施し、採卵可能な状態にまで卵母細胞が発達していることを確認できたことから、次年度に排卵誘発処理による採卵を目指すこととした。



新規養殖対象種チョウザメ

● 高濃度酸素溶解装置による養殖生産性向上に関する基礎研究【養殖分野】

高濃度酸素溶解装置製造企業との共同研究により本研究を行うこととした。本年度は共同研究全体計画についての打合せ（複数回）、共同研究契約締結、研究遂行のための外部資金獲得活動、本試験に向けた装置製作と動作確認のための予備試験を行った。なお、企業側より、本試験の対象魚として春銀毛サクラマスが要望され、一方、試験用高濃度酸素溶解装置の提供が冬になったため、次年度春の本試験開始に向けて秋銀化サクラマスを使用して予備試験を実施した。その結果、溶存酸素量が低下し、魚の代謝が上がる高水温で酸素供給を行えば摂餌量が低下しないことが観察された。



高濃度酸素試験酸素溶解装置と水槽

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	ものづくり技術 教育研究部門	三陸水産 教育研究部門	地域防災 教育研究部門	平泉文化 教育研究部門

● 新規養殖対象魚の開発（サケマス類）【養殖分野】

サクラマス海水養殖において障害となる早期成熟に対する対応策として、岩手県内水面水産技術センターとの共同により、3倍体不妊化魚作出を行ったところ、作出効率が極めて低かったために海水飼育試験に必要な実験魚を確保出来なかった。次年度に再度、不妊化魚作出と海水飼育試験を実施することとした。一方、北海道大学との共同により、シロザケ×サクラマスの雑種3倍体魚を作出し、海水飼育試験を開始した。今後、海水適応性、成長特性、肉質などについて調査を行い、陸上養殖に向けた地域ブランド魚としての可能性を検証する。また、新潟県内水面水産試験場との共同研究により、サケ科全雌魚生産において問題になっている偽雄（性転換雄）作出における輸精管形成不全について組織学的検証を行い、日本水産学会大会において発表した。

● 複合養殖システムに向けた研究【養殖分野】

稚ナマコを同数、2基の水槽に収容し、片方にはサケマス飼育試験水槽から排出された糞、残餌を与え、他方は海水のみで飼育した。その結果、ナマコは魚類養殖排出物を摂食し、飼育試験開始 20 日間後の段階で成長が有意に促進されていることが確認された。また、海藻、ウニ、貝類との複合を目指して、岩手県水産技術センターと意見交換を行い、これらの生物についても魚類養殖との複合について共同研究を開始することとした。



複合的養殖に向けた研究

● 三陸水産物から新規水産食品の開発【加工・マーケティング分野】

三陸ホタテから麺類やアイスクリームを試作し、親子料理教室で試食とアンケート調査を行った。また高齢者食品を製造しているトース株式会社取締役経営企画室長神谷慎一氏と打ち合わせし、また今後の協力について意見交換した。

高鮮度凍結サバを解凍し、三枚におろしてから、半身に分量の塩をよく混ぜて、サバの水分が出た後、水で洗いしっかり水分をふき取ってから、お酢の調味液に 15 分から 30 分程軽く漬ける。しめてから、皮や骨を取り除き、刺身として喫食する。また皮を取り除かない場合、炙ることもできる。レアしめサバの開発について盛岡市すし屋である一の丸または釜石ヒカリフーズからの協力を得る予定である。



サバ各種製品の試作

● 三陸水産物鮮度保持に関する研究【加工・マーケティング分野】

三陸資源であるホタテ、イサダまたスズキについて、その水揚げ後の死後変化、凍結また冷蔵、加熱処理による筋肉の生化学特性について調べ、特に ATP 関連化合物、pH、筋原線維タンパク質の性状変化について測定し、高鮮度保持できる手法を確立する。

東松島の大友水産とともに、アルコール凍結と独自の解凍法による熟成スズキの開発に着手した。これまで、「鮮度」という指標のみで価値を持っていた魚介類に対して、「熟成」による旨みという新しい価値を切り開くことによって、三陸沿岸部での新しい水産加工品開発を目指している。定期的な訪問と調査により漁獲から加工までを漁業者が一環して行うことで水産業における六次産業化の可能性と課題を探る研究も平行して行っている。

● 料理教室の開催による地元産業界への啓発活動【加工・マーケティング分野】

釜石で獲れる水産物から新規練り製品（魚麺を含む）や新メニューを開発し、「親子料理教室」の企画・開催を通じて、「街浜連携」を促し、水産物の地産地消の促進を図る目的で料理教室を下記のとおり行った。

1 回目 12 月 23 日 釜石市尾崎白浜番屋 参加保護者 4 名・児童 5 名 協力 釜石湾漁協白浜浦女性部

2 回目 2 月 17 日 釜石市小佐野公民館 参加保護者 3 名・児童 12 名 協力 釜石湾漁協平田女性部

サバの竜田揚げ、レアしめさば、ホタテ麺や刺身を提供し、試食評価した。



親子料理教室 1 回目



親子料理教室 2 回目

【平成 30 年度の活動予定】

- 増殖分野
(1) 資源の持続的利用と(2) 水産資源増殖の高度化による新たな漁業生産体制の構築を主眼とした三陸水産業における持続的な水産システムの確立を狙いとし、(1)については主に①河川単位でのサケ類資源構造の現状把握と資源動態にもたらす資源の構造的な問題点把握、②大槌湾等沿岸魚類資源の初期生残機構の解明、③安家川における河川環境モニタリング、(2)については主に①定置網におけるクロマグロ小型魚の漁獲制御技術の開発、②ヨーロッパザラボヤの再生産機構特性の解明、③マボヤ人口種苗生産技術開発、④カゴ漁業での脱出口装着による資源管理の早期普及に向けたアウトリーチを進める。
- 養殖分野
(1) 三陸沿岸域に適合しうる陸上養殖システムの開発、(2) 三陸沿岸域に適合しうる新規養殖対象種の開拓 (3) 岩手大学学部生・大学院生の実地型教育と地元産業界への啓発活動など従来の取り組みに加えて、本年度 9 月に予定されている農学部水産システム学コース一期生の釜石キャンパス移行と専門教育(卒業研究ほか) 開始に向けて、総合研究棟建設ほか教育環境の整備を行う。
- 加工・マーケティング分野
(1) 三陸水産物鮮度保持及びその高度利用に関する研究；特に三陸代表的水産物であるホタテ、サバ、イサダ、スズキについて漁獲から水揚げ、流通、加工消費まで鮮度保持技術の開発やその高度利用についての研究 (2) 漁獲物の性質(肉質など) の分子・生化学解析に根ざした加工技術に関する研究；特に養殖サケの肉質についての研究 (3) 蓄養さばからレアしめさばの商品化に向けた研究開発 (4) 魚食普及のために料理教室の開催

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	ものづくり技術 教育研究部門	三陸水産 教育研究部門	地域防災 教育研究部門	平泉文化 教育研究部門

(6) 地域防災教育研究部門

部門長 南 正昭（理工学部 教授）



地域防災教育研究部門を担う地域防災研究センターは、自然災害解析、防災まちづくり、災害文化の3つの分野の教育研究に取り組む。具体的には被災地域に入り、被災状況調査、地震・津波などの解析、復旧・復興まちづくりの支援、教育活動支援や伝承・記録の支援等を地域の人々とともに実践している。

さらに阪神淡路大震災、中越地震などの震災・復興の体験を持つ国内外の大学、または南海トラフ等の今後の震災が危惧されている地域の大学との連携を深め、過去・現在・未来を貫く相互の学びの場の創出へとつなげることを当面の課題とする。

安全なまちづくりと災害文化を育む地域防災拠点の形成

代表者 理工学部：南 正昭

担当者 人文社会科学部：後藤 尚人、五味 壮平、田中 隆充、松岡 勝実、
杭田 俊之

教育学部：田代 高章、麥倉 哲、山崎 友子、大野 眞男、田中 成行

教育学研究科：森本 晋也

理工学部：小林 宏一郎、今野 晃市、越谷 信、本間 尚樹、

大河原 正文、大西 弘志、小笠原 敏記、小山田 哲也、

山本 英和、鴨志田 直人、松林 由里子

農学部：井良沢 道也、広田 純一、三宅 諭

連合農学研究科：比屋根 哲

地域防災研究センター：福留 邦洋、熊谷 誠

男女共同参画推進室：堀 久美

国際連携室：石松 弘幸

三陸復興・地域創生推進機構：今井 潤

- これまで岩手大学が実施してきた地域密着型の活動（防災体制構築への支援、防災教育）をさらに拡充し、東日本大震災による被災地の復興に向け、「施設づくり」「まちづくり」「ひとづくり」に貢献
- 地域特性に応じた防災対策と、津波常襲地帯に暮らすための知恵である災害文化からなるボトムアップ型防災システム（三陸モデル）を構築
- 三陸モデルを、今後巨大地震の派生が危惧される東南海地域などへ展開
- 他大学、他研究機関と連携し、相互補完的な事業実施により効果的な成果を創出

活動内容

● 地域を支える防災リーダー育成プログラム

■日時：平成29年5月26日（土）～12月9日（土）

隔週土曜日

■場所：本学共用教育研究棟内リーダー育成プログラム講義室他

■概要：本プログラムは、地域の防災を推進するため、住民・コミュニティ・教育現場での自主的・自発的な活動を促進し、その啓発・教育及び実践の核となる人材の養成を目的として、一般市民を対象に、平成19年度より継続的に行っている。カリキュラムは物理および地学の基礎講習、地震・火山・地盤・洪水・津波防災・斜面災害・防災まちづくり・危機管理講座のテーマ別講習、被災地研修、修了製作を行う演習からなる。12月9日（土）には、外部評価委員として清水晃 国土交通省岩手河川国道事務所長、佐藤伸吾 国土交通省北上川ダム統合管理事務所長、及川隆 岩手県県土整備部部長らを招き、受講生の発表会並びに本プログラムの外部評価委員会、修了式を開催した。



防災リーダー育成2
防災リーダー育成プログラム修了証の授与



防災リーダー育成1 受講者による発表の様子

● 岩手県教育委員会・岩泉町教育委員会との学校防災に関する協定

平成28年8月30日、台風第10号により岩手県では大雨による甚大な被害が発生した。この経験をこれからの学校防災の充実に生かしていくため、地域防災教育研究部門を担う地域防災研究センターは平成29年6月14日に、岩手県教育委員会及び岩泉町教育委員会と学校防災に関する協定を締結した。

協定締結前から台風第10号に対する学校対応の課題や実例を紹介した「学校防災体制の充実に向けて」と題したリーフレットを作成し、県内の小中高校や教育委員会に配布するなど防災教育に関する活動を行っていたが、協定締結後は更に活動を活発化し、「学校版タイムライン」作成や、盛岡地方気象台の協力を得て、「台風・大雨から身を守る！」防災教育教材の開発に取り組んだ。平成30年3月29日には岩泉町にて、岩手県教育委員会並びに岩泉町教育委員会に学校版タイムラインや防災教育教材を贈呈した。

岩泉町立
門小学校版
タイムライン



防災教育教材

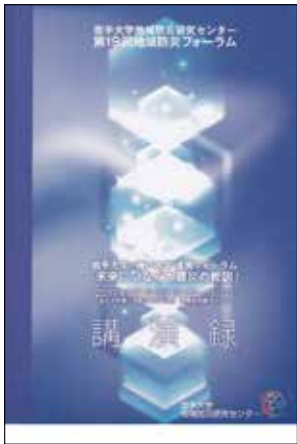


学校版タイムライン

岩泉町立
門小学校版
タイムライン

● 第19回地域防災フォーラム 未来につなぐ大震災の教訓
岩手大学×神戸大学連携フォーラム

- 日時:平成29年8月1日(火)
- 場所:本学理工学部キャンパス内 復興祈念銀河ホール
- 概要:「大震災の教訓をいかに未来につなげるか」、「災害危機管理リーダー」、「支援マネジメント」、「記録伝承」など4つの講演、それらをもとにした議論を行った。本学からは危機管理のためのリーダー育成に関する2題の講演、神戸大学および人と防災未来センターからは「大規模災害時の指定避難所外の避難者の発生傾向と支援マネジメント」、「災害記録を未来に伝えるために」と題して報告が行われた。質疑応答では会場から支援マネジメントに関して具体の方策についての質問や、震災関連アーカイブ作成後の利活用についての質問などが寄せられ、議論を深めた。



第19回フォーラム講演録表紙



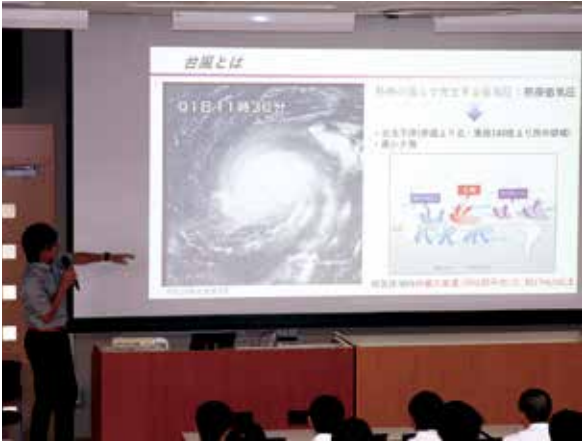
第19回地域防災フォーラム

● がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座の開催

- 日時:平成29年8月29日、9月1日、9月4日
- 場所:本学 GC1 講義室他
- 参加者数:403名
- 概要:盛岡市立上田中学校の生徒を対象に防災学習の講座を企画・運営した。地域防災研究センターの教員が講師を担当し、各回、「地震」、「大雨・台風」「家庭・地域での防災活動」とテーマを設定した講義と、訓練やワークショップなどを行った。理工学部の学生や教職大学院の院生もスタッフとして参加し、話し合いが深まるよう生徒たちへアドバイスをを行った。中学生には、この講座を通して中学生が災害時にどのように判断、行動すればよいかを学ぶとともに、家族や地域のために自分ができることを考える機会となった。



大雨・洪水ワークショップ



大雨・台風の講義

● 防災・危機管理エキスパート育成講座

- 日時:平成29年9月21日(木)、9月22日(金)、9月25日(月)、9月26日(火)の4日間
- 場所:本学理工学部キャンパス内 復興祈念銀河ホール
- 参加者数:33名
- 概要:防災・危機管理エキスパート育成講座の基礎コースを開催した。本講座は災害に直面した時、リーダーを補佐するエキスパートとして、災害対応とその効果的な推進のために必要な知識やスキルを習得することを目的に開催している。平成29年度は前年度と同様に、合計4日間で16科目の講義を行っており、自治体、消防署、医療関係、学校、一般の方など33名が受講した。岩手県内の各分野の現場で活動している方々を講師として招き、実際の現場における知見やノウハウを講義いただいた。受講後のアンケートでは有意義な内容だったという感想や、更に詳細な内容について学習を希望するといった意見が寄せられた。



越野客員教授によるカリキュラムの説明



講座の受講風景

● 岩手大学地域防災研究センター×国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター ICHARM~ 今後の研究連携に向けた学術交流

- 日時:平成29年12月4日
- 場所:本学地域防災研究センター会議室
- 概要:水災害・土砂災害の防災、危機管理に関して、地域防災研究センターと国立研究開発法人土木研究所水災害・リスクマネジメント国際センター“ICHARM”とで、最近の研究トピックについて話題提供、情報交換を行ったもの。地域防災研究センターからは自然災害解析部門と災害文化部門の教員を中心に、平成28年台風10号による土砂災害の実態調査や、発災時の教訓を生かした防災教育の取り組みが発表された。ICHARMからは新たな洪水リスク指標開発をと災害情報共有ホームページを組み合わせた取り組みや衛星データを用いた大規模浸水域の早期把握、地形への影響評価技術などの発表があった。

実践領域			教育研究領域			
三陸復興部門	地域創生部門	生涯学習部門	ものづくり技術 教育研究部門	三陸水産 教育研究部門	地域防災 教育研究部門	平泉文化 教育研究部門

●「第3回 災害文化研究会 災害文化を考える～ことばと文学を切り口として」の開催

- 日 時：平成 30 年 2 月 2 日（金）～3 日（土）現地巡検
- 場 所：本学総合教育研究棟（教育系）北桐ホール
- 参加者数：2 日／100 名 3 日：20 名
- 概 要：1 日目は、フォトジャーナリストを講師に迎えた講演とポスターセッションが開催された。ポスターセッションでは 13 件の発表中、6 件が県内の高校やボランティア団体など参加者の多様性が見られるなか、活発な情報交換や議論も行われ、今後の研究会の活動の広がりが期待される内容となった、2 日目は、宮古市重茂半島をフィールドに巡検が行われ、姉吉地区での津波教訓碑の見学や重茂漁協組合長による震災後の取り組みの紹介があった。



第 3 回災害文化研究会チラシ



第 3 回災害文化研究会
_re 災害文化研究会報告書表紙

●第 20 回地域防災フォーラム 東日本大震災から 7 年を迎えて

- 日 時：平成 30 年 3 月 6 日（火）
- 場 所：本学総合教育研究棟（教育系）北桐ホール
- 参加者数：35 名
- 概 要：「東日本大震災から 7 年を迎えて」と題して、地域防災研究センターの各研究部門から年度活動報告が行われた。自然災害解析部門からは岩手宮城内陸地震後の継続調査や、VR を用いた防災教育コンテンツについて、防災まちづくり部門からは赤外線モーションセンサを用いた健康見守りシステムの開発や吉里吉里地区における自主防災計画や避難マップ等の作成支援について、災害文化部門からは「第 3 回災害文化研究会」の開催や、平成 28 年台風 10 号の教訓を生かした学校版タイムライン作成の取り組みなどの報告があった。報告のあと、3 部門長とセンター長によるパネルディスカッションが行われ、今後の地域防災の取り組みや、成果の発信について議論がなされた。



五味教授による陸前高田グローバルキャンパスの取り組み紹介



南センター長、3 部門長によるパネルディスカッション

●岩手大学×神戸大学 災害管理研究交流会の開催

- 日 時：平成 30 年 3 月 8 日（木）
- 場 所：本学地域防災研究センター会議室
- 概 要：神戸大学都市安全研究センターとアジア諸国の災害・危機管理の専門家が地域防災研究センターを訪れ、研究交流会を開催した。神戸大学チームから話題提供の申し出があり、バングラデシュの山岳地域開発に伴う土砂災害の増加や、インドネシアメラピ火山の火砕流被災後の土地利用などに関する発表があった。岩手大学側からは、これまでの自然災害の調査経験や研究から得られた知見を踏まえたコメントが寄せられ、地域における自然災害に対する議論が交わされた。



ミャンマーのサイクロン被害について報告する神戸大学チーム

【平成 30 年度の活動予定】

平成 30 年度の活動として、地域防災研究センターでは、今年度の重要な取り組みとして 7 月に米国ハーバード大学と、中国清華大学との共催で、世界各国の防災・危機管理の研究者が集う「国際防災・危機管理研究岩手会議」を開催する予定である。また、今年度から、複数の教員で共通の研究テーマに取り組む研究グループ制とそれらグループへの予算支援による研究活動の促進を図っていく。継続的な取り組みとしては、地域や防災関係機関などからの社会的要請に基づき、「防災リーダー育成プログラム」と「防災・危機管理エキスパート育成講座」を引き続き行うほか、センター年報、活動成果などの刊行物発刊にも取り組んでいく。

(7) 平泉文化教育研究部門

部門長 藪 敏裕（教育学部 教授）



平泉文化教育研究部門は、平泉文化センターが担当している。センターの目的は、仏国土（浄土）の理想郷として造営されたという平泉庭園文化を中心に平泉文化の意義を総合的に解明することにある。具体的には岩手県教育委員会や海外の諸大学等と連携を図り、これまでの研究成果を踏まえながら平泉文化を学術的・国際的な観点から研究し、平泉文化の国際的意義を明らかにし、「平泉学」として総合化を目指していく。

▼平泉文化研究センター



活動テーマ と 概要

平泉文化の普遍性に関する国際理解の一層の進展と 地域に遺る文化遺産を活かした地域振興への貢献

代表者 教育学部：藪 敏裕

担当者 人文社会科学部：樋口 知志、平田 光彦
教育学部：宇佐美 公生、菅野 文夫、今野 日出晴、境野 直樹、
佐藤 由紀男、藁谷 収
理工学部：平原 英俊、會澤 純雄、小野寺 英輝、
平泉文化研究センター：伊藤 博幸、劉 海宇

考古研究部門・文献学的研究部門・教育地域貢献部門の三部門を中心に活動を行った。内容は以下の通り。

1. 「岩手県における世界遺産についての調査・研究の継続と支援」では考古部門を中心に東アジアにおける古代庭園学及び陶磁器等の産地同定作業を行った。
2. 「平泉世界遺産教育の展開」では平泉学講演会、「平泉の文化遺産」の学校教材作成を行った。
3. 「地域創生関係」では平泉文化セミナー9回・公開講演会4回、釜石市との連携等を行った。
4. 「世界遺産活用のあり方（モデル化）の確立」では釜石市橋野高炉跡発掘現場の視察等を行った。

活 動 内 容

● 考古研究部門：東アジアにおける古代庭園国際シンポジウムの開催

1. 2017年度UURR事業として中国洛陽市文物考古研究院で「東アジアにおける古代庭園国際シンポジウム」を開催し、中国側の研究者は隋唐洛陽城の都市計画と庭園遺跡の考古新発見及び洛陽平泉山荘を中心に、日本側の研究者は世界遺産平泉の庭園と拡張登録を中心に、研究発表を行った。
2. 12月8日に中国社会科学院考古研究所の宋江寧氏を招へいし、「考古学から見た周原遺跡の形成およびその変遷」をテーマに、「東アジアにおける古代都城と庭園」講演会を開催した。西周都城の周原遺跡における80年余りの考古成果をまとめながら、周原遺跡の集落形態の形成及びその変遷について分析と総括を行い、また、周原遺跡の水池と水系にかかわる考古新発見をも紹介した。



洛陽市文物考古研究院で開催されたUURR「東アジアにおける古代庭園国際シンポジウム」
(2017年10月11日)

● 考古研究部門：ポータブル複合X線分析による中国陶磁器の胎土分析

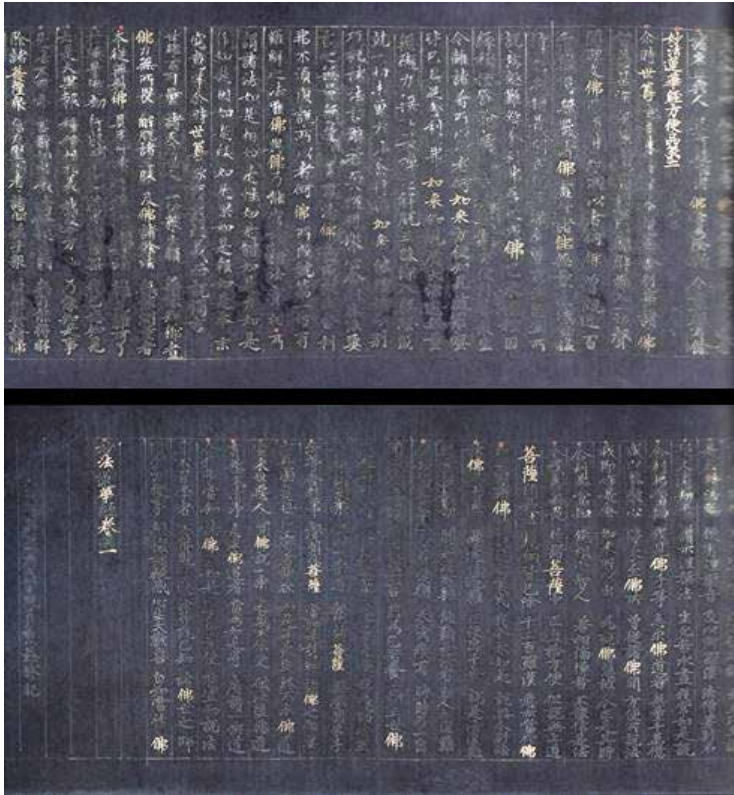
平泉では国産の陶磁器とともに多くの中国陶磁器が出土しており、時代が百年と限定されていることから各陶磁器の時代特定の貴重な基準となると言われている。この平泉出土の中国陶磁器の産地同定を進めるために、11月13～14日、平泉町で平泉出土中国産陶磁器の蛍光X線計測を当センター分析機器を使って行った。
會澤純雄・平原英俊兼務教員らは1月27日の平泉文化フォーラムにおいて「ポータブル複合X線分析による白磁と青磁の胎土分析—中国及び平泉出土資料との比較研究」の報告を行い、中国および平泉出土資料の比較検討を行った。



平泉町において中国産陶磁器X線分析(2017年11月13日)

● 文献学的研究部門：五代・両宋期における金銀字一切経の研究

1月27日、第18回平泉文化フォーラムにおいて劉海宇教授は「五代両宋期における金銀字一切経及びその政治的意義」を題して研究発表を行った。十世紀から一二世紀の五代・両宋期には金銀字一切経の存在及びその政治的意義を明らかにした。呉越国の開祖、銭鏐が子孫に残した「中原王朝をよく仕えよ」との遺訓を守った銭弘俶が、北宋の建国後すぐに入朝して策封を受け、また大蔵経の体裁も北宋の太祖皇帝の金字大蔵経に遠慮し、あえて銀字経に仏号のみを金字で書写する金銀字混書大蔵経の形式を襲ったものと考えられる。中原の王権に対する配慮こそは、銭弘俶の金銀字混書大蔵経が成立した理由であろうと結論付けた。



北宋期の金銀字混書法華経（浙江省瑞安県瑞光塔出土、浙江省博物館蔵）

● 文献学的研究部門：東アジアにおける経塚の起源及び源流の調査研究

中国・朝鮮半島における仏教文化の展開を視野に入れ、従来、日本で独自に成立したとされてきた経塚信仰を再検討し、仏塔に経典を埋納するという東アジアで広くみられる営為のなかに、日本経塚を新たに位置づけ直すとするため、劉海宇教授が「平成29年度研究人材育成支援経費」を申請して研究調査を行った。7月に中国浙江省・江蘇省における法舍利埋納遺跡調査、9月に韓国における経筒・金銀字経等の仏教遺物及び庭園遺跡の調査、2月に九州における経塚関連遺物調査を行った。一部の調査報告を『岩手大学平泉文化研究センター年報』第6集に掲載した。



中国における法舍利埋納調査（2017年7月3日）

● 教育・地域貢献部門：第18回平泉文化フォーラムの開催

平泉に係わる研究成果を一般に公開することを目的として、毎年いわて高等教育コンソーシアムと岩手県および本学三陸復興・地域創生推進機構平泉文化教育研究部門の三者が共同で開催している。今年度は1月27・28日の両日、一関市文化会館において開催し、研究成果の一部を市民に公開した。当センターからの発表は、研究報告として劉海宇教授「五代両宋期における金銀字一切経及びその政治的意義」と會澤純雄兼務教員「ポータブル複合X線分析による白磁と青磁の胎土分析―中国及び平泉出土資料との比較研究」を行なった。参加者は延べ400人。



第18回平泉文化フォーラム、岩渕学長挨拶（2018年1月27日）

● 教育・地域貢献部門：平泉文化セミナー例会の開催

本セミナーは、研究業績等を一般市民向けに発表することを目的として原則年10回程度開催することとしている。今年度は岩大教育学部教室において、第29回～第38回まで都合10回開催した。毎回20～25名の参加がある。



平泉文化セミナー第31回例会（2017年5月31日）

● 教育・地域貢献部門：平泉世界遺産登録 6 周年記念講演会の開催

6 月に平泉世界遺産登録 6 周年を迎えるに当たり、奈良県立橿原考古研究所のト部行弘氏を招いて岩手県と共同で平泉世界遺産登録 6 周年記念講演会を行った。飛鳥の宮都に付随する庭園遺跡である飛鳥京跡苑池の発掘調査成果をもとに、飛鳥時代の庭園の特色を挙げ、奈良時代、平安時代の庭園に伝えられた要素と変化した要素を通して当時の日本人の思想的背景に迫る講演会であった。



平泉世界遺産登録 6 周年記念講演会 (2017 年 6 月 17 日)

● 教育・地域貢献部門：平泉文化研究センター講演会の開催

本講演会は、世界遺産平泉の価値を国際的な観点から検討することを目的に県内外の研究者向けに年一回程度開催することとしている。本年度は平泉仏教史をテーマに、3 月 22 日本学教育学部において、菅野文夫氏による「中尊寺供養願文模本成立の背景」及び菅田慶信氏による「平泉の仏会と仏土―「場」に立つ中世奥羽仏教の一コマ―」と題する講演会を行った。参加者 20 名。



平泉文化センター講演会 (2018 年 3 月 22 日)

【平成 30 年度の活動予定】

1. 岩手県における世界遺産についての調査・研究の継続と支援。世界遺産「平泉」について歴史学・考古学・理化学的分析等の学際的研究を推進する。
2. 平泉世界遺産教育の展開。継続的に行なっている世界遺産平泉(及び要望があれば釜石市と一戸町)を中心に、世界遺産教育の実施、世界遺産教育に関するカリキュラム作成を検討していく。
3. 三陸復興と観光振興への展開。当センターは、復興は「人づくり」をコンセプトにソフト面からこれに関わっていく。
4. 地域創生関係。地域に住む人々が、地域の貴重な遺産を守り、研究や観光資源として活用し、誇りをもって生活できるような地域の創生を支援する。
5. 世界遺産活用のあり方(モデル化)の確立。
6. 市民を対象とした郷土史学習支援事業。
7. 東アジアから見た日本経塚信仰の起源に関する総合的調査研究を展開する。

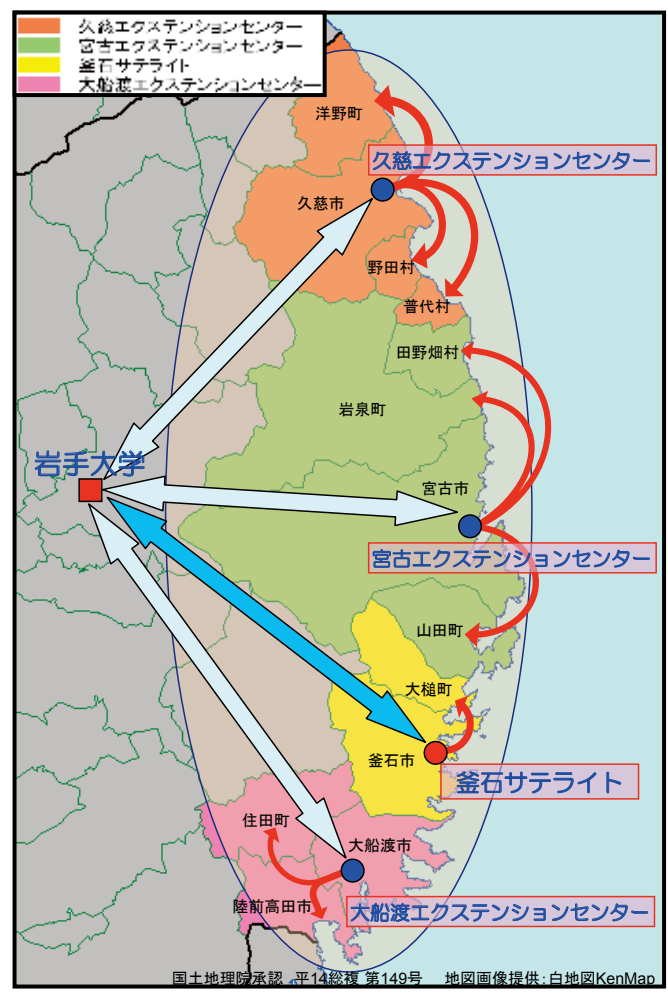
03 釜石サテライト・各エクステンションセンター

(1) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの設置

本学は、これまで培ってきた教育研究機能をもとに産学官連携を推進し、全学を挙げて三陸沿岸地域の復興支援の取組を行うため、「釜石サテライト」、「久慈エクステンションセンター」、「宮古エクステンションセンター」、「大船渡エクステンションセンター」を設置している。

釜石サテライトには、特任准教授(臨床心理士)、産学官連携専門職員等が常駐し、各エクステンションセンターにも特任専門職員(プロジェクトマネージャー)が常駐している。

釜石サテライト・エクステンションセンターの主な活動テーマは以下のとおり。



主な活動テーマ

- 被災者からの支援ニーズの収集
- 被災地からの支援ニーズに応える岩手大学のシーズに関する情報提供及びマッチング
- 沿岸自治体、企業・事業者、団体・グループなどとの連絡調整
- 本学が行う各種支援活動の企画立案や復興プロジェクトの推進

- 【主な担当地域】
- ・釜石サテライト・・・釜石市、大槌町及び三陸全体
 - ・久慈エクステンションセンター・・・久慈市、洋野町、野田村、普代村
 - ・宮古エクステンションセンター・・・宮古市、田野畑村、岩泉町、山田町
 - ・大船渡エクステンションセンター・・・大船渡市、陸前高田市、住田町

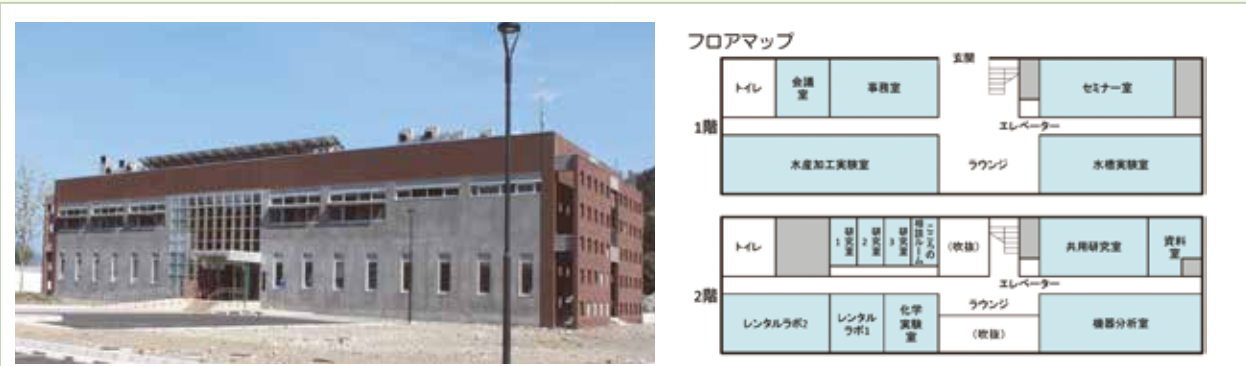
(2) 釜石サテライト・各エクステンションセンターの活動

①釜石サテライト

平成 23 年 10 月 1 日、旧推進本部の設置と同時に、三陸沿岸部の復興の活動拠点として釜石市教育センター内に「釜石サテライト」を設置し、産学官連携専門職員を中心として被災地のニーズ収集に努めてきた。その後、約半年が経過した平成 24 年 3 月には、震災により心にストレスを抱えている方や、被災者を支援している支援者の方を対象とした心のケアが必要不可欠である状況を踏まえ、特任准教授（臨床心理士）1 名を釜石サテライトに配置した。これにより、釜石サテライトでは、三陸地域における産学官連携の推進に加え、被災者に対する心のケアを行うとともに、自治体職員、地域の福祉関係者等を対象に、被災者との接し方、対応などのセミナーや講習も実施している。

平成 25 年 3 月には、三陸沿岸の更なる復興支援を行うことを目的として、従来の機能に加え、三陸産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指す「岩手大学三陸水産研究センター」や臨床心理士による心のケアを行う「こころの相談ルーム」も入居する新釜石サテライトを釜石市平田地区に開設し、さらに積極的な活動を行ってきた。

▼釜石サテライト Blog



【釜石サテライト】 所在地：〒026-0001 岩手県釜石市平田第三地割 75-1
電話：0193-55-5691 FAX：0193-36-1610 E-mail：kamaishi@iwate-u.ac.jp

● サテライトに常駐しているスタッフ（ほか 3 名の事務職員が常駐）

田村 直司
産学官連携専門職員
主に水産業に関する三陸沿岸地域のニーズを収集するとともに、ニーズに対応出来る本学の教員や各行政機関等と連携し、新たな「なりわいの創出」に取り組んでいる。

佐々木 誠
特任准教授／臨床心理士
サテライト内に設置されている「心の相談ルーム」でのカウンセリングをはじめ、沿岸各地で心のケアに関するセミナーや講習会に取り組んでいる。

● 釜石サテライトに入居

三陸水産研究センター	心の相談ルーム
従来の水産業に科学的根拠に基づく付加価値を加え、水産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指すとともに、水産関連技術者の高度化教育や人材育成を行い、三陸地域の活性化を推進。	三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門心のケア班に所属している臨床心理士による被災者・支援者のカウンセリングやコンサルテーションを実施。

主な活動内容 企業訪問・面談数・意見交換会 100件



- 新規研究課題の発掘と共同研究のマッチング
→各種会議等に出席して、三陸地域の企業や漁業関係者から研究ニーズを把握すると共に、共同研究に繋げて研究開発資金の獲得を図る取り組みを行った。
- 水産物の加工品開発や漁業後継者対策に向けた取り組み
→さんりく基金事業を導入し、漁協女性部による水産物の販路拡大を図るためのセミナーや実証試験販売を実施した。また、自治体からの依頼により漁業後継者確保に向けた取り組み活動を行った。
- 地元住民や学生・生徒に対する水産研究の紹介
→水産・海洋プロジェクトの研究成果の普及や水産研究者の人材育成等を図るため、活動中の研究プロジェクトを学生・生徒など広く県民に紹介するセミナー等を通じて水産業に対する関心を高めた。
- 次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー構想の取り組み
→地元などの企業13機関とプラットフォームを設立し、農林水産省研究開発プラットフォーム運営等委託事業を導入して、産学官民金連携による次世代陸上養殖システムの確立とフィッシュファクトリー構想の実現に向けた調査などの取り組み支援を行った。

●水産物の加工品開発や漁業後継者対策に向けた取り組み

- 1 商品力向上のための取り組み
- 下記のとおり漁業協同組合女性部等に対して4回のセミナー及び1回の販売イベントを実施した。
- ①商品企画及びアンケート手法セミナー（第1回セミナー）
開催日時：平成 29 年 9 月 26 日（火）13 時 30 分～15 時
場 所：本学釜石サテライト
参 加 者：23 名
 - ②商品力向上セミナー（第2回セミナー）
開催日時：平成 29 年 10 月 4 日（水）13 時 30 分～15 時
場 所：本学釜石サテライト
参 加 者：23 名
 - ③売れる販売手法セミナー（第4回セミナー）
開催日時：平成 29 年 11 月 30 日（木）13 時 30 分～15 時
場 所：本学釜石サテライト
参 加 者：18 名
 - ④販売イベントでの実証試験
実施日時：平成 29 年 10 月 28 日（土）29 日（日）
場 所：山形県南陽市三間通1096『南陽の菊まつり』南陽市中央花公園特設会場特設ブース
参 加 者：10 名



販売イベントでの実証試験【山形県南陽市】

2 衛生的且つ効率的な商品加工方法の確立への取り組み

- ①現地指導と衛生管理セミナー（第3回セミナー）
開催日時：平成 29 年 10 月 20 日（金）13 時～17 時
場 所：白浜浦地区番屋、釜石東部女性部加工室
参 加 者：25 名

3 開発した加工品の活用による地域コミュニティ維持への取り組み

漁協女性部が開発中の加工品等を利用した地元の料理の作り方を新規漁業者に学んでもらい、浜料理に愛着を持ち地域に根付いてもらうことで、新規漁業者の確保と地域コミュニティの維持を目的として、新人漁師交流会を開催した

開催日時：平成29年12月3日（金）13時～17時
場 所：釜石湾漁協白浜浦地区番屋
参 加 者：35名



衛生面に対する現地指導【白浜浦女性部】

●地元住民や学生・生徒に対する水産研究の紹介

1 漁業者向けセミナー 三陸をフィールドとする水産研究セミナー

日 時：平成29年8月25日（金）午後1時30分～4時30分
場 所：岩手大学釜石サテライト1階セミナー室
参加者：約50名

2 高校生向け出前授業 釜石高校「学問を学ぶ」講演会

日 時：平成29年6月15日（木）午後2時25分～午後4時15分
場 所：釜石高校 石楠花ホール
参加者：釜石高校1年 160名（文系理系含む）

3 一般向けシンポジウム

【第1回】さんりく水産・海洋研究セミナー“次世代に向けた魅力ある水産業を構築するための新たな調査研究の紹介”

日 時：平成29年11月29日（水）午後1時30分～4時30分
場 所：大船渡市民文化会館リアスホールマルチスペース
参加者：約90名

【第2回】三陸の海を知ろうセミナー

日 時：平成30年1月20日（土）午後1時30分～3時30分
場 所：釜石市立図書館 視聴覚室（釜石市小佐野町 3-8-8）
参加者：約40名

▼次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー創造プラットフォーム



三陸をフィールドとする水産研究セミナー

●次世代陸上養殖システムによるフィッシュファクトリー構想の取り組み

1 陸上養殖先進地視察の実施

【第1回】

出張日程：平成29年8月4日（金）
視察場所：青森県東津軽郡外ヶ浜町字三厩 龍浜龍飛ヒラメ養殖生産組合
参加者：7名

【第2回】

出張日程：平成29年12月6日（水）～7日（木）
視察場所：鳥取県栽培漁業センター、三光株式会社ウェストバイオマス工場、弓ヶ浜水産株式会社
参加者：7名

【第3回】

出張日程：平成30年1月31日（水）～2月2日（金）
視察場所：大連富谷有限公司、
山東東方海洋科技有限公司、大連海洋大学
参加者：7名



先進地視察
山東東方海洋科技有限公司の大西洋サケの陸上施設

2 陸上養殖に関する勉強会

【第1回】

日 時：平成29年8月18日（金）午後1時30分～4時
場 所：本学釜石サテライト 1階 セミナー室
講 演：中国で実用化されている陸上養殖の現状について
講 師：大連海洋大学 海洋科学技術・環境学部長 劉 鷹 教授
参加者：約40名

【第2回】

日 時：平成29年11月21日（火）午後1時30分～3時30分
場 所：本学釜石サテライト 1F セミナー室
講 演：岡山理科大学の閉鎖循環型システムを活用した陸上養殖研究の取組み
講 師：岡山理科大学 工学部 バイオ・応用化学科 山本俊政 准教授
参加者：約40名

【第3回】

日 時：平成30年2月20日（火）午後1時30分～3時30分
場 所：本学釜石サテライト 1階 セミナー室
講 演：サケマス類の陸上養殖と種苗供給の問題点
講 師：元 北海道総合研究機構 さけます・内水面水産試験場 魚病養殖部長 小出展久 氏
参加者：約30名



陸上養殖勉強会【講師 劉教授】

主な活動内容 企業訪問・面談数・意見交換会 138件

▼釜石サテライト Blog



●被災地の心のケアに関わる計画立案・実施・調整

→被災地における心理支援のための会議への参加や諸機関との意見交換、それを元にした心理支援活動の計画と準備・実施を被災地に臨床心理士のスタッフを常駐し行っている。

●釜石サテライト相談ルームにおけるカウンセリング

→被災された方とその支援者を対象としたカウンセリング、コンサルテーション、スーパーバイズの実施と、被災地域の心理支援リソースの充実を目的とした他機関との連携を行っている。

●支援者・地域住民を対象とした心理教育的研修の開催

→支援者支援のためのメンタルヘルス研修、スキルアップ講座の訪問開催と、一般の方々を対象とした市民講座「こころのじかん」を心のケア班主催で実施している。

●長期的支援の基盤を担う臨床心理士の養成

→長期的支援の基盤を目的として、岩手大学大学院の臨床心理コースの学生を対象に、学生が主体的に計画立案し被災地の視察および避難生活を送る方々との交流を行う支援研修を実施している。

●釜石サテライト相談ルームでのカウンセリング活動

平成 29 年度の相談は 72 件であった。相談は、来談者の利便性向上のため釜石 2 カ所、陸前高田 1 カ所（陸前高田グローバルキャンパス）、盛岡 1 カ所で実施した。震災が直接関わる問題での相談は少なくなったが、面接の過程で問題の背後にある震災のストレスが明らかになったというケースも未だにある。PTSD の遅発性という点でも今後の継続した活動が必要である。また、平成 29 年度の特徴として地域の専門機関から相談者の紹介（リファー）があった。地域の心理相談機関として認識されてきたことを示しており、相談活動が定着してきた証拠として考えられる。加えて、前年度以前に相談されていた方が、再来談されたケースもある。このことは相談後に新しい課題が発生した場合に、以前相談していたカウンセラーに相談したいというニーズを示している。これらの点（症状の遅発、地域支援リソースの強化、再来談）に加え、公営住宅への入居や自立再建による地域コミュニティの変化、PTSD に特化した心理療法（EMDR）の施術要望等も鑑み、継続したカウンセリングおよび支援者のためのコンサルテーション、スーパーバイズの継続した実施は、ハイリスク対応等の地域の支援を厚くする点で最重要である。

●支援者・地域住民を対象とした研修および講座の実施

支援者支援を目的とした依頼による研修は 27 回実施され、のべ約 730 人の参加があった。支援者のメンタルヘルス・プログラムの利用では、スキルアップのための傾聴研修や、支援のリスクと対応といった単発の研修会がほとんどであった。また、住民相互の心理支援拡充を目的として行うケア班主催の市民講座は次のように実施された。(実施日・開催地・内容・参加者数) ① H30/1/20・宮古・喪失・11 名、② H30/1/27・釜石・怒り・25 名、H30/2/3・陸前高田・傾聴・27 名、H30/2/14・大船渡・子ども・33 名、H30/2/16・宮古・リラクセーション・8 名、H30/2/28・釜石・宗教と心理学・22 名。参加者の感想として 10 点を最高点とする評価で、講義内容が 8.3、

会の運営が 8.8 と今年度も好評を得た。今後の課題としてプログラムの評価研究とこれまでの経験を学術的に再点検し、より適切なプログラムになるように反映することである。また、その過程で得られた知見について情報発信していくことが被災地の大学としての責務と考える。また、市民講座は地域に浸透してきており、開催地の拡充の要望や継続した実施を望まれている。これらに答えるべく継続した実施は必須である。



市民講座

●大学院生による沿岸支援研修

復興の継続的心理支援の基盤づくりを目的とする臨床心理領域の大学院生を対象とした沿岸支援研修は、平成29年9月11日と12日に陸前高田市で今年度も実施された。内容は、復興支援に関わる自主ゼミ、講義、現地視察と現地の支援者からの講話、仮設住宅でのリラクセーション研修の講師体験および交流であった。講義は釜石サテライト常駐スタッフによる復興支援活動について、現地視察は震災遺構に立ち入り、ガイドから震災時の体験を伺う「復興最前線ツアー（まるごと陸前高田）」、支援者の講話はあしなが育英会のレインボーハウス・スタッフによる施設案内と子どもの支援の実践であった。自主ゼミについては、支援に関わる葛藤をゲーム化して協議するものであった。仮設でのサロン研修は、これまでの実施の経験から、すべて大学院生に企画、運営させた。リラクセーションの一種であるタッピングタッチを講師として住民の皆さんに伝え、歌やゲームでの交流の時間も設けた研修を企画し、講師として進めた。住民のみなさんには大変好評であった。この成果については、グローバルキャンパス大学シンポジウム2018で発表された。自主的な活動を増やすことで、多くの学びが得られ、充実した研修となった。



沿岸支援研修

②久慈エクステンションセンター



特任専門職員
(プロジェクトマネージャー)
川尻 博

【久慈エクステンションセンター】
所在地：〒028-8030 岩手県久慈市川崎町1番1号
久慈市役所 総合政策部政策推進課内
電話：090-2953-2519
E-mail：kujiext@iwate-u.ac.jp



主な活動内容 **企業訪問・面談数・意見交換会 110 件** (述べ数)

●企業・個人事業者への協力と学外機関との連携

→地域の企業と事業者、農林水産物の生産者からの新商品開発や未利用資源活用の相談への対応や補助金申請に際しての申請書作成協力を中心に行っている。

●外部機関との連携

→相談内容によっては大学での対応が難しいことも多々あるため、その際は適切な外部機関への速やかなマッチングを行っている。

●共同研究の実施と研究成果の現場移転

→学内外の研究資金や自治体事業を活用するなどして、共同研究の実施や研究シーズ実用化のための研究を実施している。

●行政機関の実施事業や施策立案にかかる会議参加や情報提供

→特に地方創生に向けた行政機関の実施事業や事業構想について、大学から会議へ参加して提言をしたり、業務担当とのやり取りにおいても大学が持つ情報を提供している。

●水産現場への工学知見の導入

平成 24 ～ 27 年に、前身の三陸復興推進機構・水産研究プロジェクトで得られた研究成果の還元として、普代村漁業協同組合と同村特産のすき昆布の乾燥工程における省エネルギー化実現に向け、流体工学と熱工学の知見を導入した共同研究を実施中である (担当：理工学部 船崎健一 教授、福江高志 助教)。

平成 28 年度研究では、乾燥室構造や乾燥機温度等の乾燥条件が異なる 3 タイプの漁家加工場の乾燥環境の違いを調査・分析し、乾燥進行に寄与する／しない条件や発生現象の把握に努めた。この結果を元にして、平成 29 年度研究の現地調査では、乾燥室内外での風流のコントロールに関する調査を重点的に行った。

また、新たに本学内にて、風速、温度、湿度のパラメータを様々な設定した実験を行い、すき昆布の乾燥時間に与える影響を調査した (乾燥進行諸元の獲得)。この結果、シミュレーション解析の精度向上を実現し、現場から得られる実測データや改善案等の情報にも十分に対応しうる状況が整った。

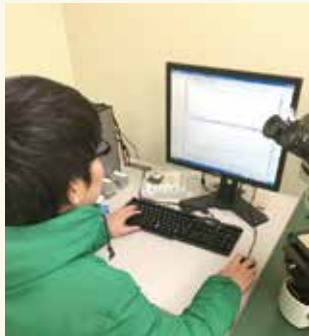
この 2 つの調査研究から、乾燥の効率化を実現しうる要素と、課題箇所の改善が見出され、平成 30 年度は温度設定と室内風流の一部を変更した条件での乾燥実験を実施する計画である。



現地調査では旋風機器の作動パターン変更による風流変化も調査した



写真の温湿度計測記録機 9 台を用いて温湿度の推移を調査した



学内実験にて、すき昆布の乾燥特性を把握した (比熱解析、乾燥シミュレーションの様子)

●観光資源を活用した地域振興の研究

平成 29 年度は普代村との共同研究で、みちのく潮風トレイルコースの活用による観光振興や村の活性化をテーマにした活動を実施した (担当：前農学部 山本清龍 准教授)。

みちのく潮風トレイルは、環境省が整備を進めている青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸海岸線を中心とした自然遊歩道の散策コース。平成 28 年に総距離約 30km の普代区間が開通し、村ではこれを観光資源として活用した誘客施策に取り組み始め、開通 1 年目に訪問するトレイル客や村内宿泊者の声を収集して誘客策のヒントを得ることと、トレイル客を受け入れる村民の意識醸成を目指して共同研究を実施した。

誘客策を考える取り組みは、実際にトレイルコースを歩き、トレイル客目線で情報収集するフィールドワークと、国民宿舎くろさき荘宿泊者への宿泊観光に関するアンケート調査を実施し、村内観光に望まれる各施設の機能や情報発信すべき内容を把握した。

村民向けで特筆すべきは、大学生が講師を務め、中学生を対象とした村の自然環境を学ぶ勉強会の開催であった。このトレイルコースを将来においても村の財産とできるよう、将来のまちづくりを担う現在の中学生に考えてもらいたいと、普代村からの依頼を受けて実施した。

共同研究終了後も情報交換をし、適宜協力していく。



フィールドワークではコースの魅力確認だけではなく、難所や迷い道も押さえて、トレイル客への提供情報の充実を目指した



平成 30 年 3 月 12 日に研究報告会を開催し、観光資源活用と来訪者向けサービスの向上を検討した

●学生が提案する、地場産食材の積極活用による地域経済活性化策

地域社会が抱える課題を学生の卒業研究テーマとして取り組む岩手大学・地域課題解決プログラムにて、人文社会科学部生 6 名が久慈市で漁獲・水揚げされる水産物を「地元で活用すること」により地域経済活性化を目指し、活動した（指導教員：人文社会科学部 杭田俊之 准教授）

この課題は久慈市から応募された。内容は、「水産のまち」として、久慈産の魚料理を食べたいという来訪者のニーズに対応するため、飲食機会拡大の方法を考えたいというもので、この活動を久慈市と支援した。

活動は市内外の魚市場、仲卸業者、鮮魚店そして飲食店での流通状況の調査からスタートし、実際に料理を開発して具体的な活用提案を目指した。魚種は、時期によって低価格となる 3 魚種を候補として料理開発をした結果、最終的には夏期のドンコ（標準和名：エゾイソアイナメ）に絞り込んだ。これを練り物原料としての地元流通・消費提案に決定し、実際に消費者の意見を収集するため、平成 30 年 2 月 18 日の北三陸くじ冬の市に出展してイベント来訪者に開発メニューを試食提供し、地元水産物料理の飲食に関するアンケートを行った。

平成 30 年度は、練り物原料としての保存法や飲食店別での提供場面に適したメニューの検討等に取り組む予定である。



くじ冬の市での考案メニューの試食提供の様子



試食者に実施したアンケートでは、食味評価、商品イメージ、希望価格等への意見を収集した



当日提供したドンコのさつま揚げ。低価格時期に有効活用し、地元の定番食品になることを期待

●引き続き、各方面との連携窓口として

研究課題、人材育成、地域経済の活性化をはじめとして、本学に寄せられるニーズは非常に様々なものがある。各方面との連携窓口として第一にすべきことは、寄せられたニーズにシーズをマッチングできるよう、学内に限らずに研究者や情報をつなげることである。

全てが最善のマッチングとなるわけではないが、これまでになかったムーブメントが生じるきっかけになり得ると認識している。そのためにも、今後も岩手大学が持つネットワークを最大限機能させ、連携支援窓口として地域に貢献していく。

平成 29 年度に行った連携支援の 1 つに、久慈市にある地下水族科学館「もぐらんぴあ」の展示企画の相談を受け、平成 30 年 1 月末に北海道の 2 つの水産研究機関への視察を取り次いだ。長年にわたる豊富な研究実績を有する機関から多くの有益な情報を得られただけでなく、訪問 1 ヶ月後には相手方が同館を訪問して小さいながら交流は動き出しており、確かな協力関係に進展することを期待したい。



函館市と室蘭市にある研究機関の視察状況。専門研究者から提供される情報は非常に有益である

③宮古エクステンションセンター



特任専門職員
(プロジェクトマネージャー)
浜田 修

【宮古エクステンションセンター】
所在地：〒027-8501 岩手県宮古市新川町 2 番 1 号
宮古市役所 産業支援センター内
電 話：090-2886-8887
E-mail：miyako @ iwate-u.ac.jp



主な活動内容 **企業訪問・面談数・意見交換会 250 件** (述べ数)

- 産学官連携による研究開発事業
→企業ニーズと研究者のシーズをマッチングさせ、種々機関の研究資金を獲得し、研究開発を行う。
- 共同研究による新技術開発等
→企業の資金拠出により、企業と大学教員が連携し新しい技術を開発する。
- 地域課題解決プログラムによる課題解決
→地域が持つ課題を、本学のプログラムで解決する事業である。本学学生の卒論として取り組み課題を快活する。

●地域企業と研究者との連携による水産加工機の開発

平成 28 年度から継続しているテーマで、市内水産加工企業のニーズを受け、水産加工に関わる加工機などの開発に取り組んでいる。

宮古市の K 社は、震災後企業間取引を積極的に行っており、関東の大手小売業へ原材料として骨なしひらぎイカを供給している。これまでは、末端商品の製造を中心に行っていたが、いわゆる BtoB の取引を進めることにより、大量処理作業を行うようになってきている。骨なしひらぎイカは、開いたイカから中ワタやゲソを取り除いたものから、中骨軟骨とそれを支持する副骨の除去を行い製造する。中骨除去工程は、熟練の作業者が包丁を駆使し骨を外すのだが、手首への負担が大きく、肉体的不調を訴える従業員も散見する状況である。そのような相談を受け、理工学部の三好准教授に相談したところ、協力を快諾いただき、共同事業として取り組むこととなった。三好准教授は、震災以降水産業、水産加工業関連のロボット開発を行っており数多くの実績を上げている。

本事業においては、平成 28 年度は、科学技術振興機構(JST)のマッチングプランナープログラムの採択を受けた、平成 29 年度は、さんりく基金調査研究事業の採択を受け、技術開発に取り組んできた。

宮古市の M 社は、牡蠣を取り扱っている。春先の身入りのいい殻つき牡蠣は好評で、高級食材として流通させている。しかしながら、殻つき牡蠣の身入り判定は、生産者の経験と勘により行われるため、身入りの悪い牡蠣が混入する場合があります、取引上のトラブルになりかねない現状がある。

鶴岡高専の柳本教授は、長年にわたり岩ガキの身入り計測技術を研究してきた。JST のマッチングプランナー(当時、現岩手大学 CD)の貫洞氏から、柳本先生の研究内容を伺い、マガキで取り組みたいという意向を受け、M 社とマッチングした。平成 29 年東経連ビジネスセンターアライアンス助成事業に申請し、採択を受け、殻つき牡蠣身入り計測技術開発を進めてきた。

それぞれのテーマにおいて、研究者と企業が共同で技術開発に取り組んできた。しかしながら、実業レベルの装置開発、製作においては、実業として機器製作に携わる企業の力が必要である。そこで、宮古市内の機械関連企業にこれまでの取り組みを説明すると共に協力を依頼したところご理解と協力を快諾いただき、双方の事業でのプロトタイプ機の設計製作を行い、実業の近いレベルでの試験を行うことができた。

今回の取り組みにより、地域の課題を地域企業間の連携で解決できる土壌ができつつあり、将来的には、地域に立地する企業のニーズに合った水産加工機を地域で製作し供給できる、これまでにない産業の可能性が見えてきた。多くの水産加工機メーカーは、北海道や西日本に立地しており、また、当該地域の中小零細企業が購入するには規模が大きく高額なものが多いため、地域ニーズに合ったものが望まれてきた。今後は、事業化に関わる要素が大きくなっていくことから、企業や地域行政の連携でぜひ実現させていただきたい。

本件は、日経グローバル（2018／1／15 漁業の停滞破る「地域力」）にも取り上げられ、新しい取り組みとして注目されている。



イカの骨取りプロト機



カキの身入り計測プロト機

●地域企業と本学教員との共同研究

農学部小藤田教授は、針葉樹に含まれる精油類の機能性、生理活性などの研究を行っている。宮古市の合板製造企業 H 社の工場では、合板製造工程で発生する針葉樹樹液を木質ボイラーの助燃剤として大半を焼却しているが、新たな価値可能性を小藤田教授との共同研究を実施することで見出そうとしている。現在は、消臭抗菌作用に関して研究を進めており、将来の事業化が期待されている。



研究方針の説明をする小藤田教授（後姿）

●地域課題解決プログラム

以前より、イサダの用途開発に関しては、本学教員や他機関の専門家の協力を得て取り組んできた。地域の要望としては、食品の原材料としての用途開発が望まれている。しかしながら、イサダを加熱処理するとエビなどとは異なる若干不快な香気が発生し、なかなか食品の材料になりえないのが現状である。そこで、本プログラムを利用し、香気の研究をしている農学部の山下教授と連携し、イサダの処理方法について検討を進めている。資源量も十分あり、また低脂肪高たんぱくなイサダが容易に食品原材料として使用できることができれば、様々な加工食品に応用できることを地域は期待している。



イサダ水揚げの様子（宮古港）

④大船渡エクステンションセンター



特任専門職員
(プロジェクトマネージャー)

小山 博国

【大船渡エクステンションセンター】

所在地：〒022-8501 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢 15
大船渡市商工港湾部内

電話：080-5745-9775

E-mail：ofunato @ iwate-u.ac.jp



主な
活動内容

企業訪問・面談数・意見交換会 125 件 (述べ数)

●共同研究進捗管理

→大船渡エクステンションセンターが関わる共同研究案件の進捗管理や企業側と大学側との様々な調整を行い円滑に事業を運営、また補助金等の予算執行状況等を管理を行う。

●企業訪問・ニーズ調査 課題抽出

→地場企業を訪問して情報収集活動を行い、企業の抱える課題を抽出しそれを解決に繋がるよう大学の知見やネットワークを活用したコーディネート活動を行う。

●先進技術調査、情報提供 技術支援

→学内外の先進技術を幅広く調査蓄積することにより、活動の基本になる企業訪問にてそれらの情報を提供するなどし、保守的な地場企業への意識改革や新技術導入などに繋げる活動を行う。

●マッチング活動

→上に記した活動を網羅する形でトータル的な産・学・官・金のマッチングコーディネート活動を行う。

●船体制御に関する研究

本件は平成29年度大船渡市の補助金採択になり昨年度に引き続き行っている共同研究案件です。これまで「ウニ・アワビ漁のための船体制御方式」の研究、“評価装置の開発”と着実に成果を上げてきた研究の継続案件で、高齢化が進む漁業者の身体負担と作業効率を改善するための装置の開発を目的として研究を行ってきた。今年度はこれまでの実験の成果を実際に漁を行うフィールドでデータを収集、実践に即した性能・挙動を得るために越喜来漁協の組合員の方々の協力を得て実験船に乗船してもらい実験の評価をして頂いたりと先に見据える商品化に繋がるような実験を行った。これは7～10m程度の実際の漁で使われる船体を用い制御実験を行い、また、今年度より自動衝突回避機能についても新たに解決課題として研究に取組み実験船に他の漁船を認識できる距離センサを搭載し自動衝突回避の制御実験等も行い良好な実験データを得ることができた。また、これらの実験と並行して今年度取り組む課題として、これまでに得た知見から確立した技術を事業者へ移転する作業も必要と判断し今年度、来年度と徐々に技術移転を行い大学主体の実験から事業者の商品化試作へ移行するよう取り組んできた。

●造船所の海中レール点検のための水中ロボット開発

大船渡市で小型船舶の建造、改造、修理をしている企業からの相談を受け本共同研究を開始した。相談内容は、船舶の修理は陸上のドックで行うため、船舶を専用台車に海中で載せて引き上げるが、専用台車の走るレールは岸から30m沖までの海底に固定しており、海水によって劣化することから、頻繁に保守点検を行う必要がある。保守作業や修理作業は専門業者に依頼せざるを得ないが、修理の必要性を判断する点検作業も潜水士へ依頼するしかなく、管理コスト低減における課題となっていた。また、潜水士による点検作業は潜水士による視認やビデオ撮影が主であり、能動的に情報を得られないことから、正確な判断もしづらいという問題点もあった。そこでこれらの課題を解決するために、海中のレールの動画を撮影してリアルタイムで陸上で確認出来るロボットを開発することになった。これらを解決することによるメリットは多く、潜水士の作業負担軽減、船舶の管理コストの低減、自らがどのタイミングでもレールを点検できることから、台車を下す際のトラブルにも迅速に対応でき、事故防止にも繋がり、社員の安全性や仕事の質の向上が見込まれる。この事業は大船渡市の補助金を活用して行った。

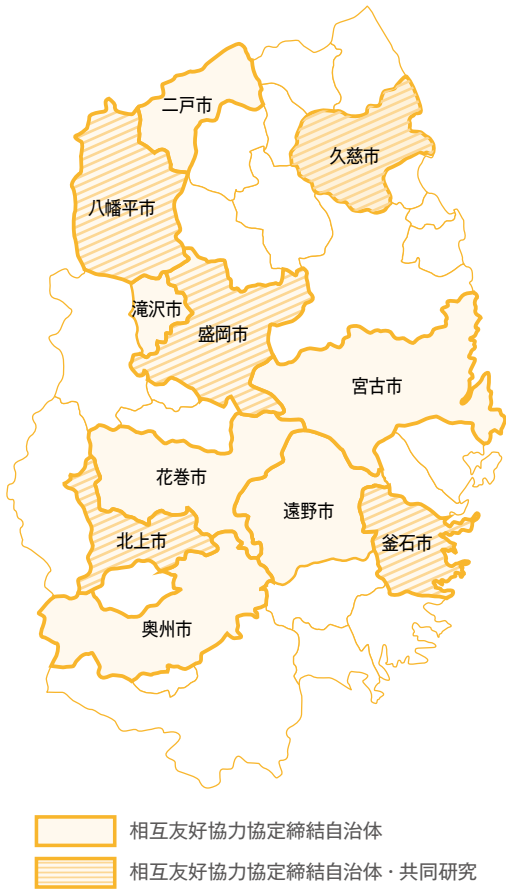
●地場鉄工所の IT 化促進支援

旋盤加工を軸に機械・金属加工を得意とする大船渡市の事業者は、地元の工場や作業現場で使用される機械設備等の部品補修・修理を行っているが、取引先から持ち込まれる修理品の中には図面が無いものもあり、その場合手書きで新たに図面を引き、仕様を定めたり過去の修理記録の中から図面を探し出し対応しており、その何れも紙媒体での作業で非効率であった。しかし、昨今の取引状況は短納期を求められることが増え、業務の効率化を行うことが必要であると捉え、社長との度重なる協議を行った結果、社内のデジタル化を決断するに至った。これによりこれまで紙媒体での記録をデジタル化により迅速な顧客対応を行える。手書きだった図面は3DCAD システムへ移行し、顧客信頼度の向上と高効率化を図ることとなった。具体的には、導入CADソフトの選定、ソフトの修得、業務への落とし込みまでを目標とした。この時点での問題点としては、過去に社長自ら2次元CADを学んだ経緯はあるのだが、独学だったために実践的な利用法を習得するには至らなかったもので、今回は開始から専門家の指導を得てプロフェッショナルとしての技術習得を目指した。大船渡エクステンションセンターはこのIT化支援にあたり、IT化への助言から専門家の選定・紹介、復興庁の補助事業の申請手続き等一貫した支援で社長をサポートした。

04 共同研究員について

相互有効協力協定締結自治体／共同研究

岩手大学では、県内 13 自治体*と文化・学術の分野で支援及び協力をするために相互友好協力協定を締結している。また、実践的な取り組みとして、平成 29 年度は相互友好協力協定締結自治体の 5 市（釜石市、北上市、盛岡市、久慈市、八幡平市）と共同研究を行い、地域創生部門に市職員を共同研究職員として受け入れた。
※旧水沢市と旧江刺市を含む。



平成 29 年度 共同研究員

釜石市  釜石市共同研究員 井上 諭宜	北上市  北上市共同研究員 千田 慎平
盛岡市  盛岡市共同研究員 金澤 健介	久慈市  久慈市共同研究員 大内田 泰之
八幡平市  八幡平市共同研究員 佐々木 靖人	

釜石市

活動内容

- **地元企業・団体のニーズ（課題）と、岩手大学のシーズ（技術・知見）をマッチング**
地元企業・団体・公的機関等を巡り、課題や前進の芽を拾い集めて、岩手大学の持つシーズや大学生の柔軟な発想をもって解決できないか検討して、マッチングとサポートする。
- **大学による地域人材の育成や、大学による地域への教育支援を側面からサポート**
将来の地域人材を育てるための大学の活動をサポートしたり、大学による復興・教育への支援について、マッチングやサポートを行う。
- **東日本大震災からの復興と、地域創生に向けた大学と地域の活動のサポート**
東日本大震災からの復興や、地域創生を見据えた大学と地域の協働活動に対して、大学と地域が円滑に事業を推進できるようにサポートする。

活動事例

● 地域連携フォーラム in 釜石の開催

平成 29 年 12 月 18 日、釜石情報交流センター釜石 PIT にて、東日本大震災後初の「地域連携フォーラム in 釜石」を行った。
当日は 100 名以上の市民の方々や、企業・行政関係者にご参加頂いた。
発表では、菅原悦子理事・副学長「岩手大学による地域創生への取り組み」を皮切りに、釜石市 井上諭宜共同研究員「釜石市共同研究員の活動を通じた地域連携の報告」、理工学部 水野雅裕教授「難削材加工の研究」、熊谷和彦特任研究員「岩手大学釜石ものづくりサテライトの活動について」、東京大学 山本清龍准教授「学生と市民による尾崎半島での観光資源発掘」、理工学部 大西弘志准教授「FRP 製造企業における産学官連携 - 高台避難階段の開発 -」、理工学部 金天海准教授「安全な森林作業のための杉間伐ロボットの開発」、田村直司産学官連携専門職員「魚のまち釜石モデルアクションプラン等の取り組みについて」と多様な成果報告が行われた。
本フォーラムでは、これら岩手大学とかかわりのある釜石市内の研究事例を、具体的ケースを提示しながら分かりやすく市民の皆様にお伝えすることができ、また、震災によって途切れることがなく、もしくはこれまで以上に岩手大学と釜石市を中心とした「産学官連携」「地域連携」活動が行われていることをお伝えすることができた。



地域連携フォーラム in 釜石（質疑応答）



地域連携フォーラム in 釜石（発表）

● 釜石市立小中学校での学生ボランティア活動のサポート

震災後から続く釜石市立唐丹小学校での児童達と運動を通じて交流する学校開放ボランティア、そして平成 28 年度から始まった釜石市立大平中学校での学習支援ボランティアについて、主催の三陸復興部門学習支援班、地域創生推進課とともにそれぞれ夏冬に開催した。
唐丹小学校では、震災後に遊び場や身体を動かす機会の減少した児童と一緒に、大学生ボランティアが遊びや運動を行った。夏は 8 月 3、4、8 日の三日間、冬は 1 月 11、12 日の二日間、目一杯大学生と児童が触れ合うことができた。児童達からは「大学生は堅苦しいイメージを持っていたが、とっても楽しいおもしろい人たちがいっぱいいてよかったです。私たちとあそんでくれてありがとうございました。」などのたくさんのメッセージを頂き、参加した大学生からは「一緒に遊ぶことで子ども達とより近い目線で見たり、接することができ、子どもを理解することの一步になりました」との感想が寄せられた。
大平中学校での学習支援ボランティアは、「沿岸地域・被災地域の中学生の学力向上」や「中学生の大学等への進路意識のきっかけづくり」を岩手大学と一緒に取り組みたいという大平中学校からの要望を、共同研究員が本学に相談したことが端緒となって昨年度から開催している。今年度は 8 月 8、10 日の夏季二日間、1 月 9、11 日の冬季二日間で開催した。会話を通じて次第に打ち解けた中学生と大学生は、勉強だけでなく大学生生活や今後の進路についてもコミュニケーションをとっている場面もあり、双方にとって学びのある時間となった。



大平中学校の学習支援の様子

北 上 市

活 動 内 容

● 企業ニーズと大学シーズのマッチング

・北上市内企業や関連企業群の抱えるニーズに対して、解決の糸口となるような大学シーズの活用についてマッチングを実施する。

● 外部資金獲得に向けた取り組み

・文部科学省、経済産業省等関連機関との個別相談会を実施し、大学シーズの社会実装に向けた研究資金の獲得を促進する。

● 学生の地元定着に向けた市内立地企業との連携

・北上市立地企業等に向けた個別のヒアリングを実施し、卒業生の県内就職率の上昇に向けた取り組みを実施する。
・希望する企業に対して、就職相談会等への参加やキャリア支援課と連携した企業 PR イベントへの参加、大学内の各研究室との個別面談などを実施する。

● 「平成 29 年度地域中核企業創出支援事業」採択案件へのフォローアップ

・医療機器の海外展開に向けた海外医療機器認証「クラス2」取得に向け、市内企業を中核企業として岩手大学・金融機関等を含めたコンソーシアムを形成し、米国の医療機器認証「クラス2」取得及び海外市場開拓に向けた取り組みを支援する。

活 動 事 例

● 企業ニーズと大学シーズのマッチング

地場企業の抱える課題等に対して、大学の研究シーズを活用した課題解決に向け、マッチング支援を実施した。北上市では、平成 29 年 4 月に開所した「産業支援センター」において、技術的支援の他、工業、商業、観光業及び農林業の包括的な支援を行っており、併設する岩手大学の金型技術研究部門とも連携し、企業の課題解決に向けた支援に取り組んだ。

平成 29 年 11 月には、北上市立博物館に収蔵されている重要文化財の新たな活用方法を模索追求するというテーマで、学生、エンジニアやデザイナーなどが参加し、CAD や各種 Fab 装置、提供ツール、持込デバイス・ツールを駆使したハッカソンイベントを開催し、その成果を踏まえ、平成 30 年度の地域課題プログラムへの申請に結び付けた。

https://licensecounter.jp/3d-fab/event/2017111020171113_66.html

▼北上ハックブツソン



● 外部資金獲得に向けた取り組み

アーリーフェーズにあるシーズの社会実装を目指し、文部科学省や経済産業省、JST、NEDO などの支援機関と共に、支援施策等の情報共有を密に行った。平成 30 年1月には東北経産局と連携し、本学において初となる複数の支援機関による個別相談会を実施し、文科省、経産省、総務省、NEDO、JSTと岩手大学発ベンチャーの5社が参加した。支援機関側からも、今後の施策への反映のため、新たな研究シーズの“発掘”にむけた貴重なヒアリングの機会となるなど、本学・支援機関・企業三者にとって大変有益な機会となった。

今後、国際競争力のある大学発ベンチャーへの期待が高まるなかで、地域と密着した起業家人材の育成等継続的なイノベーション・エコシステムの形成に向け、次世代の研究者発掘を目指す支援機関と協力し、引き続き支援を行っていく。

● 学生の地元定着に向けた市内立地企業との連携（COC+）

岩手大学卒業生の県内就職率の上昇に向けて、北上市の立地企業等に向けた個別のヒアリングを実施した。また、希望する企業に対しては、就職相談会等への参加やキャリア支援課と連携した企業 PR イベントへの参加、

大学内の各研究室との個別面談などを実施した。企業訪問でのヒアリングにおいては、どの企業でもリクルート活動の現状が大変厳しいという回答が多く、今後、優秀な人材を地元定着へ結びつけるためには生産だけでなく研究開発などの R & D 要素の高い拠点の必要性が強いと感じ、高い技術力を継承し、人材育成に取り組んでいる東京都大田区の各企業に対して取組内容のヒアリングを実施した。下町ボブスレーなど技術力を PR できる特徴的な取り組みを行うことが内外へのアピールとなり、優秀な学生に対してもアプローチしやすい土壌を作っており、今後、企業側から学生へのアプローチについて検討を進めていく。

● 「平成 29 年度地域中核企業創出支援事業」採択案件へのフォローアップ

平成 29 年度地域中核企業創出支援事業（経済産業省）において、市内立地企業を中核企業とする「医療機器分野における一貫生産体制を活用した国内外新市場創出及び米国 FDA 認証（クラス2）取得支援事業」が採択され、プロジェクトマネージャーとともに新市場の開拓に向けた支援を実施した。特にも、米国における医療機器販売資格である FDA 認証の「クラス2」取得（クラス1は既に取得）に向け、東北大学病院臨床研究推進センター所属のアドバイザーを迎え入れ、認証に向けた課題を明らかにしつつ、目標とすべき医療機器市場分野の分析を行った。

次年度以降は、中核企業の強みである一貫生産体制を活用し、OEM生産を希望する医療メーカーとのマッチング及び、米国における FDA 認証「クラス2」取得に向けた、継続した支援を行っていく。

▼地域中核企業創出・支援事業」の採択結果



盛 岡 市

活 動 内 容

● 市内企業・団体との連携推進

持続的な産業振興・地域振興に向けて、地域経済活性化及び地元志向人材育成の面から、市内企業・団体の支援を行うとともに、産学連携を推進する。

● 盛岡市産学官連携研究センター入居企業の支援

盛岡市産学官連携研究センター入居企業の地域展開支援を行うとともに、同センターの事業である「M I U カフェ」の企画立案も一部担当し、新たな出会い・連携の場を提供する。

● 盛岡市との連携推進

盛岡市・岩手大学連携推進協議会において、地域連携フォーラムほか各種事業を行うことにより、地域振興に向けた学官連携の推進を図る。

活 動 事 例

● 学内カンパニー Morito と株式会社坂東木材との連携

学内カンパニーとは、本学の事業で、学生を主体とした仮想企業を設立し、事業開発活動を経験させるものである。大学から予算が与えられ、事業企画から設計、部品発注、試作、製作、さらには業績把握を行い、損益確認までを行う。ただし、営利目的ではないため、売上げは岩泉町に寄付している。

Morito は、「人と森をつなぐ」を活動コンセプトとして、理工学部構内の伐採木を使用した製品（もくもくプレート及びベンチ等）を製作している。

学内カンパニーは、学生が主体となるものであることから、意欲はありながらも、技術的課題を抱えている場合があり、Morito の場合は、乾燥や製材に対する専門知識・技術を持っていないため、納品後の割れ・反りに悩んでいた。そこで、株式会社坂東木材をコーディネートし、平成 29 年 10 月、学外アドバイザーに就任いただいた。今後も継続して、株式会社坂東木材から Morito に対して助言をいただくとともに、Morito から株式会社坂東木材に対して乾燥・製材を依頼していく。



学外アドバイザー依頼

● 減塩対策醤油「いわて健民」のパッケージデザイン開発と書店での販売

減塩対策醤油「いわて健民」のパッケージデザインについて、本学と連携希望との依頼が株式会社浅沼醤油店からあった。この製品は、通常の醤油と変わらない味で、体内に蓄積される塩分が従来の約 1/2 に抑えられる設計のもので、味の評価について、農学部三浦靖教授の指導のもと、食品工学を学ぶ学生が関わっている。そこで、人文社会科学部の田中隆充教授をコーディネートし、「産学官連携の成果物であることをイメージさせるデザイン」というコンセプトで、インダストリアルデザインを学ぶ学生が、辞書を思わせるパッケージに仕上げた。そこから「本屋で売る醤油」というコンセプトが新たに生まれ、株式会社さわや書店に協力いただくこととなり、現在、さわや書店各店で販売されている。



減塩対策醤油「いわて健民」

● 多世代コミュニティの構築手法の検討

「多世代コミュニティの構築」について、盛岡生活文化研究室（市民団体）からの相談を受けて、人文社会科学部の五味壮平教授をコーディネートした。

実際の活動は、学生が卒業研究として取り組み、その概要は次のとおり。

- ①公募による一般市民・学生で、仮想の家族（多世代コミュニティ）を複数つくる。
 - ②その家族単位で、盛岡市内にある「市内の人にも市外の人にもおすすめしたい飲食店」を訪問し、食卓を囲み、団らんする。
 - ③食べたものや、そのときの感想を、絵と文章にまとめる。
- この活動を通して、卒業研究としては「多世代コミュニティの構築」についての考察を行ったが、副産物である絵と文章をまとめたものが、「もりおか家族のおいしいカレンダー」で、現在、さわや書店各店や岩手大学生協で販売されている。一般の方が描いた（書いた）絵と文章となるため、親しみやすい心温まるものとなっている。



もりおか家族のおいしいカレンダー

● MIU カフェの開催

MIU カフェは、盛岡市産学官連携研究センター（コラボ MIU）のロビーにおいて、教職員・学生、研究者、民間事業者及び一般市民等に対して、啓発や新たな連携の模索を目的として、平日夕方に、不定期（年間6回程度）に開催している。具体的には、話題提供者（学内外不問）を迎えて、研究・事業を紹介いただいたうえで、軽食を取りながら、ざっくばらんに参加者全員で意見・情報交換を行う。

一昨年度からは、コラボ MIU 及び岩手大学の門戸を、市民にさらに開放し、地域密着型シンクタンクとして認識されることを目的に、「出張 MIU カフェ」を開催している。



MIUカフェ



◀ collabo miu

久 慈 市

活 動 内 容

■ 地場産業の活性化支援

地場産業の振興を図るため、企業ニーズの把握に努めるとともに、技術的課題の解決に向けた研究者シーズを探索し、マッチングを図る。

■ 地域課題の解決支援

市内各地域における地域課題に関する情報収集を行うとともに、今後人口減少の進行に伴い生じる諸課題について検討し、それらを解決できる地域中核人材の育成・確保に向けた仕組みの検討を行う。

■ 地域連携システムの構築に向けた活動

産学官連携活動がそれぞれの主体にとってより身近となり、更なる連携を促進するため、久慈市をフィールドとする産学官連携活動の展開を支援するとともに、顔の見える関係性の構築に努める。

活 動 事 例

● 久慈市における移住促進施策の効果的な展開

久慈市の若年層（特に高校生）に対する移住施策等地域の効果的な情報発信を図るため、学内制度「地域課題解決プログラム」を活用し、岩手大学農学部広田研究室のサポートを受けながら、情報発信の在り方について検討を行った。

具体的には、久慈市の高校生を対象とした「岩手大学公開講座」を開催し、参加した高校生の卒業後の進路や将来の U ターン意向等についてワークショップを通じてグループごとに考えをまとめ、発表して情報共有を行った。また、高校生と大学生による「地域づくり体験講座」では、久慈を離れた若者への SNS 等による情報発信の方法について検討した。



岩手大学公開講座



高校生まちづくりワークショップ

● 久慈市関連企業等訪問の実施

平成 29 年 6 月 26 日、27 日に地域創生部門職員による久慈市関連企業 8 社の訪問を実施し、工場見学等を行いながら業務内容について理解を深めるとともに、企業が抱える技術課題等について意見交換を行った。

また、平成 29 年 9 月 27 日には、理工学部ものづくり EF 学内カンパニー「Heat Think Lab.」メンバーとともに企業訪問（3 社）を実施し、地域と大学（特に学生）が連携した取組を展開するためのフィールド探索を支援した。

平成 30 年 2 月 7 日には、enPiT（文部科学省：成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成）の取組推進を図るとともに、久慈市における拠点形成のための企業連携を模索するため、企業訪問（1 社）を実施した。



久慈市関連企業等訪問の実施

八 幡 平 市

活 動 内 容

■ 地元企業・団体のニーズ(課題)と、岩手大学のシーズ(技術・知見)をマッチング・サポート

地元企業・団体・公的機関等を訪問し、課題や前進の芽を拾い、岩手大学の持つシーズや大学生の柔軟な発想をもって解決できないか検討してマッチングとサポートを行う。また、地元企業へ様々な機関から得る情報をメルマガ形式で情報提供する。

■ 特産品開発の活動をサポート

八幡平市の新たな特産品の開発を目標に、生産者、加工販売者、岩手大学関係者とともに取組んでいる。また、関東への見本市への出展も積極的に行う。

■ 地域の課題解決に向けたきっかけ作り

地元企業・団体が抱えている課題を解決する一つの手段として岩手大学の活用を知ってもらうため、地域連携フォーラムを開催する。

■ 地域創生に向けた大学と地域の活動のサポート

地域創生を見据えた各種の大学と地域の協働活動に対して、大学と地域が円滑に事業を推進できるようにサポートする。

活 動 事 例

● 岩手大学開発品種ダイズ「貴まる」を活用した特産品の開発

本学が開発したダイズの新品種「貴まる」を岩手大学農学部寒冷フィールドサイエンス教育研究センター滝沢農場のサポートを受けながら八幡平市内で栽培し、地元加工業者が豆腐や納豆に加工し販売を行う取組みを行っている。

「貴まる」は、現在八幡平市のみで生産されており、生産から加工販売まですべて地元で行うことができるため、新たな特産品への期待が高まっている。

商品も納豆を中心に店頭に並んでおり、味の評判も良くリピーターも少しずつ増えてきているので、今後もさらに少しずつ生産量を増やしながら取組んでいく予定である。



貴まる「豆」



貴まる「勉強会」



貴まる「豆腐&納豆」

● 地域連携フォーラム in 八幡平の開催

平成 30 年 2 月 21 日、八幡平市において岩手大学地域連携フォーラムを開催した。初めに、基調講演をいただいた豊橋商工信用組合の中村勝彦様からは、地域の産業支援を長年行ってきた経験から成功するために必要なことなどの講演があった。また、菅原悦子三陸復興・地域創生推進機構長からは、岩手大学が進めている地域創生への取組について、同機構貫洞義一産学官連携コーディネーターからは、岩手大学の技術支援・シーズについてそれぞれ紹介があった。八幡平市派遣の佐々木靖人共同研究員からは、八幡平市での産学官連携の事例等についての活動報告を行った。

そのほか、農学部井良沢道也教授と学生から「八幡平市寺田地区における地域の方々と協働した防災力強化の取り組み」、農学部滝沢農場の由比進教授から「八幡平を起点に、大豆『貴まる』の普及をめざす + α」、農学部佐々木啓さん(学生)から「八幡平温泉郷来訪者の現状分析と今後の観光振興策の提案」、North Line40° +8 の工藤光栄共同代表から「高アミロース米の生産と地域に貢献できる農業の提案」について、それぞれ事例報告があった。

会場では、本学開発品種の大豆「貴まる」を使った納豆と豆腐の販売や本学と連携して栽培を行った高アミロース米の商品の展示も行った。今回のフォーラムでは、地元の平舘高校生を含む 140 名を超える方々に参加いただき、本学と連携した取り組みについて理解を深める機会を提供することができた。



フォーラム会場

5 市 共 通

活 動 事 例

● 「公務員のライフスタイル～ある市職員の日常から～」開催

平成 29 年 11 月 19 日にふるさといわて創造プロジェクト(COC+)の取組として開催された「ふるさと発見! 大交流会 in Iwate 2017」(ふるさといわて創造協議会主催)の併催フォーラムとして、学生にとって魅力ある生き方や働き方を考える機会創出に寄与することを目的に開催した。

本取組では、市役所の業務概要のほか、県内 5 市から本学に派遣されている共同研究員の日常について紹介し、学生とのフリートークの時間を設けながら意見交換を行った。

学生が進路選択を行う上で主体的に考えるきっかけづくりにつながることを期待したい。



公務員のライフスタイル

01 釜石キャンパス看板除幕式及び開設記念フォーラム

岩手大学では、農学部食料生産環境学科水産システム学コース（平成 28 年 4 月～）と大学院総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース水産業革新プログラム（平成 29 年 4 月～）が新設されたことに伴い、新たな学びの拠点として今春、釜石キャンパスを開設した。

新キャンパス開設を記念して、6 月 11 日に、野田武則釜石市長と岩渕明学長による釜石キャンパス看板除幕式を行うとともに、釜石市民の皆様へ広く岩手大学の教育・研究の取組を紹介するため、市内のホテルで「岩手大学釜石キャンパス開設記念フォーラム」を開催した。

看板除幕式で固い握手を交わす
岩渕明学長（左）と野田武則釜石市長（右）



フォーラムでは、最初に野田武則市長、岩渕明学長による主催者挨拶があり、その後、岩渕明学長から「岩手大学の新たな挑戦～釜石市との連携を通じて～」と題した講話が行われた。

岩渕学長は、平成 13 年 3 月 5 日に岩手大学と県内自治体で最初に相互友好協力協定を締結した釜石市とのこれまでの連携状況、さらに東日本大震災後の釜石市での取組など、具体例を挙げながら説明するとともに、釜石市民の皆様に釜石キャンパスを活用した教育・研究の今後の展望等を紹介した。



記念講演する岩渕明学長

続いて、高畑義人農学部長から農学食料生産環境学科水産システム学コース、八代仁大学院総合科学研究科長から大学院総合科学研究科地域創生専攻について、それぞれのコース・研究科を開設するに至った背景、教育理念、求める人物像などを説明した。

さらに所属学生の報告では、農学部食料生産環境学科水産システム学コース2年生の小笠原咲紀さんが、学生生活や今後の抱負などを発表した。小笠原さんは、釜石市出身で、東日本大震災で水産業被害を身近で見てきたことから水産分野に興味をもち、進学先を岩手大学の水産システム学コースを選択し、震災から6年たった現在でも、内陸部や沿岸部でボランティア活動を継続している。

また釜石キャンパスで既に教育を受けている大学院総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース水産業革新プログラム1年生の大場由貴さんは、釜石キャンパスでの研究内容と釜石市での生活について発表した。学生が釜石キャンパスで取り組んでいる研究や釜石での学生生活を伝えることで、釜石市民の皆様が学生をより身近に感じていただく機会となった。



所属学生の報告の様子

フォーラムには 100 名以上も参加していただき、参加者からは「聞きたいと思っていたことが聞けて、進路決定に役立った」、「釜石市の水産業は課題が多い。課題が多いということは研究すべき事項も多いということ。岩大釜石キャンパスの今後の取り組みに大いに期待する」、「市民の身近に国立大学がやってきます。今後の人材育成としても、地元の子供達等が水産学に興味をもつような様々な企画を展開して頂ければと思います」など、様々な視点から、釜石キャンパスに期待する声が寄せられた。

本学は、今後、釜石キャンパスの教育研究分野を充実させ、新たな地域の創出に取り組んでいく。

02 地域連携フォーラム

岩手大学は県内の11自治体と相互友好協力協定を締結し、実質的な取り組みとして協定締結自治体の中から5市（釜石市、北上市、盛岡市、久慈市、八幡平市）と共同研究を行い、市職員を共同研究員として三陸復興・地域創生推進機構に受け入れている。さらに地元企業や一般市民の方々に共同研究の成果や岩手大学の活動を紹介するため、共同研究に取り組んでいる自治体と共催で地域連携フォーラムを開催している。

● in 盛岡 平成29年11月2日（木）

ライフサイエンス研究をテーマに、本学発ベンチャー企業の健康長寿の実現に向けた商品開発や本学の教員による医薬品産業分野での先進的な研究・事例等を紹介した。



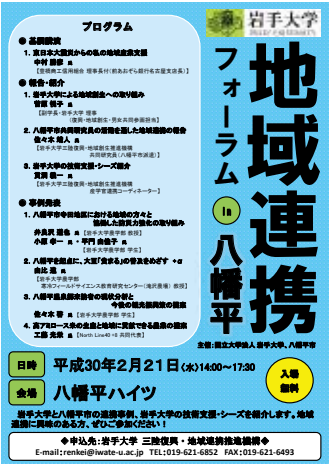
● in 釜石 12月18日（月）

本学釜石キャンパスや、本学教員と地元企業との共同研究や釜石市をフィールドとした研究事例、被災者への学習支援、漁協女性部との活動など地域と密着した活動などを紹介した。



● in 八幡平 平成30年2月21日（水）

本学と企業の連携による商品開発や、学生による防災教育・観光振興の研究事例紹介。また、本学の技術支援・シーズの紹介を行った。



03 首都圏向け報告会

12月3日に日比谷図書文化館コンベンションホールを会場に第2回首都圏向け報告会を行った。この報告会は、東日本大震災から6年9ヵ月が経過し、被災地以外での記憶の風化が懸念されていることから、被災地の現状や課題を首都圏の方々に理解してもらうとともに、被災地の今後についてともに考えていくことを目的に開催した。

岩淵学長のあいさつの後、後援機関を代表して復興庁の清田参事官に挨拶を頂き、「新たなコミュニティのづくりと学生の関わり～地域×学生=?～」をテーマに、地域コミュニティの活動に関わる4グループが取組報告を行った。

三陸復興部門地域コミュニティ再建支援班長の広田純一農学部教授がコミュニティづくりについて、震災後の被災地の現状を具体的な事例・データを含めて説明し、同班の船戸義和特任研究員が陸前高田市の災害公営住宅で行っている自治会設置支援について活動風景の動画を活用しながら紹介した。

次に、被災地訪問学修やみちのく潮風トレイルマップづくりなどを行っている広田教授の初年次自由ゼミナール受講学生グループ、継続的に被災地でのコミュニティづくりや、こどもの遊び場づくりを行っている本学サークルの三陸復興サポート学生委員会が、これまでの成果や今後の活動予定について紹介した。



被災地のコミュニティづくりについて報告する広田教授



自治会設置支援について報告する船戸特任研究員



参加者からの質問に答える学生

参加者からは、「発想が非常に柔軟だと思う。大人が与えたことを、学生が人生の選択に影響を受けたというほど、学びとしていることに今更ながら驚いた」など学生に対する意見やアドバイスを多数頂いた。

最後に、地域防災教育研究部門の教育学研究科森本晋也准教授が「平成28年度台風10号被害と防災教育」をテーマに、観測史上初めて東北地方の太平洋側に上陸した台風10号の被害、それに対する本学の支援について講演を行った。自分が住む地域の災害リスクを考えて常に避難方法の確認や情報収集すること、水害を防ぐためにはハザードマップを活用することが大事であると防災教育の必要性を説明した。

当日、会場には本学卒業生や三陸の出身者など昨年を上回る100名以上の方に足を運んで頂き、参加者からは「東京にいと被災地というのはとても遠く感じます。東京の方から興味・関心が少なくなっている気がしますので、今後も継続して情報発信していただけたらと思います。」「大学全体が熱くかわかって下さり、頭が下がります。風化させないために頑張ってください。」などの本学に期待する声が寄せられた。本学は震災地の情報量が少なくなっている首都圏で、今後も継続的に報告会等を通じて情報発信に取り組んでいく所存である。



台風10号被害と防災教育について講演する
森本准教授



活動紹介をするサポート学生委員会の学生

04 VMATキックオフシンポジウム ～東北初の動物医療支援チーム発足を考える～ 開催

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の三陸復興部門被災動物支援班は1月20日にVMATキックオフシンポジウムを開催した。VMATとは獣医師や動物看護師などが大規模災害などの際に動物救護活動をするための専門的訓練を受けた獣医療チームのことであり、過去の震災での獣医師等の活動をもとに東北初のVMAT結成に向けて、課題や支援体制などの理解を深めた。

はじめに被災動物支援班の山崎弥生特任研究員が「東日本大震災における岩手大学の取り組み」をテーマに東日本大震災時の活動と現在行っている取組について紹介した。同班は震災直後から被災地に移動診療車（ワンにゃん号）を派遣し、高度獣医療の提供をしたり、被災地の子ども向けに「命について考えるセミナー」を開催し、小動物とふれあうアニマルセラピーなどの被災地支援を行っている。

基調講演では、日本獣医生命科学大学獣医学部の羽山伸一教授が「VMAT災害医療支援チームについて-被災動物救護体制の課題と対策-」と題して、日本の被災動物支援体制の不十分さ、各都道府県にVMATを作り組織化する必要性などを説明した。東日本大震災以降も災害が続ぎ、住民や飼育動物が被災している日本で、共通対策を進めるには行政や動物医療従事者の役割を明確にし、協力体制や人材育成手法を確立していくことが最優先課題であると述べた。群馬県獣医師会が設立した、群馬VMAT隊長で小此木動物病院の小此木正樹院長は「群馬県におけるVMATの取り組みについて」と題して、熊本地震でチームを派遣した活動事例や、動物を連れた傷病者への対応訓練の様子を紹介した上で、被災地で正確に情報収集するためには関係者との訓練が必要不可欠と提言した。

最後に基調講演者2名の他、司会で同班班長の佐藤れえ子教授、パネリストで岩手県獣医師会の佐々木一弥会長、動物愛護団体「動物いのちの会いわて」の下机都美子代表、同班岡田啓司教授を加えパネルディスカッションを行い、「東北のVMAT発足を考える」をテーマに議論され、「獣医療関係だけでなく保健や福祉など他分野の人と常に顔の見える関係を築いておくことが大切である。」「震災時は人命救助が優先だが、ペットのことが気になり、不安な生活を送る被災者は多い。動物の命を救うことで被災者支援につなげたい。」などの意見が出た。

同班は今後も被災動物支援を継続していきながら、獣医師向けのセミナーなどを開き、東北初のVMAT設立を目指していく。



「東北のVMAT発足を考える」をテーマに議論されたパネルディスカッションの様子



岩手大学の東日本大震災以降の
取り組みについて紹介する
三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門
被災動物支援班の山崎弥生特任研究員



基調講演を行う
日本獣医生命科学大学獣医学部の
羽山伸一教授



基調講演を行う群馬VMAT隊長
小此木動物病院の小此木正樹院長

01 学協会誌（論文）

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
三陸復興部門▼					
被災動物支援班					
H Shino, Y Otsuka-Yamasaki, T Sato, K Ooi, O Inanami, R Sato and M Yamasaki,.	Familial congenital methemoglobinemia in Pomeranian dogs caused by a missense variant in the NADH-cytochrome b5 reductase gene	J Vet Intern Med	32(1):165-171.	2018 Jan	The American College of Veterinary Internal Medicine (ACVIM)
Sato I, Yamagishi R., Sasaki J., Satoh H., Miura K., Kikuchi K., Otani K. and Okada K.	A method for estimating radioactive cesium concentrations in cattle blood using urine samples	Anim. Sci. J.	88・2100-2106	2017	日本畜産学会
Sato, I., Sasaki, J., Satoh, H., Murata, T., Otani, K. and Okada, K.	Radioactive cesium and potassium in cattle living in the "zone in preparation for the lifting of the evacuation order" of the Fukushima nuclear accident	Anim. Sci. J.	88・1021-1026	2017	日本畜産学会
Sasaki, J., Hiratani, K., Sato, I., Satoh, H., Deguchi, Y., Chida, H., Natsuhori, M., Murata, T., Ochiai, K., Otani, K., Okada, K., Ito, N.	Pathological findings of Japanese Black Cattle living in the restricted area of the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident	Anim. Sci. J.	88・2013-2016	2017	日本畜産学会
地域コミュニティ再建支援班					
麥倉 哲, 高松 洋子, 梶原 昌五	東日本大震災被災地における心の復興の現状と支援課題ー岩手県大槌町を中心にー	日本都市学会年報	VOL.50,279-288	2017/5/31	日本都市学会
麥倉 哲	書評（新原道信編著『うこぎの場に居合わせるー公営団地におけるリフレクシヴな調査研究』中央大学出版部 2016年）	地域社会学会年報	Vol.29,115-116	2017/5/15	地域社会学会
農地復興班					
金山 素平, 工藤 基, 藤井 芽衣	カキ殻を用いた土の固化処理に関する研究	農業農村工学会論文集	85 巻 2 号, L137-L143	2017/7/12	農業農村工学会
増田 隆晴, 築城 幹典	牧草地における空間放射線量率の平均値推定に必要なデータ数	システム農学	34 巻 1 号, 1-6	2018/2/1	システム農学会
山本 清仁, 小林 晃, 原科 幸嗣, 武藤 由子, 倉島 栄一, 塚田 泰博	電磁探査と地中レーダー探査による間隙水イオン濃度の広域的測定手法	第 12 回環境地盤工学シンポジウム発表論文集	pp.411-448	2017/9/25	地盤工学会
農林畜産業復興総合計画班					
山本 清龍	高知県南国市沿岸部津波浸水想定地域の防災・減災にむけた自然と地形の活用可能性	ランドスケープ研究	80・5・669-672	2017/4/1	
佐々木 薫子, 山本 清龍	石巻市における東日本大震災後のダークツーリズムの実態と課題	日本観光研究学会全国大会学術論文集	32・341-344	2017/12/1	
佐々木 啓, 山本 清龍	白神山地ビジターセンターの展示に対する来館者の注視行動と意識	日本観光研究学会全国大会学術論文集	32・149-152	2017/12/1	
齋藤 雅晃, 山本 清龍	十和田湖と奥入瀬溪流の来訪者特性比較	日本観光研究学会全国大会学術論文集	32・97-100	2017/12/1	
地域創生部門▼					
木村 直弘	〈摩擦の劇「ドラマ!」〉としての〈言葉書〉ー井上有一における宮澤賢治童話との接点をめぐってー	アルテス・リベラレス	100・73-108	2017/6/1	岩手大学人文社会科学部
大野 眞男・竹田 晃子	宮沢賢治による方言表記の工夫と地域に根ざした国語観	賢治学	4・73-108	2017/7/20	岩手大学宮澤賢治センター
小島 聡子	標準語と宮沢賢治——方言と標準語のはざままで	賢治学	4・44-60	2017/7/20	岩手大学宮澤賢治センター
田中 成行	童話「毒もみのすきな署長さん」と能「鵜飼」と常不経菩薩——署長さんの「毒もみ」と鵜使いの「鵜飼」の「面白さ」	賢治学	4・98-137	2017/7/20	岩手大学宮澤賢治センター
山本 昭彦	「きみにならびて野に立てば」考	賢治学	4・140-149	2017/7/20	岩手大学宮澤賢治センター
木村 直弘	法華文学としてのイーハタヴ童話「かしはばやしの夜」——オノマトベの共振的效果に根ざした「法華文学ノ創作」をめぐって	賢治学	4・150-186	2017/7/20	岩手大学宮澤賢治センター
木村 直弘	〈蛭虫舞手（アンネリダタンツエーリン）〉あるいは「tube」としてのシン・ゴジラ——「シン・ゴジラ」における「春と修羅」の含意をめぐる試論	賢治学	5・36-82	2018/7/25	岩手大学宮澤賢治センター
生涯学習部門▼					
朴 賢淑	多文化社会における高齢化とその支援の在り方についてー豪州（国）人福祉会を事例にしてー	岩手大学人文社会科学部紀要	「アルテスリベラレス」第100号, pp43ーpp54	2017/6/1	岩手大学人文社会科学部
朴 賢淑	生協事業の展開をととした地域づくりへー韓国における「幸福生協連合会」を事例にしてー	生協総研レポート	No.86.pp16-pp25	2018/3/1	生協総研
ものづくり技術教育研究部門▼					
Shusaku Nasu, Satoshi Fujita, Noriaki Furusato, Satoru Yamada and Sadato Hiratsuka:	Effect of Casting Skin Condition on Fatigue Strength of Gray Cast Iron	International Journal of Metalcasting	11・4・155-161	2017/4/1	The Casting Development Center
小田 昭浩, 村田 博敏, 井田 民男, 堀江 皓, 平塚 真人	4種類のバイオマスを原料とするバイオコークスの比重と圧縮強度	鑄造工学	89・6・343-348	2017/6/10	日本鑄造工学会
小田 昭浩, 武差 徹, 村田 博敏, 佐藤 庄一, 及川 春樹, 小山 裕二, 米倉 勇雄, 井田 民男, 堀江 皓, 平塚 真人	りんご搾りかすで製造したバイオコークスを用いてキュボラ溶解した鑄鉄の材質	鑄造工学	89・6・349-355	2017/6/10	日本鑄造工学会

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
小綿 利憲, 雷雨超, 平塚 真人, 藤島 晋平	希土類元素を接種した片状黒鉛中の黒鉛化と機械的性質	鑄造工学	89・11・689-694	2017/11/10	日本鑄造工学会
Takaki Uchiyama, Hidenori Goto, Hidehiko Akiyoshi, Ritsuko Eguchi, Takao Nishikawa, Hiroshi Osada, Yoshihiro Kubozono	Difference in gating and doping effects on the band gap in bilayer graphene	Scientific Reports	7, Article number: 11322	2017/12/12	Nature Research
T. Abe, Y. Nameshida, Y. Ogata, A. Miura, A. Nakagawa, T. Chiba, Y. Kashiwaba, M. Daibo, I. Niikura, Y. Kashiwaba, H. Osada	Improvement of the photoconductive characteristics of ZnO single crystals by annealing	Journal of Electronic Materials	Online, 1-3	2018/3/8	Springer
叶 榮彬 他 2 名	Effect of solvent vapor annealing on TiOPc thin films and the application on hybrid solar cells	International Journal of Engineering and Applied Sciences	4・9・114-116	2017/9/1	Engineering and Applied Sciences
Ichiro Hirosawa, Takeshi Watanabe, Tomoyuki Koganezawa, Mamoru Kikuchi, and Noriyuki Yoshimoto	Surface morphology of vacuum-evaporated pentacene film on Si substrate studied by in situ grazing-incidence small-angle X-ray scattering: I. The initial stage of formation of pentacene film	Jpn. J. Appl. Phys.	57・03EG12	2017/7/10	Jpn. Appl. Phys.
梅川 結, 伊藤 菊一	ザゼンソウの恒温性を支配する負の活性化エネルギー	化学と生物	55: 520-523	2017/7/	日本農芸化学会
平井 彰, 桑 静, 會澤 純雄, 平原 英俊	溶液浸せき法によるスズ系金属表面への トリアジントリチオールの吸着	色材協会誌	90・5・161-167	2017/5/15	色材協会
Jing Sang, Riku Sato, Sumio Aisawa, Hidetoshi Hirahara, Kunio Mori	Hybrid joining of polyamide and hydrogenated acrylonitrile butadiene rubber through heat-resistant functional layer of silane coupling agent	Applied Surface Science	412・121-130	2017/8/31	Elsevier
ang Zhang, Zhixin Kang, Takeshi Bessho, Hidetoshi Hirahara, Jing Sang	Synthesis of Ag/CNT composite films on photo-grafted polyimide substrate by two component spin-spray deposition [Journal of Industrial and Engineering Chemistry	Journal of Industrial and Engineering Chemistry	56・355-363	2017/10/15	Elsevier
Takeshi Kimura, Yusuke Muraoka, Kaori Amano, Toshiyuki Fujio, Takao Nishikawa, TsukasaNakahodo, Hhisashi Fujihara	Preparation, Structure, and Electrochemistry of Porphyrinato Titanium (IV) Benzenedithiolates with a Trithiole Ring, a Dithiin Ring, and Two 2-Cyanoethylthio Groups	Journal of Porphyrins and Phthalocyanines	22-1-3:157-164	2018/1/1	
Takeshi Kimura, Hiroki Muraoka, Shiduko Nakajo, Satoshi Ogawa, Satoshi Yamamoto, Nagao Kobayashi	Preparation and Optical and Electrochemical Properties of Phthalocyanines with Four or Eight Diphenylphosphino, Diphenylphosphineoxide, and Diphenylphosphinesulfide Groups	European Journal of Organic Chemistry	10-1255-1264	2018/1/1	
三陸水産教育研究部門▼					
Goto, T., A. Takanashi, S. Tamada and K.-I., Hayashizaki	Temporal changes in the surf zone fish assemblage in Otsuchi Bay, Pacific coast of northeastern Japan, with comments on influences of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami.	Coastal Marine Science	40 巻・2 号・55-65	2017/10/25	東京大学大気海洋研究所
Tsukagoshi H., Terui S., Sato S., Abe S.	Development and characterization of 13 polymorphic microsatellite DNA markers for pink salmon (Oncorhynchus gorbuscha) using next-generation sequencing approach	J. Appl. Ichthyol.	33 巻 1204-1207	2017/6/26	wiley
Matsuyama K., Cai M., Azuma N., Abe S., Tsukagoshi H	A nondestructive, rapid and reliable methods to extract DNA from pedal mucus of Ezo-awabi (Haliotis discus hannai) for genetic studies	Fish Genetics and Breeding science	47 巻 11-16	2017/10/1	水産育種研究会
Horiguchi Ryo, Nozu Ryo, Hirai Toshiaki, Kobayashi Yasuhisa, Nakamura Masaru	"Expression patterns of sex differentiation-related genes during gonadal sex change in the protogynous wrasse, Halichoeres trimaculatus"	General and Comparative Endocrinology	257・67-73	2017/6/17	Elsevier
小川 智史, 飯島 啓, 柴田 安司, 中村 將, 平井 俊朗	ニジマス各臓器のヘマトキシリン・エオシン染色像に対するブアン固定条件の影響	帝京科学大学紀要	14・65-75	2018/3/31	帝京科学大学
飯島 啓, 柴田 司, 野津 了, 中村 將, 平井 俊朗	コイ鱈の血中エストロゲン量に対するストレスホルモンの影響についての予備的検討	帝京科学大学紀要	14・163-169	2018/3/31	帝京科学大学
Lanlan Luan, Shalu Fu, Chunhong Yuan, Gakushi Ishimura, Shiguo Chen, Jianchu Chen, Yaqin Hu	Combined effect of superchilling and tea polyphenols on the preservation quality of hairtail (Trichiurus haumela)	International Journal of Food Properties	20 : S992-S1001	2017/8/1	
Haixia Yu, Shuibing Yang, Chunhong Yuan, Qinglan Lu, Yuan Li, Shiguo Chen, Yaqin Hu	Application of biopolymers for improving the glass transtion temperature of hairtail fish meat	J Sci Food Agric	98 : 1437-1443	2017/10/30	
Lanlan Luan, Chunhua Wu, Liping Wang, Yuan Li, Gakushi Ishimura, Chunhong Yuan, Tian Ding, Yaqin Hu	Protein denaturation and oxidation in chilled hairtail (Trichiurus haumela) as affected by electrolyzed oxidizing water and chitosan treatment	International Journal of Food Properties	20(S3) : s2696-s2707	2018/1/8	
Yaqin Hu, Ying Shao, Chunhua Wu, Chunhong Yuan, Gakushi Ishimura, Wenjuan Liu, Shiguo Chen	γ -PGA and MTGase improve the formation of ε -(γ -glutamyl) lysine cross-links within hairtail (Trichiurus haumela) surimi protein.	Food Chemistry	242 : 330-337	2018/3/1	
後藤 友明	岩手県の沿岸漁業における東日本大震災からの復旧・復興に関する研究	水産海洋研究	81 巻・4 号・337-344	2017/11/10	水産海洋学会
後藤 友明	岩手県における漁業復興の現状と課題	日本水産学会誌	84 巻・2 号・294-297	2018/3/15	日本水産学会
平井 俊朗, 小川 智史, 柴田 安司, 阪本 憲司, 原 将, 中嶋 正道	ギンブナに対する低線量放射性セシウム長期曝露の影響についての組織学的検証	月刊海洋	50・2・53-60	2018/2/1	海洋出版
中嶋 正道, 平井 俊朗, 阪本 憲司, 鈴木 俊二, 酒井 義文	シンポジウム記録 福島県の淡水域における放射能汚染と魚類に及ぼす影響：これまでとこれから はじめに	日本水産学会誌	83・5・802		日本水産学会
平井 俊朗, 小川 智史, 柴田 安司, 阪本 憲司, 原 将樹, 中嶋 正道	シンポジウム記録 福島県の淡水域における放射能汚染と魚類に及ぼす影響：これまでとこれから II. 淡水域汚染が淡水魚類に与えた影響について II -3. ギンブナ造血器官に及ぼす放射線の影響ー飼育実験による低線量放射性セシウム長期曝露影響の組織学的検証ー	日本水産学会誌	83・5・810		日本水産学会
袁 春虹	中国のチョウザメ養殖と流通・消費と加工利用動向	養殖ビジネス	55(3) : 59-62	2018/3/10	緑書房
地域防災教育研究部門▼					
堀 和彦, 井良沢 道也	豪雪地帯における放置林の現況	東北の雪と生活	32.81-84	2017/11	雪氷学会東北支部
Tomoko Yamazaki	School and Disaster Culture in Sanriku Coast, Japan	American Association of Geographers- Annual Conference in Boston	論文発表, プロシーディング	2017/4/6	American Association of Geographers
山崎 友子	3.11 後の英語教育を志向して	岩手大学英語教育論集	10 号, 1-11 頁	2018/3/1	岩手大学教育学部英語教育科

著者名	論文題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
Tomoko Yamazaki, Fekete Reka, James Hall	The Translation Project “TSUNAGU” for Inland Students in lwate after 3.11 and its Implications for EFL Education	東北英語教育学会研究紀要	38, 117-131	2018/3/31	東北英語教育学会
Anupap Wanasawan, Hidekazu Yamamoto, Tsuyoshi Saito	Estimation of S-wave velocity structures in Morioka area by dense microtremor array observations	東北地域災害科学研究	54・217-222	2018/3/1	自然災害研究協議会東北支部
荒井 貴紀, 山本 英和, 齊藤 剛	浅部2次元 S 波速度構造推定を目的としたリニアアレイで観測された3成分短周期微動の地震波干渉法解析	東北地域災害科学研究	54・223-228	2018/3/1	自然災害研究協議会東北支部
坂口 智浩, 山本 英和, 齊藤 剛	アレー観測された水平動微動の周波数波数解析法による Love 波の位相速度の推定―盛岡市における適用例―	東北地域災害科学研究	54・229-234	2018/3/1	自然災害研究協議会東北支部
鈴木 舞, 山本 英和, 齊藤 剛	岩手県 の Hi-net 観測点で観測された常時微動の地震波干渉法による群速度の推定	東北地域災害科学研究	54・235-240	2018/3/1	自然災害研究協議会東北支部
大堀 道広ほか 36 名	福井県勝山盆地における微動観測	日本地震工学会論文集	17・4・170-181	2017/7/1	日本地震工学会
小澤 敬二, 村上 和男, 中村 由行, 阿部 郁男, 岡田 智也, 小笠原 敏記, 高尾 敏幸, 柴木 秀之	湾口防波堤海底部の通水管による貧酸素化の抑制効果	土木学会論文集 B2（海岸工学）	73・2・I_469-I_474	2017/11	土木学会
小笠原 敏記, 室井 宏太	入射角を考慮した波圧の建物耐力評価に関する実験	土木学会論文集 B2（海岸工学）	73・2・I_907-I_912	2017/11	土木学会
水野 辰哉, 小笠原 敏記	水位上昇に伴う流れの作用を受けた自動車の運動特性に関する実験	土木学会論文集 B2（海岸工学）	73・2・I_1165-I_1170	2017/11	土木学会
松林 由里子, 小松 広幸, 小笠原 敏記	簡易な海岸地形計測のためのマルチコプターの適用	土木学会論文集 B2（海岸工学）	73・2・I_1627-I_1632	2017/11	土木学会
K. Kobayashi, M. Yoshizawa, D. Oyama:	Development of SQUID Magnetometer With Direct-Feedback Noise Cancellation for Magnetocardiogram Without Magnetically Shielded Room	IEEE Trans. on Applied Superconductivity	Vol.27, Issue 4, 1601504	2017/6	IEEE
W. Sun, K. Kobayashi	Simulation of Extended Source Localization using sLORETA Method for Magnetocardiography	Journal of the Magnetics Society of Japan	Vol.41, No.4, 75-80	2017/7	日本磁気学会
M. Iwai, K. Kobayashi	Dimensional contraction by principal component analysis as preprocessing for independent component analysis at MCG	Biomedical Engineering Letters	Volume 7, Issue 3, 221-227	2017/8	Springer
W. Sun, K. Kobayashi	Estimation of Magnetocardiography Current Sources using Reconstructed Magnetic Field Data	IEEE Trans. Magnetics	Vol.53, No.11, 5001003	2017/11	IEEE
松林 由里子, 小松 広幸, 小笠原 敏記	簡易な海岸地形計測のためのマルチコプターの適用	土木学会論文集 B2（海岸工学）	Vol. 73, No. 2	2017/11/1	土木学会
菊池 義浩, 森本 晋也	タイムライン導入に向けた学校における豪雨災害対応の検討～平成 28 年台風第 10 号で被災した岩泉町の事例から～	農村計画学会誌	36・3・414～417	2017/12/30	農村計画学会
堀 久美	「女性」が担った復興支援活動の意義と可能性―個別の要望に対応した物資支援に着目して―	女性学研究	25・145-167	2018/3	大阪府立大学女性学研究センター
堀 久美	震災復興をめざす女性の活動の意義と可能性―女性たちへのインタビュー調査より―	現代行動科学会誌	33・1-10	2017/9	現代行動科学会
平泉文化教育研究部門 ▼					
藪 敏裕	『清華大学蔵 戦国竹簡(巻)』(巻)夜篇に見える「語」と「詞」の解釋について	『新しい漢学漢文教育』64 号	64・27-39	2017/6/30	全国漢文教育学会
藪 敏裕	『上海博物館蔵 戦国楚竹書（一）』から見た「毛詩」に見える「縦照」の解釈	『中國出土資料研究』第 21 号	21・22-39	2017/7/31	中國出土資料學會
藪 敏裕	《荀子》对《天作篇》《我將篇》的解詁及其意義	『孔子研究』2017 年第 1 期	60-70	2017/2/28	中国孔子基金会
劉 海宇	中尊寺供養願文写本の基礎的研究―書の見点から	岩手大学平泉文化研究センター年報第 6 集	6・1-15	2018/3/31	岩手大学平泉文化研究センター
劉 海宇	五代詞宋期における金銀字一切経及びその政治的意義	平泉文化研究年報第 18 号	18・17-21	2018/3/31	岩手県教育委員会
劉 海宇	中尊寺金銀字一切経のルーツ	『中尊寺と平泉をめぐる』	88-89	2018/3/31	小学館
劉 海宇	漢代画像碑中の西王母持経器圖考	『清華大学学報（哲学社会科学版）』2018 年第 1 期	33・112-119	2018/11/31	中国清華大学
劉 海宇	從清華簡「鼎」字構形看《莊子・馬蹄》篇「鼎」、「紈」異文	『漢学研究』第 19 輯	19・107-116	2017/12/31	韩国慶星大学
劉 海宇	詩經・周頌・載見「曰求厥章」解詁	『孔子学刊』第 8 輯	8・128-136	2017/10/31	中国孔子研究院
劉 海宇	日本飛鳥京石刻群與儒家天命思想	『東亜儒学研討暨「一带一路」儒家文明創新聯盟成立大会論文集』	83-93	2017/11/30	中国曲阜師範大学
伊藤 博幸	秦衛征伐物語の研究（一）	岩手大学平泉文化研究センター年報第 6 集	6・54-66	2018/3/31	岩手大学平泉文化研究センター
伊藤 博幸	古代閉村に関する二、三の問題	『古代国家と北方世界』	225-242	2017/10/29	同成社
會澤 純雄, 平原 英俊, 三浦 謙一, 徳留 大輔	ポータブル複合 X 線分析による白磁と青磁の胎土分析―中国及び平泉出土資料との比較研究	平泉文化研究年報第 18 号	18・23-32	2018/3/31	岩手県教育委員会
八木 光則	アイヌ語系地名と蝦夷	『古代国家と北方世界』	243-262	2017/10/29	同成社
菅野 成寛	日本経塚信仰の起源と源流を探索 II ―韓国調査中間報告	岩手大学平泉文化研究センター年報第 6 集	6・69-88	2018/3/31	岩手大学平泉文化研究センター

02 著書

著者名	掲載誌名	巻・号・ページ	発行年月日	出版社	発行機関
地域創生部門 ▼					
	岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学』	第 4 輯・全 222 頁	2017/7/20	東海大学出版部	岩手大学人文社会科学部
	岩手大学宮澤賢治センター編『賢治学』	第 5 輯・全 206 頁	2018/7/25	東海大学出版部	
生涯学習部門 ▼					
朴 賢淑	成人教育の社会学―パワー・アート・ライフコース 高橋 満 編著	pp167-pp189	2017/9/1	東信堂	
平泉文化教育研究部門 ▼					
菅野 成寛 編	中尊寺と平泉をめぐる	1-127	2018/3/31	小学館	岩手大学人文社会科学部

03 研究報告・活動報告

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
三陸復興部門 ▼					
被災動物支援班					
岡田 啓司	「福島原発事故が警戒区域の家畜にもたらしたもの」警戒区域の家畜に起きたこととその経緯	臨床獣医	36・10-14	2017	緑書房
佐藤 至	「福島原発事故が警戒区域の家畜にもたらしたもの」牛の汚染状況と放射性セシウムの分布	臨床獣医	36・15-19	2017	緑書房
佐々木 淳	「福島原発事故が警戒区域の家畜にもたらしたもの」被曝牛の病理	臨床獣医	36・20-23	2017	緑書房
地域コミュニティ再建支援班					
麥倉 哲、高松 洋子, 梶原 昌五	東日本大震災被災地における心の復興の現状と支援課題―岩手県大槌町を中心に―	日本都市学会年報	VOL.50.279-288 頁	2017/5/31	日本都市学会
麥倉 哲, 浅川 達人, 野坂 真	2016 年度 調査報告書（最終版）「大槌町災害復興公営住宅入居者調査」		全 83 頁	2017/10/20	明治学院大学社会学部特別推進プロジェクト、岩手大学教育学部社会学研究室、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構
麥倉 哲, 野坂 真	2016 年大槌町仮設住宅入居者調査結果報告会 資料編		全 20 頁	2017/6/24	
麥倉 哲, 野坂 真	「大槌町仮設住宅入居者調査」2016 年度 調査結果報告書論点集		全 16 頁	2017/7/31	
麥倉 哲, 野坂 真	「大槌町仮設住宅入居者調査」2017 年度 調査結果報告書論点集		全 20 頁	2018/3/21	
麥倉 哲, 野坂 真	応急仮設住宅からの移行期における対応「大槌町仮設住宅入居者調査」結果から考える		全 67 頁	2017/9/17	
麥倉 哲	大槌町・盛岡市における傾聴支援・サロン活動による心の復興事業―実績の概要		全 28 頁	2018/2/28	
麥倉 哲	日報論壇 犯罪被害見過ごすな	岩手日報		2017/6/10	
麥倉 哲	専門家に聞く地域づくりのヒント	月刊地域支え合い情報	Vol.66	2018/2/1	
麥倉 哲	神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室第 6 回シンポジウム学術的知見を活かして大規模災害に備える―緊急支援・災害後の暮らし―講演録 生活再建、心の復興、絆の再生 災害検証に基づく防災文化の「再構築」一人ひとりの犠牲死を忘れず語り継ぐ活動を通じて	神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室	12-16 頁, 42-43 頁, 50 頁	2018/5/1	
麥倉 哲	学術的知見を活かして大規模災害に備える・緊急支援・災害後の暮らし：神戸大学震災復興支援・災害科学研究推進室第 6 回シンポジウム	神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室／図書館	59 頁	2017/12/1	
船戸 義和	災害公営住宅における総参加型のコミュニティ形成	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018 要旨集	pp.33～35	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018 実行委員会
五味 社平	拡大コミュニティと「惠民」についての考察～陸前高田での実践をふまえて～	地域デザイン学会第 6 回全国大会 予稿集	pp.64～67	2017/9/2	地域デザイン学会
五味 社平	どこでもドアとしての陸前高田グローバルキャンパス	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018 要旨集	pp.111～113	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018 実行委員会

農地復興班					
折戸 桂太, 三上 悠美, 濱上 邦彦	三陸河川の流出特性と栄養塩負荷に関する検討	農業農村工学会東北支部第 59 回研究発表会講演要旨集	pp.30-31	2017/11/9	農業農村工学会東北支部
金山 素平, 進藤 あきほ, 八矢 園子	廃棄物を利用した土の固化処理に関する研究	同上	pp.16-17.	2017/11/9	農業農村工学会東北支部
中村 哉仁, 金泉 友也, 金山 素平	レオロジーモデルを用いた粘土の圧密沈下挙動の検討	同上	pp.14-15	2017/11/9	農業農村工学会東北支部
川村 智子, 金山 素平, 山崎 瑠華, 弓削 こずえ	竹繊維を混合した土の力学的性質に関する研究	同上	pp.18-19	2017/11/9	農業農村工学会東北支部
Hamagami, K., Orito, K. and Sugawara, R.	Estimation of Outflow and Nutrient Load Based on the Turbidity Function in River in Sanriku District Japan	E-proceedings of the 37th IAHR World Congress	Theme 1-1A:190-197	2017/8/13	IAHR World Congress

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
金山 素平, 藤井 芽衣, 工藤 基, 進藤 あきは, 八矢 園子	カキ殻を用いた土の固化処理技術に関する研究	平成 29 年度農業農村工学会大会講演会講演要旨集	pp.626-627.	2017/8/29	農業農村工学会
中村 哉仁, 金泉 友也, 金山 素平	レオロジーモデルを用いた粘土の圧密沈下挙動の検討	同上	pp.132-133	2017/8/29	農業農村工学会
川村 智子, 金山 素平, 山崎 瑠華, 弓削 こずえ	竹繊維混合土の工学的性質に関する研究	同上	pp.114-115	2017/8/29	農業農村工学会
須賀田 美沙, 山本 清仁	地中レーダーと電磁探査による土壌健全性の広域的評価手法	同上	pp.110-111	2017/8/29	農業農村工学会
山本 清仁, 小林 晃, 原科 幸爾, 武藤 由子, 倉島 栄一	広域的土壌健全性評価のための土壌水の電気伝導度とイオン濃度の測定	同上	pp.440-441	2017/8/29	農業農村工学会
Hamagami, K.	ESTIMATION OF NUTRIENT LOAD BASED ON THE TURBIDITY FUNCTION IN KESEN RIVER ON THE SANRIKU COAST	Abstract of 2017 International Agricultural Technology Forum	pp.1-2	2017/9/22	International Agricultural Technology Forum
Kanayama, M., Fujii, M., Kudo, M., Kawamura, S. and Nakamura, K.	Study on solidification treatment of soil using waste oyster shell	Proceedings Sardinia 2017 / Sixteenth International Waste Management and Landfill Symposium	Paper No.642, 1-10.	2017/10/2	International Waste Working Group
Kawamura, S., Kanayama, M., Yamazaki R. and Yuge, K.	Study on engineering properties of bamboo fiber mixed soil	同上	Paper No.641, 1-9	2017/10/2	International Waste Working Group
K. Yamamoto, A. Kobayashi, K. Harashina, Y. Muto, E., Kurashima	Electrical-conductivity-distribution measurement using an electromagnetic survey of paddy fields damaged by TSUNAMI	同上	Paper No.667, 1-8	2017/10/2	International Waste Working Group
Harashina, K., Yamamoto, K., Muto, Y., Kurashima, E.	Application of UAV-mounted commercial multispectral sensor in a non-experimental rice farming practice	Proceedings of 2017 Japan-Korea rural Planning Seminar "Resilience and Sustainability of Rural Areas"	pp.33-34	2017/12/9	農村計画学会
濱上 邦彦, 志田 有紀	陸前高田市小友地区の農業排水による物質負荷量の推定	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018 要旨集	pp.87-88	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
中村 哉仁, 金泉 友也, 金山 素平	地盤の圧密沈下測データに基づいた予測とその高精度化	同上	pp.89-92	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
原科 幸爾, 山本 清仁, 吉田 宏, 葉上 恒寿, 武藤 由子, 倉島 栄一	ドローン搭載のマルチスペクトルセンサによる津波被災水田におけるイネの生育状況モニタリング	同上	pp.81-85	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
高橋 亮祐, 山本 清仁, 原科 幸爾, 武藤 由子, 倉島 栄一	津波被災水田における電磁探査による電気伝導度分布の測定	同上	pp.73-76	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
笹森 洋一, 山本 清仁, 原科 幸爾, 武藤 由子, 倉島 栄一	津波被災水田における電気探査による電気伝導度分布の測定	同上	pp.77-80	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局
Tsuiki M.	Radioactive cesium dynamics on Japanese semi-natural grassland	Proceedings of the 4th International Conference on Radioecology and Environmental Radioactivity	pp. 515-516	2017/9/4	IRSN
増田 隆晴, 築城 幹典	牧草地における空間放射線量率の平均値推定に必要なサンプル数	システム農学会	pp. 29-30	2017/10/27	システム農学会
山下 大貴, 築城 幹典, 柳村 恭子	シバ型放牧草地における放射性セシウムの動態とモデル化	日本草地学会	p. 20	2018/3/25	日本草地学会
地域創生部門▼					
山本 昭彦 (他 24 名)	「宮沢賢治ビブリオグラフィー 2016」(共著者の一人として全体の編集と項目執筆)	宮沢賢治研究 Annual	27・1-81	2017/3(8)/31	宮沢賢治学会イーハトーブセンター
山本 昭彦 (他 21 名)	「宮沢賢治ビブリオグラフィー 2017」(共著者の一人として全体の編集と項目執筆)	宮沢賢治研究 Annual	28・1-91	2018/3/31	宮沢賢治学会イーハトーブセンター
木村 直弘	共振する世界としての「イーハトーブ」―童話「かしはばやしの夜」―オノマトペの唱題的效果に根ざした「法華文学ノ創作」をめぐる―	宮沢賢治研究 Annual	27・124-127	2017/3(8)/31	宮沢賢治学会イーハトーブセンター
木村 直弘	「雨を喜び、風を楽しむ」	宮沢賢治記念館通信	118・1	2018/3/15	宮沢賢治記念館
ものづくり技術教育研究部門▼					
長田 洋	東北支部特集号の編集にあたって	照明学会誌	Vol. 101, No. 7, pp. 264-265	2017/7/1	照明学会
長田 洋	平成 29 年度 (第 50 回) 照明学会全国大会の概要報告	照明学会誌	Vol. 102, No. 2, pp. 84-87	2018/2/1	照明学会
三陸水産教育研究部門▼					
後藤 友明, 高梨 梨梨, 玉田 信, 林崎 健一	大槌湾奥砂浜域の魚類相にみられた東日本大震災後の変遷	東北底魚研究	37 号・113-119	2017/12/15	東北区水産研究所
後藤 友明	サメのヒゲに見るサメの奇妙なカタチと役割	Toba Super Aquarium	71 号・14	2017/6/1	鳥羽水族館
地域防災教育研究部門▼					
井良沢 道也, 坂田 貴範, 中村 傑, 王 凱	秋田駒ヶ岳周辺の火山地域における樹木を含む土砂災害の減災にむけての検討	平成 29 年度砂防学会研究発表会概要集	360-361	2017/5/1	(公社) 砂防学会
林 一成, 井良沢 道也	火山地域における未開析斜面抽出のための地形解析	同 上	414-415	同 上	同 上
堀 和彦, 井良沢 道也	豪雪地帯における放置林の現況と対策	同 上	440-441	同 上	同 上
王 凱, 井良沢 道也, 坂田 貴範, 中村 傑, 林 一成	火山地域における樹木を含む土砂災害の減災にむけての検討～水温特性、土質試験および地形解析による検討～	同 上	582-583	同 上	同 上
滝澤 雅之, 新井 瑞穂, 落合 達也, 中島 達也, 井良沢 道也	2016 年台風 10 号による土砂災害における土砂流出の実態～岩手県岩泉町宇津野沢の事例～	同 上	700-701	同 上	同 上
笠原 智子, 田村 圭司, 鶴原 吉隆, 窪田 敏一, 矢倉 広和, 井良沢 道也, 坂井 咲香	土砂災害に対する地域防災力の向上にむけて	同 上	820-821	同 上	同 上
堀 和彦, 井良沢 道也	豪雪地帯における放置林の現況	平成 29 年度日本雪氷学会東北支部研究発表会概要集	81-84	2017/7/1	(公社) 日本雪氷学会東北支部
井良沢 道也	地区防災計画制度の普及による地域防災力の強化方策の検討	平成 29 年度岩手県民協働型評価報告書	pp.1-129	2018/3/31	岩手県政策推進室ホームページ掲載

著者名	報告題目	学協会誌の名称	巻・号・ページ	掲載年月日	発行機関
井良沢 道也	岩手・宮城内陸地震以降の崩壊の特性	大規模地震とそれに伴う地盤の劣化に起因する連鎖複合型土砂災害の発生機構と対策報告書	pp.154-185	2018/3/31	
山崎 友子	2016 年台風 10 号災害 岩手県岩泉調査	岩手大学地域防災研究センター 平成 28 年度年報活動報告	pp.37-41	2018/1/1	岩手大学地域防災研究センター
山崎 友子	平成 28 年度災害文化部門報告	臨床獣医	p.41	2018/1/1	録書房
山崎 友子	校歌と三陸沿岸の災害文化	第三回災害文化研究会ポスターセッション		2018/2/2	災害文化研究会・岩手大学地域防災研究センター
佐藤 史佳, 山本 英和, 齊藤 剛	東日本大震災津波後の生福島の広帯域リニアアレイで観測された常時微動の地震波干渉法解析 その 4 活再建状況について	物理探査学会第 136 回学術講演会論文集	47-50	2017/6/5	(公社) 物理探査学会
山本 英和, 金崎 慶次, 齊藤 剛	アレイ観測された水平動微動の周波数波数解析法による Love 波位相速度の推定	物理探査学会第 136 回学術講演会論文集	51-54	2017/6/5	(公社) 物理探査学会
山本 英和, 佐々木 恭輔, 齊藤 剛	浅部 2 次元 S 波速度構造推定を目的とした短周期微動の地震波干渉法解析―岩手大学構内における試み―	物理探査学会第 136 回学術講演会論文集	55-58	2017/6/5	(公社) 物理探査学会
山本 英和	浅部 2 次元 S 波速度構造推定を目的としたリニアアレイで観測された短周期微動の地震波干渉法解析	第 9 回微動の会		2017/9/29	微動の会
小笠原 敏記 ほか	平成 28 年台風第 10 号による岩手県災害調査報告書			2017/7/1	土木学会
女ヶ澤 豪, 小林 宏一郎, 上田 智章	Kinect v2 を用いた呼吸・心拍計測システムにおける計測方法	電子情報通信学会第 32 回信号処理シンポジウム		2017/12	電子情報通信学会
佐々木 優作, 松林 由里子, 小笠原 敏記	砂と礫が混在する浜における UAV の画像解析による礫の粒径調査の精度検証	土木学会東北支部技術研究発表会		2018/3/3	土木学会東北支部
清野 亮, 松林 由里子, 小笠原 敏記, 森本 晋也	岩泉町の児童生徒とその保護者を対象とした防災意識と避難行動に関する研究	土木学会東北支部技術研究発表会		2018/3/3	土木学会東北支部
佐々木 勇人, 松林 由里子, 小笠原 敏記	2017 年 7 月の大雨により秋田県大仙市内の水田に堆積した流木の現地調査	土木学会東北支部技術研究発表会		2018/3/3	土木学会東北支部
谷本 真佑, 南 正昭, 川下 亨, 中村 大樹, 佐藤 史弥	宮古市田老地区における東日本大震災後の居住地移転に関する研究	土木計画学研究・講演集	No.56	2017/11/3	土木学会
佐藤 史弥, 谷本 真佑, 南 正昭	個人属性を考慮した避難困難人口を用いた津波避難ビルの収容人数に関する分析	土木計画学研究・講演集	No.56	2017/11/3	土木学会
太田 健蔵, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	宮古市田老地区を対象とした東日本大震災時の避難行動と避難意識に関する研究	平成 29 年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集		2018/2/20	土木学会東北支部
熊谷 祐輝, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	東日本大震災時の津波避難行動に関する考察～岩手県陸前高田市を対象として～	平成 29 年度土木学会東北支部技術研究発表会講演概要集		2018/2/20	土木学会東北支部
石川 楓, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	陸前高田市・宮古市田老地区における市街地の変遷に関する研究	同上		2018/2/20	土木学会東北支部
小宅 和樹, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	岩手県沿岸の地形および発展経緯を考慮した市街地の変遷に関する研究	同上		2018/2/20	土木学会東北支部
沼里 亮祐, 谷本 真佑, 佐藤 史弥, 南 正昭	住民の生活利便性を考慮した道路閉塞と孤立に関する研究 ～岩手県岩泉町を例として～	同上		2018/2/20	土木学会東北支部
森本 晋也	発達段階に応じた効果的な安全教育～「カリキュラム・マネジメント」の視点を踏まえて～	144-146		2017/11/16	全国学校保健・安全研究大会冊子
森本 晋也	「いわての復興教育」～復興・発展を支える人づくりを目指して～			2017/	日本教材学会年報
森本 晋也	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶこれからの防災教育～震災前の釜石東中学校の取組から～			2017/	日本教材学会年報
小川 和久, 森本 晋也	生徒の主体的学習にもとづく学校防災教育の評価について	日本安全教育学会第 18 回岡山大会・予稿集	53-54	2007/9/23	日本安全教育学会
森本 晋也, 小川 和久	生徒の主体的学習にもとづく学校防災教育のカリキュラムについて	日本安全教育学会第 18 回岡山大会・予稿集	55-55	2007/9/23	日本安全教育学会
平泉文化教育研究部門▼					
劉 海宇	中国江南地区における法舍利埋納遺跡調査記	『岩手大学平泉文化研究センター年報』第 6 集	6・89-92	2018/3/31	平泉文化研究センター
相原 康二	文学に表れた平泉文化の基礎研究 (その 5)	『岩手大学平泉文化研究センター年報』第 6 集	6・94-122	2018/3/31	平泉文化研究センター

04 学会発表・各種講演・報告等

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
三陸復興部門▼							
心のケア班							
日本コミュニティ心理学会第 20 回記念大会	東日本大震災における臨床心理学的地域援助報告 (1) ～被災地における心理尺度利用について～	佐々木 誠	2017/7/2	上智大学	日本コミュニティ心理学会		
日本ブリーフサイコセラピー学会第 26 回松山大会	心理教育授業における外在化と対処意欲の検討 (3) –けちよ会議–	佐々木 誠	2017/7/29	愛媛大学	日本ブリーフサイコセラピー学会		
日本ブリーフサイコセラピー学会第 26 回松山大会	ブリーフ的やる気のでるコンテンツのために	佐々木 誠	2017/7/29	愛媛大学	日本ブリーフサイコセラピー学会		
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	カウンセリングにおける震災ストレスの潜在性について	佐々木 誠	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム実行委員会		

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	岩手大学大学院生による沿岸支援研修の実践報告	佐々木 誠	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム実行委員会		
日本心理臨床学会第 36 回大会	非対面式スーパーバージョン研究 (2)ースーパーヴァイジーの 3 年間の評価よりー	織田 信男, 佐々木 誠, 山口 浩, 伊藤 拓	2017/11/20	パシフィコ横浜	東洋大学		
日本ブリーフサイコセラピー学会第 27 回 松山大会 (2)	非対面式スーパーバージョン研究 (3)ースーパーヴァイジーの感情の評価よりー	織田 信男, 佐々木 誠, 山口 浩, 伊藤 拓, 山本 眞利子	2017/7/29	愛媛大学	愛媛大学		
東北心理学会第 71 回大会 (3)	コミュニケーションメディアごとの相談経験と精神的健康との関連	小山田 愛奈, 織田 信男	2017/7/15	尚綱学院大学	尚綱学院大学		
日本心理学会第 81 回大会公募シンポジウム	共感覚と直観像：少数者がもつ感覚的・認知的特性の研究ー直観像所有者と共感覚者が共有する認知特性ー	松岡 和生	2017/9/22	久留米シティプラザ	久留米大学		
東北心理学会 第 71 回大会	IAPS を用いた情動喚起に伴う皮質活動：NIRS による検討	佐々木 尚之, 阿久津 洋巳	2017/7/15	尚綱学院大学	尚綱学院大学		
市民講座「こころのじかん6」	悲しみを抱える・悲しみを支える	佐々木 誠	2018/1/20	宮古市・シーアリーナ	本機構心のケア班	一般	11 名
市民講座「こころのじかん6」	自分の怒りとつきあうヒント	佐々木 誠	2018/1/27	釜石市・岩手大学釜石サテライト	同上	一般	25 名
市民講座「こころのじかん6」	相手を支える話の聴き方	佐々木 誠	2018/2/3	陸前高田市・コミュニティホール	同上	一般	27 名
市民講座「こころのじかん6」	子どもの可能性を大きくする心理学的方法	織田 信男	2018/2/14	大船渡市・シーパル大船渡	同上	一般	33 名
市民講座「こころのじかん6」	リラクセーションでストレスを乗り越えよう!	山口 浩	2018/2/16	宮古市・シーアリーナ	同上	一般	8 名
市民講座「こころのじかん6」	心理学の立場から宗教を考える!	奥野 雅子	2018/2/28	釜石市・岩手大学釜石サテライト	同上	一般	22 名
被災動物支援班							
ペット同行避難シンポジウム	東日本大震災 - 岩手大学の取り組み -		2017/11/3	アイーナ	岩手県	一般市民	約 70 名 13 時半～講演
災害動物医療チーム VMAT キックオフシンポジウム	東日本大震災 - 岩手大学の取り組み -		2018/1/20	岩手大学・北桐ホール	本機構	獣医師, 県職員, 一般市民	約 65 名 13 時半～講演
保健所勤務の獣医師向けセミナー開催	保護動物取扱についての講習		2018/3/10	オデッセ	岩手県	県獣医師	約 30 名 13 時半～講演
岩手小動物臨床研究会 (IVC)	症例検討会ほか		2017/4/28 2018/3/27	岩手大学付属動物病院 岩手大学付属動物病院	岩手大学付属動物病院	開業獣医師, 学部学生	不定期に計 6 回開催
畜産振興事業実績報告書	平成 28 年度被曝牛での多発疾患の原因究明に関する研究事業実績報告書	岡田 啓司	2017		公益財団法人 全国競馬・畜産振興会		
日本獣医師会年次大会	福島県の旧警戒区域内で震災前より継続飼育されている黒毛和牛の健康状況	夏堀 雅宏, 岡田 啓司, 佐藤 至, 佐々木 淳, 佐藤 洋, 柿崎 竹彦, 和田 成一, 伊藤 伸彦	2016	大分	日本獣医師会		
福島原発事故による周辺生物への影響に関する専門研究会	福島県の帰還困難区域内における黒毛和牛の病理	平谷 佳代子, 佐々木 淳, 岡田 啓司, 佐藤 至, 佐藤 洋, 夏堀雅宏, 伊藤伸彦	2016	京都	福島原発事故による周辺生物への影響に関する専門研究会		
第 54 回アイソトープ・放射線研究発表会	福島県の旧警戒区域内で震災前より継続飼育されている黒毛和牛の外部被ばく状況	小島 貴文, 夏堀 雅宏, 佐藤 至, 岡田 啓司, 佐々木 淳, 伊藤 伸彦, 小林 枝里子, 柿崎 竹彦, 和田 成一	2017	東京	公益社団法人 日本アイソトープ協会		
第 8 回「放射線計測フォーラム福島」	原子炉災害による福島県浪江町, 大熊町の和牛農家の総合調査	夏堀 雅宏, 佐藤 至, 岡田 啓司, 佐々木 淳, 佐藤 洋, 出口 善隆, 千田 広幸, 和田 成一, 柿崎 竹彦, 上野 俊治, 實示戸 雅之, 伊藤 伸彦, 村田 幸久, 佐藤 衆介, 大澤 健司	2017	東京	国立研究開発法人日本原子力研究開発機構		
第 4 回福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	福島県の旧警戒区域内で震災前より継続飼育される黒毛和牛の外部被ばく線量の成分分析	夏堀 雅宏, 小島 貴文, 佐藤 至, 岡田 啓司, 佐々木 淳, 佐藤 洋, 實示戸 雅之, 小林 枝 里子, 柿崎 竹彦, 和田 成一, 伊藤 伸彦	2017	成田	福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会		
第 4 回福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会	浪江町小丸牧場における土壌放射線量の実態と年次推移 (2013-2016)	實示戸 雅之, 佐藤 至, 岡田 啓司, 夏堀 雅宏, 伊藤 伸彦, 大谷 久美子	2017	成田	福島第一原発事故による周辺生物への影響に関する勉強会		
シンポジウム・生物学者がみる帰還困難区域の現状とそこに生きる牛	研究会の今までの活動と最新研究概要	岡田 啓司	2018	福島	一般社団法人 原発事故被災動物と環境研究会		
シンポジウム・生物学者がみる帰還困難区域の現状とそこに生きる牛	牛の健康評価および被ばくの影響	岡田 啓司	2018	福島	同上		
シンポジウム・生物学者がみる帰還困難区域の現状とそこに生きる牛	放射性セシウムによる汚染状況と体内分布	佐藤 至	2018	福島	同上		
シンポジウム・生物学者がみる帰還困難区域の現状とそこに生きる牛	被ばく牛の病理	佐々木 淳	2018	福島	同上		
地域コミュニティ再建支援班							
大槌町災害公営住宅調査結果報告会			2017/5/3	大槌町	シーサイドタウンマスト	大槌町住民、一般	
大槌町仮設住宅調査結果報告会			2017/6/24	大槌町	シーサイドタウンマスト	大槌町住民、一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
岩手県仮設住宅支援員研修	支援員研修		2017/9/19	釜石市	岩手県復興局	岩手県仮設住宅支援員	
岩手県仮設住宅支援員研修			2017/9/20	陸前高田市	岩手県復興局	岩手県仮設住宅支援員	
「大槌町仮設住宅入居者調査」2017年度 調査結果報告会		麦倉 哲	2018/3/21	大槌町	シーサイドタウンマスト	大槌町住民、一般	
日本社会病理学会第 32 回大会	災害研究における社会病理学的射程ー東日本大震災犠牲死者の被災状況調査から	麦倉 哲	2017/9/2	国学院大学	日本社会病理学会	学会員	
日本都市学会 64 回大会	岩手県大槌町における東日本大震災津波前後の災害過程ー地域コミュニティ復興からの考察ー	麦倉 哲	2017/10/28	宮城県石巻市	日本都市学会	学会員	
日本都市学会 64 回大会	岩手県大槌町災害復興公営住宅入居者の精神の健康状態ーWHO-5 調査による分析ー	麦倉 哲	2017/10/28	宮城県石巻市	日本都市学会	学会員	
神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室第6回シンポジウム学術的知見を活かして大規模災害に備えるー緊急支援・災害後の暮らしー	生活再建、心の復興、絆の再生 災害検証に基づく防災文化の「再構築」ー人ひとりの犠牲死を忘れず語り継ぐ活動を通じて	麦倉 哲	2017/12/1	神戸大学	神戸大学 震災復興支援・災害科学研究推進室	研究者、学生、一般	
戦争体験を「語り継ぐサロン」		麦倉 哲	2018/3/28	沖縄県渡嘉敷村	渡嘉敷村中央公民館	戦争体験者、村民、一般	
	1	麦倉 哲	2017/7/15	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	2	麦倉 哲	2017/8/9	岩手県盛岡市	教育学部 E27 教室	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	3	麦倉 哲	2017/8/9	岩手県盛岡市	教育学部 E27 教室	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	4	麦倉 哲	2017/8/19	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	5	麦倉 哲	2017/8/19	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	6	麦倉 哲	2017/9/16	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	7	麦倉 哲	2017/9/16	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	8	麦倉 哲	2017/10/27	岩手県盛岡市	もりおか復興支援センター	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	9	麦倉 哲	2017/10/29	宮城県仙台市	トークネットホール仙台	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	10	麦倉 哲	2017/12/2	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	11	麦倉 哲	2018/1/19	岩手県盛岡市	もりおか復興支援センター	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	12	麦倉 哲	2018/1/19	岩手県盛岡市	もりおか復興支援センター	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	13	麦倉 哲	2018/1/21	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	14	麦倉 哲	2018/1/21	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	15	麦倉 哲	2018/3/21	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	16	麦倉 哲	2018/3/21	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
	17	麦倉 哲	2018/3/21	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
大震災を「語り継ぐ会」	語り継ぐ会ボランティア1	麦倉 哲	2017/4/22	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
大震災を「語り継ぐ会」	語り継ぐ会ボランティア2	麦倉 哲	2017/5/27	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
大震災を「語り継ぐ会」	語り継ぐ会ボランティア3	麦倉 哲	2017/6/24	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
大震災を「語り継ぐ会」	語り継ぐ会ボランティア4	麦倉 哲	2017/7/15	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
大震災を「語り継ぐ会」	語り継ぐ会ボランティア5／岩手県心の復興事業と共同開催	麦倉 哲	2017/8/19	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
大震災を「語り継ぐ会」	語り継ぐ会ボランティア6	麦倉 哲	2017/9/16	岩手県大槌町	大槌町マストホール	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
歌い継ぐ会	震災遺族のカラオケサークル	麦倉 哲	2017/9/15	岩手県大槌町	グランジュ亭あき子	大震災遺族、町民、一般、ボランティア	
災害公営住宅自治会設立等コミュニティ支援に関する情報交換会	"コミュニティづくりの要点 災害公営住宅自治会設立等"	船戸 義和	2017/5/17	釜石地区合同庁舎	岩手県社会福祉協議会	生活支援相談員、行政職員	約 40 名
ふる里山田同郷の会 総会	災害公営住宅におけるコミュニティづくり	船戸 義和	2017/6/18	東京ガーデンバレス	ふる里山田同郷の会	会員等	約 120 名
平成 29 年度岩手大学社会教育主事講習 社会教育特論 9	震災復興とコミュニティ形成の取り組み	船戸 義和	2017/8/7	岩手大学	岩手大学	受講者	約 50 名
内陸部生活支援相談員等情報交換会	災害公営住宅の建設に伴う支援	船戸 義和	2017/10/6	北上市総合福祉センター	岩手県社会福祉協議会	生活支援相談員、行政職員	約 30 名
わたし☆まちフォーラム in いわて2017	被災地のコミュニティづくりと課題	船戸 義和	2017/10/7	サンビル（盛岡市）	NPO 法人岩手地域総合研究所	市民等	第 1 分科会 約 21 名
平成 29 年度岩手県高齢者等サポート拠点職員等研修事業	集合住宅における"集い場"づくり	船戸 義和	2017/10/18 2017/10/19	岩手県水産技術センター・山田町保健センター	NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター	行政職員・社協職員等	2 回講演 約 80 名
岩手大学三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会	災害公営住宅におけるコミュニティづくり	船戸 義和	2017/12/3	日比谷図書文化館	岩手大学	市民等	約 100 名
平成 29 年度男女共同参画の視点からの防災・復興に関する普及啓発事業	災害公営住宅における住民主体のコミュニティづくり	船戸 義和	2018/2/3	シーバル大船渡	岩手県	市民等	約 60 名
JICA 課題別研修「ノンフォーマル教育拡充」研修	A Total Participation Model of Community Building in Post Tsunami Disaster	船戸 義和	2018/2/14	陸前高田グローバルキャンパス	JICA	外国人受講生	英語講演 約 10 名
平成 29 年度コミュニティリーダー研修会	総参加型を目指す自治会づくり	船戸 義和	2018/2/16	盛岡劇場	盛岡市	自治会関係者等	約 30 名
平成 29 年度宮城県被災者支援従事者研修事業	集合住宅における"集い場"づくり	船戸 義和	2018/2/21 2018/2/22	気仙沼合同庁舎・エスポールみやぎ	NPO 法人全国コミュニティライフサポートセンター	行政職員・社協職員等	2 回講演 約 80 名
陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018	災害公営住宅における総参加型のコミュニティ形成	船戸 義和	2018/3/3	陸前高田グローバルキャンパス	岩手大学	市民・大学関係者等	約 20 名
地域デザイン学会第 6 回全国大会	拡大コミュニティと「恩民」についての考察～陸前高田での実践をふまえて～	五味 壮平	2017/9/2	東海大学	地域デザイン学会	学会参加者	
陸前高田グローバルキャンパス 大学シンポジウム 2018	どこでもドアとしての陸前高田グローバルキャンパス	五味 壮平	2018/3/3 3/4	陸前高田グローバルキャンパス	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018 実行委員会		
岩手大学地域防災研究フォーラム	陸前高田グローバルキャンパス で起きていること	五味 壮平	2018/3/6	岩手大学	岩手大学地域防災研究センター		
未来（明日）への道 1000km 縦断リレー 2017 生きる力を学ぶツアー	（大学が）被災地に 関わるということ	五味 壮平	2017/7/28	陸前高田グローバルキャンパス	東京都および東京都文化スポーツ事業団		
岩手大学 出張 MIUcafe	住んでなくても「住める」のか?? 拡大コミュニティ? 関係人口・通い市民・恩民・・・	五味 壮平	2017/12/17	いわて県情報交流センター	岩手大学	一般市民	
いざ・トレ in 陸前高田	災害後のまちにおける 拡大コミュニティ形成の可能性と「恩民」について	五味 壮平	2018/2/16	陸前高田グローバルキャンパス	岩手日報		
高田第一中学 第 2 学年 学習旅行	岩大 E_code プロジェクトについて	五味 壮平	2017/8/30	岩手大学	陸前高田市第一中学校	中学生	
ものづくり産業復興推進班							
技術講習会	CAD/CAM 講習		2017/8/31 2017/9/1	釜石ものづくりサテライト	釜石ものづくりサテライト	地域製造業	
技術講習会	CAD/CAM 講習		2017/9/15	釜石ものづくりサテライト	釜石ものづくりサテライト	地域製造業	
技術講習会	CAD/CAM 金型試作		2018/1/30 2018/1/31	釜石ものづくりサテライト	釜石ものづくりサテライト	地域製造業	
技術講習会	3 次元計測器指導		2018/2/19	釜石ものづくりサテライト	釜石ものづくりサテライト	地域製造業	
農地復興班							
平成 29 年度農業農村工学会大会講演会	カキ殻を用いた土の固化処理技術に関する研究		2017/8/29 2017/8/31	藤沢市	農業農村工学会	技術者・研究者	
平成 29 年度農業農村工学会大会講演会	レオロジーモデルを用いた粘土の圧密沈下挙動の検討		2017/8/29 2017/8/31	藤沢市	農業農村工学会	技術者・研究者	
平成 29 年度農業農村工学会大会講演会	竹繊維混合土の工学的性質に関する研究		2017/8/29 2017/8/31	藤沢市	農業農村工学会	技術者・研究者	
平成 29 年度農業農村工学会大会講演会	地中レーダーと電磁探査による土壌健全性の広域的評価手法		2017/8/29 2017/8/31	藤沢市	農業農村工学会	技術者・研究者	
平成 29 年度農業農村工学会大会講演会	広域的土壌健全性評価のための土壌水の電気伝導度とイオン濃度の測定		2017/8/29 2017/8/31	藤沢市	農業農村工学会	技術者・研究者	
37th IAHR World Congress	Estimation of Outflow and Nutrient Load Based on the Turbidity Function in River in Sanriku District Japan		2017/8/13 2017/8/18	マレーシア	IAHR World Congress	研究者	
4th International Conference on Radioecology and Environmental Radioactivity	Radioactive cesium dynamics on Japanese semi-natural grassland		2017/9/4 2017/9/8	ドイツ	IRSN	研究者	
2017 International Agricultural Technology Forum	ESTIMATION OF NUTRIENT LOAD BASED ON THE TURBIDITY FUNCTION IN KESEN RIVER ON THE SANRIKU COAST		2017/9/22	中国	International Agricultural Technology Forum	研究者	
第 12 回環境地盤工学シンポジウム	電磁探査と地中レーダー探査による間隙水イオン濃度の広域的測定手法		2017/9/25	長崎市	地盤工学会	技術者・研究者	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
システム農学会秋季大会	牧草地における空間放射線量率の平均値推定に必要なサンプル数		2017/10/27 2017/10/28	網走市	システム農学会	研究者	
16th International Waste Management and Landfill Symposium	Study on solidification treatment of soil using waste oyster shell		2017/10/2 2017/10/5	イタリア	International Waste Working Group	研究者	
16th International Waste Management and Landfill Symposium	Study on engineering properties of bamboo fiber mixed soil		2017/10/2 2017/10/5	イタリア	International Waste Working Group	研究者	
16th International Waste Management and Landfill Symposium	Electrical-conductivity-distribution measurement using an electromagnetic survey of paddy fields damaged by TSUNAMI		2017/10/2 2017/10/5	イタリア	International Waste Working Group	研究者	
農業農村工学会東北支部第 59 回研究発表会	三陸河川の流出特性と栄養塩負荷に関する検討		2017/11/9	盛岡市	農業農村工学会東北支部	技術者・研究者	
農業農村工学会東北支部第 59 回研究発表会	廃棄物を利用した土の固化処理に関する研究		2017/11/9	盛岡市	農業農村工学会東北支部	技術者・研究者	
農業農村工学会東北支部第 59 回研究発表会	レオロジーモデルを用いた粘土の圧密沈下挙動の検討		2017/11/9	盛岡市	農業農村工学会東北支部	技術者・研究者	
農業農村工学会東北支部第 59 回研究発表会	竹繊維を混合した土の力学的性質に関する研究		2017/11/9	盛岡市	農業農村工学会東北支部	技術者・研究者	
2017 年度日韓農村計画学会交流セミナー	Application of UAV-mounted commercial multispectral sensor in a non-experimental rice farming practice		2017/12/9	熊本市	農村計画学会	研究者	
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	陸前高田市小友地区の農業排水による物質負荷量の推定		2018/3/3	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局		
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	地盤の圧密沈下実測データに基づいた予測とその高精度化		2018/3/3	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局		
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	ドローン搭載のマルチスペクトルセンサによる津波被災水田におけるイネの生育状況モニタリング		2018/3/3	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局		
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	津波被災水田における電磁探査による電気伝導度分布の測定		2018/3/3	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局		
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム 2018	津波被災水田における電気探査による電気伝導度分布の測定		2018/3/3	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局		
日本草地学会熊本大会	シバ型放牧草地における放射性セシウムの動態とモデル化		2018/3/23 2018/3/25	熊本市	日本草地学会	研究者	
園芸振興班							
2017 年度日本農業気象学会東北支部大会	三陸復興作物「炬かりふ」の作型と収穫期予測	岡田益己、松嶋卯月	2017/8/24 -25	鶴岡市	日本農業気象学会東北支部	学会員	
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム	三陸沿岸のブランド野菜生産に向けて	岡田 益己、折笠 貴寛、松嶋 卯月	2018/3/3-4	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	研究者、市民	200 名
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム	減圧マイクロ波処理によるトマト加工技術の開発	折笠 貴寛、加藤 一幾、松嶋 卯月、岡田 益己	2018/3/3-4	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	研究者、市民	200 名
陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム	新技術導入に対する三陸沿岸営農者の考え方	松嶋 卯月、佐藤 和恵、岡田 益己	2018/3/3-4	陸前高田市	陸前高田グローバルキャンパス大学シンポジウム事務局	研究者、市民	200 名
日本農業気象学会 2018 年全国大会	三陸沿岸におけるクッキングトマトの作型と簡易乾燥技術の検討	岡田 益己、折笠 貴寛、松嶋 卯月、伊藤 愛子、由比 進	2018/ 3/13-17	福岡市	日本農業気象学会	学会員	
日本農業気象学会 2018 年全国大会	北東北におけるホウレンソウ栽培向け簡易気象観測システム	松嶋 卯月、大倉 好恵、庄野 浩貴	2018/ 3/13-17	福岡市	日本農業気象学会	学会員	
日本農業気象学会 2018 年全国大会	コマツナの塩水浸水栽培における培地水分特性が生育に及ぼす影響	松嶋 卯月、石田 みなみ、庄野 浩貴、武藤 由子、岡田 益己	2018/ 3/13-17	福岡市	日本農業気象学会	学会員	
農林畜産業復興総合計画班							
Japan Geoscience Union Meeting 2017	Intention to Use the National Park and Geopark for Disaster Risk Reduction: A Case Study of Sanriku Tsunami-hit Area	Fumi Otake, Kiyotatsu Yamamoto, Akio Shimomura	2017/5/23		Makuhari Messe, Chiba, Japan	Japan Geoscience Union	
Japan Geoscience Union Meeting 2017	Discovering Tourism Resources in the Two Fishing Villages of the Ozaki Peninsula in Kamaishi City, Iwate, Japan	Kiyotatsu Yamamoto	2017/5/23		Makuhari Messe, Chiba, Japan	Japan Geoscience Union	
日本環境教育学会第 28 回大会（岩手）	白神山地ビジターセンターにおける文化資源情報の発信と利用	佐々木 啓、山本 清龍	2017/9/2		岩手大学 学生センター 棟	日本環境教育学会	
日本環境教育学会第 28 回大会（岩手）	津波被災地を活用した防災教育が形成する意識の構造	佐藤 太陽、山本 清龍	2017/9/2		岩手大学 学生センター 棟	日本環境教育学会	
日本観光研究学会東北支部大会	写真分析を通じた釜石市箱崎半島の観光資源性評価とガイドプログラム開発	佐々木 薫子、山本清龍	2017/12/16		福島大学	日本観光研究学会東北支部	
日本観光研究学会東北支部大会	八幡平温泉郷の来訪者特性をふまえた観光振興策の提案	佐々木 啓、山本 清龍	2017/12/16		福島大学	日本観光研究学会東北支部	
日本観光研究学会東北支部大会	釜石市尾崎半島のトイレルの整備と地域の活性化	齋藤 雅晃、山本 清龍	2017/12/16		福島大学	日本観光研究学会東北支部	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
地域創生部門▼							
MIU Cafe 60	カオス・ニューラルネットワークを基にした高速かつ堅牢な疑似乱数発生器		2017/4/25	盛岡市産学官連携研究センター	本機構、盛岡市	一般	教育学部 吉田等明教授、 熊比ノアンドエー テクノロジーズ 代表取締役 大関一福氏 参加者 25 人
MIU Cafe 61	マインドフルネス体験セミナー		2017/6/13	盛岡市産学官連携研究センター	本機構、盛岡市	一般	一般社団法人 マインドフルリー ダーシップインス ティテュート 理事 吉田典生氏 参加者 64 人
岩手県工業技術センター成果発表会	SIP 事業他、産学官連携の紹介		2017/6/15	岩手県工業技術セン ター	岩手県工業技術セン ター	一般	
関西ネットワークシステム第 57 回定例会 in 関西学院大学	大船渡市におけるイノベティブ対話 手法を活用したビジネスプラン作成支 援の取組み	今井 潤	2017/6/17	関西学院大学	関西ネットワークシス テム、関西学院大学	一般	参加者約 250 人 発表 55 組
MIU Cafe 62	愛あるセルフリノベが生みだす「人と 地域」の可能性		2017/7/12	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構、盛岡市	一般	KUMIKI PROJECT ㈱ 代表取締役 くわばらゆうき氏 参加者 36 人
イノベーションジャパン 2017	大学機関展示		2017/8/31-9/1	東京ビッグサイト	JST,NEDO 他	一般	分子接合技術の 展示を実施 平原教授からブ レゼンテーション
東北みらい創りサマースクール	三陸復興地域創生に関わる活動紹介		2017/9/1,2	遠野みらい創りカレシ ジ	東北みらい創りサマー スクール実行委員会	一般	八代に副機構長 基調講演 岩手大学におけ る震災復興から 地域創生への取 り組み
第 11 回産学官民コミュニティ全国大会 in 大 阪 (第 58 回 KNS 定例会、第 17 回 INSin 関西)	INS 活動報告		2017/9/2	大阪味園	産学官民コミュニティ 全国大会実行委員会	一般	発表者今井潤 参加者約 320 人 岩沼学長基調講 演
MIU Cafe 63	岩手の日本酒を楽しむ会		2017/9/27	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構、盛岡市、岩手 県青年協会	一般	岩手県青年協友 会、参加者 61 人
地域連携フォーラム in 盛岡			2017/11/2	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構、盛岡市	一般	㈱バイオコク ン研究所鈴木幸 一社長、 富田先生、 パターンアート 研究所鎌田勝裕 氏、東光舎井上 社長他 参加者 77 人
ビジネスマッチ東北	SIP 事業他、産学官連携の紹介	今井 潤	2017/11/9	夢メッセみやぎ	東北ニュービジネス協 議会他	一般	
リエゾン-1 マッチングフェア			2017/11/15	銀河ホール	いわて産学連携推進協 議会	一般	㈱フォルテ葛西 社長による基調 講演、 本学研究者9人 によるポスター 発表など 参加者 150 人
MIU Cafe 64	メニューに表れない価値		2017/11/27	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構、盛岡市	一般	スマイルズ 代表 遠山 正道氏 参加者 62 人
地域連携フォーラム in 釜石			2017/12/8	釜石情報交流センター チームスマイル釜石 PIT	本機構、釜石市	一般	釜石市共同研究員井 上謙宜、 山本 清隆 准教授、 大西 弘志 准教授、 金 天海 准教授、熊 谷 和彦 研究員他 参加者 105 人
MIU Cafe 65	いわての地方創生のために～関係人 口・拡大コミュニティ～		2017/12/17	アイーナスタジオ	本機構、盛岡市	一般	人文社会科学部 五味 壮平教授、「カ ズラボ」(岩手×東 京会議) 主宰 高橋 和氣氏 参加者 19 人
Casting 講習会	岩手大学の産学連携シーズ集の紹介 等	貫洞 義一	2018/1/19		岩手大学	一般	
航空宇宙関連産業参入セミナー	岩手大学の産学連携シーズ集の紹介 等	貫洞 義一	2018/1/24	ホテル東日本盛岡	岩手県	一般	
マインドフルネス実践セミナー	MIU Cafe 第 61 回の実践編セミナー		2018/1/27	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構、盛岡市	一般	一般社団法人マ インドフルリー ダーシップインス ティテュート 理事 吉田典生氏 参加者 33 人
MIU Cafe 66	儲かる BCP ～協力会風の和の分科 会活動～		2018/2/1	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構、盛岡市	一般	㈱ミクニ 中戸川 明広氏 参加者 13 人
IoT 導入促進セミナー	岩手大学の産学連携シーズ集の紹介 等	貫洞 義一	2018/2/13	ホテルシティプラザ北 上	いわて半導体関連産業 集積促進協議会	一般	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
地域連携フォーラム in 八幡平			2018/2/21	八幡平ハイツ	本機構、八幡平市	一般	井良沢進也教授、 由比進教授他、 地域課題解決プロ グラム成果報告な ど参加者 145 人
第 12 回企業情報交換会 in いちのせき	SIP 事業他、産学官連携の紹介	山下 晋	2018/2/21	一関市総合体育館	一関市	一般	
地域課題解決プログラム成果発表会			2018/3/16	盛岡市産学官連携研究 センター	本機構	一般	平成 29 年度地域 課題解決プログラム 31 件の発表 参加者 約 70 人
高度ものづくり人材 育成講座	岩手大学の産学連携シーズ集の紹介 等	貫洞 義一	2018/3/29	釜石・大槌地域産業育 成センター	岩手大学	一般	
関西ネットワークシステム第 59 回定例 会	自治体職員による産学官連携イノ ベーション・岩大・盛岡モデル-	金澤 健介	2017/11/25	京都大学	関西ネットワークシス テム	産学官連携関係 者	約 30 名
関西ネットワークシステム第 60 回定例 会	市職員による産学官民連携イノベ ーション! - 岩大・盛岡モデル -	金澤 健介	2018/3/10	甲南大学	関西ネットワークシス テム	産学官連携関係 者	約 20 名
岩手大学宮澤賢治センター第 94 回定例 研究会	君にならびて野に立てば」をめぐっ て		2017/5/19	岩手大学人文社会科学 部	岩手大学宮澤賢治セン ター	一般、学生、教 職員	32 名 講演者：山本 昭彦 司会：大野 眞男
岩手大学宮澤賢治センター第 95 回定例 研究会	賢治童話の言葉遣いについて―標準 語と方言のはざまで―		2017/7/21	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治セン ター	一般、学生、教 職員	29 名 講演者：小島 聡子 司会：大野 眞男
岩手大学宮澤賢治センター第 96 回定例 研究会	「雨ニモマケズ」の一考察 その 3		2017/9/29	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治セン ター	一般、学生、教 職員	24 名 講演者：姉齒 武司 司会：大野 眞男
岩手大学宮澤賢治センター第 97 回定例 研究会	『春と修羅』と、オルゴールの謎		2017/11/28	岩手大学農学部	岩手大学宮澤賢治セン ター	一般、学生、教 職員	28 名 講演者：赤崎 学 司会：田中 成行
岩手大学宮澤賢治センター第 98 回定例 研究会	木を植えた人たち木を植えた人たち ― 一度十、プフィエ、シュトルム神父 ―		2018/1/26	岩手大学人文社会科 学部	岩手大学宮澤賢治セン ター	一般、学生、教 職員	24 名 講演者： 黒澤勉 司会：田 中成行
宮澤賢治卒業 100 年記念・岩手大学地 域創生フォーラム	「イーハトーブの学び舎から」	木村 直弘	2018/3/24	岩手大学農学部附属農 業教育資料館	岩手大学宮澤賢治セン ター+岩手大学農学部 附属農業教育資料館+ 宮沢賢治学会イーハ トーブセンター	一般	150 名
生涯学習部門▼							
日本社会教育学会第 64 回研究大会	地域再生に向けての大学の役割―い わてアグリフロンティアスクール」に おける成人学習者への取り組みに着目 して―	朴 賢淑	2017/9/1	埼玉大学	日本社会教育学会	学会参加者	
日本社会教育学会第 9 回日韓学術交流研 究大会	日本における子どもの貧困問題と包摂 的支援への取り組み	朴 賢淑、朴 仙子	2017/11/1	ソウル大学	日本社会教育学会・韓 国平生教育学会	学会参加者	
第 75 回大会東北教育学会	域創生における大学の役割―岩手大 学の社会人プログラムを事例として―	朴 仙子、朴 賢淑	2018/3/1	東北大学	東北教育学会	学会参加者	
第 75 回東北教育学会	地域住民による子どもの居場所づくり の意義―岩手県における「子ども食 堂」への取り組みを事例にして―	朴 賢淑、朴 仙子	2018/3/1	東北大学	東北教育学会	学会参加者	
ものづくり技術教育研究部門▼							
日本鑄造工学会第 169 回全国大会	片状黒鉛鑄鉄の疲労強度に及ぼす共 晶セル及び表面粗さの影響		2017/5/27	東京都市大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 169 回全国大会	非破壊電磁計測技術を組み合わせた 鑄鉄の機械的性質の推定		2017/5/28	東京都市大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	キューボラ溶湯の炉前での材質変更試 験		2017/9/30	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	片状黒鉛鑄鉄の機械的性質に及ぼす アンチモンの影響		2017/9/30	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	アンチモン添加による高CE値鑄鉄溶 湯（南部鉄器製造溶湯）の機械部品 への応用例		2017/9/30	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	過共晶 Al-Si 系合金の初晶 Si の形態 に及ぼす SiC 添加の影響		2017/9/30	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	ポルテックス法により作製した SiCp ／ Al 合金複合材料の組織と特性に及 ぼす作製条件の影響		2017/9/30	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	片状黒鉛鑄鉄の黒鉛化及び機械的性 質に及ぼす Mn ／ S 比影響		2017/10/1	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	高 Mn 片状黒鉛鑄鉄の組織と機械的 性質に及ぼす Sn 添加の影響		2017/10/1	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	低 RE 含有球状化剤による球状黒鉛 鑄鉄の機械的性質に及ぼす Mn と Si 含有量の影響		2017/10/1	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	CV 黒鉛鑄鉄の被削性に及ぼす切削 条件の影響		2017/10/1	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	球状黒鉛鑄鉄物のちよんがけ方案 の検討		2017/10/1	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
日本鑄造工学会第 170 回全国大会	CV 黒鉛鑄鉄の被削性に及ぼす切削 条件の影響		2017/10/1	秋田大学	日本鑄造工学会	学会参加者	
第 26 回 MAGDA コンファレンス in 金沢	抵抗スポット溶接した自動車用鋼板 の電気ヒステリシス計測と金属組織観察		2017/10/27	金沢市文化ホール	日本 AEM 学会	学会参加者	
The 18th International Conference on II-VI Compounds and Related Materials	Improvement of the photoconductive characteristics of ZnO single crystals by annealing		2017/9/24 2017/9/29	San Juan, Puerto Rico	International Conference on II-VI Compounds	学会参加者	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
The 18th International Conference on II-VI Compounds and Related Materials	Preparation of a non-polar ZnO film on a single crystal NdGaOB substrate by the rf sputtering		2017/9/24 2017/9/29	San Juan, Puerto Rico	International Conference on II-VI Compounds	学会参加者	
平成 29 年度電気関係学会東北支部連合大会	スパッタリング法による単結晶 NdGaO3 基板上への非極性酸化亜鉛薄膜の作製		2017/8/24 2017/8/25	弘前大学	電気関係学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度電気関係学会東北支部連合大会	熱圧縮成形された磁性複合材料の透磁率による配向性評価		2017/8/24 2017/8/25	弘前大学	電気関係学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度電気関係学会東北支部連合大会	良好な斜入射吸収特性を有する電波吸収材料に関する検討		2017/8/24 2017/8/25	弘前大学	電気関係学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度電気関係学会東北支部連合大会	遺伝的アルゴリズムを用いた多層型電波吸収体の層構造最適化		2017/8/24 2017/8/25	弘前大学	電気関係学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度電気関係学会東北支部連合大会	樹脂容器内充填型複素誘電率・透磁率評価手法の検討		2017/8/24 2017/8/25	弘前大学	電気関係学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度電気関係学会東北支部連合大会	FDTD シミュレーションによる樹脂容器充填法を用いる比誘電率・比透磁率計測手法の妥当性検証		2017/8/24 2017/8/25	弘前大学	電気関係学会東北支部	学会参加者	
第 72 回応用物理学学会東北支部学術講演会	水熱合成法による ZnO:N 単結晶の育成		2017/11/30 2017/12/1	秋田大学	応用物理学学会東北支部	学会参加者	
第 72 回応用物理学学会東北支部学術講演会	LiCoO2 薄膜のインピーダンス特性および薄膜電池の電気特性の評価		2017/11/30 2017/12/1	秋田大学	応用物理学学会東北支部	学会参加者	
第 72 回応用物理学学会東北支部学術講演会	恒温植物の体温制御システムに関する研究		2017/11/30 2017/12/1	秋田大学	応用物理学学会東北支部	学会参加者	
2017 2nd International Conference on Materials and Intelligent Manufacturing	Effect of solvent vapor annealing on TiOPc ultrathin films and the application on hybrid solar cells		2017/8/21 2017/8/23	Singapore	CMIM	学会参加者	
The 23rd International Conference on Ion Beam Analysis	Depth profiling of lithium in an all-solid-state lithium-ion battery using time-of-flight elastic recoil detection analysis		2017/10/8 2017/10/13	Shanghai, China	IBA	学会参加者	
応用物理学学会東北支部第 72 回学術講演会	LiCoO2 薄膜のインピーダンス特性および薄膜電池の電気特性の評価		2017/11/31 2017/12/1	弘前大学	応用物理学学会東北支部	学会参加者	
日本物理学会秋季大会	有機半導体薄膜の結晶成長に及ぼすアルキル鎖長の効果		2017/9/22	岩手大学	日本物理学会	学会参加者	
第 17 回機能性分子シンポジウム	含窒素複素芳香環をコアユニットに用いた星型 D- π -A 分子の合成と物性		2017/4/22	筑波大学	筑波大学学際物質科学 研究センター	シンポジウム参加者	
第 28 回基礎有機化学討論会	アリール基で機能化したテトラチエニルエチレン誘導体の合成と物性		2017/9/7	九州大学伊都キャンパス	基礎有機化学会	学会参加者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and Characterization of Tetrathienylethylene Derivatives Functionalized with Aryl Groups		2017/9/16	岩手大学理工学部	日本化学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and application of silyl-terminated triazine derivatives having various N-containing functional groups as molecular adhesive agent		2017/9/17	岩手大学理工学部	日本化学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and properties of linear- and star-shaped molecules with a pyrazine core		2017/9/17	岩手大学理工学部	日本化学会東北支部	学会参加者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Studies on the synthesis and characterization of star-shaped D- π -A molecules with a nitrogen-containing heteroaromatic core		2017/9/17	岩手大学理工学部	日本化学会東北支部	学会参加者	
第 47 回複素環化学討論会	アリール基修飾型ジベンゾチエノテトラチエニル誘導体の合成と物性		2017/10/28	高知県立県民文化ホール	第 47 回複素環化学討論会実行委員会	学会参加者	
第 2 回岩石量子化学計算講演会	理論計算を用いた分子物性の解明と予測		2017/11/8	岩手大学復興祈念銀河ホール	岩石量子化学計算研究会	講演会参加者	
第 44 回有機典型元素化学討論会	アリール基で機能化したスピロ型オリゴチエニル誘導体の合成と物性		2017/12/8	東京工業大学大岡山キャンパス	第 44 回有機典型元素化学討論会実行委員会	学会参加者	
日本化学会第 98 春季年会	ピラジンコアを有する直線型及び星型 D- π -A 分子の合成及び物性		2018/3/21	日本大学理工学部船橋キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
日本化学会第 98 春季年会	アリール基で機能化したテトラチエニルエチレン誘導体の合成と物性		2018/3/21	日本大学理工学部船橋キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
日本化学会第 98 春季年会	アリール基修飾型ジベンゾチエノテトラチエニル誘導体の合成と物性		2018/3/21	日本大学理工学部船橋キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
日本化学会第 98 春季年会	Synthesis and application of silyl-terminated triazine derivatives having various N-containing functional groups as molecular adhesive agent		2018/3/21	日本大学理工学部船橋キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
日本化学会第 98 春季年会	Synthesis and Characterization of Spiro-type Oligothiophene Derivatives Functionalized by Aryl Groups		2018/3/21	日本大学理工学部船橋キャンパス	公益社団法人 日本化学会	学会参加者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会 (依頼講演)	Morphology and Structure Control of Organic Crystals		2017/8/16 2017/8/17	岩手大学	化学系学協会	学会参加者	
第 26 回有機結晶シンポジウム (招待講演)	Li フェニルアラニンの結晶形態と構造		2017/11/3 2017/11/5	山形大学	日本化学会 有機結晶部会	学会参加者	
一般社団法人 プラスチック成形加工学会 第 28 回 (平成 29 年度) 年次大会講演	合成ゴムと樹脂の直接架橋接着		2017/6/14	タワーホール船堀	プラスチック成形加工学会	会員	
一般社団法人 プラスチック成形加工学会 第 28 回 (平成 29 年度) 年次大会講演	エッチングフリー金属と樹脂の射出成形接合と AFM-nanoIR による界面分析		2017/6/15	タワーホール船堀	プラスチック成形加工学会	会員	
一般社団法人 プラスチック成形加工学会 第 28 回 (平成 29 年度) 年次大会講演	樹脂同士との接合に及ぼす表面改質の影響		2017/6/15	タワーホール船堀	プラスチック成形加工学会	会員	

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
イノベーション・ジャパン 2017- 大学見本市『シーズ展示』『大学組織展示』	分子接合技術による革新的ものづくり製造技術		2017/8/31	東京ビックサイト	科学技術振興機構		
69. ZJAZD CHEMIKOV, Vysoke Tatry, Slovakia	Direct adhesion between natural rubber and metal		2017/9/12	Slovakia	Slovakia Chem		
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Study on environment-friendly electroless plating method		2017/9/16	岩手大学	高分子学会	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Study on a layer by layer electroless metal deposition on plastic surface		2017/9/16	岩手大学	高分子学会	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Synthesis and characterization of silane coupling modified layered double hydroxide/natural rubber composite		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Study on adhesion of natural rubber and copper alloy plate composites		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	The synthesis of copper/resin composites by electroless plating method		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Study on adhesion between silicone rubber and dissimilar materials		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Effect of thermal and water stability on natural rubber and steel cord composites		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Study on direct adhesion between thermoplastic resin and metal using injection molding		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Study on surface treatment method of carbon fiber		2017/9/16	岩手大学	日本化学会東北支部	会員	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Direct curing adhesion between Nitrile Butadiene Rubber and resin		2017/9/22	愛媛大学	高分子学会	会員	
第 66 回高分子学会	Adsorption Behavior of Metallic Ions onto Thiol-containing Silane Modified Liquid Crystal Polymer		2017/9/22	愛媛大学	高分子学会	会員	
第 66 回高分子学会	Influence of resins surface thermal characteristics on the adhesion properties of resins and different materials		2017/9/22	愛媛大学	高分子学会	会員	
第 66 回高分子学会	天然ゴム / スチールコード接着物の耐熱耐水時の劣化挙動		2017/9/22	愛媛大学	高分子学会	会員	
The 4th International Conference on Smart Systems Engineering 2017, Yamagata University,	Direct Joint Between Different Materials Through Covalent Grafting of Molecular Layer		2017/10/12	山形大学	山形大学	会員	
日本ゴム協会第 28 回エラストマー討論会	天然ゴム / スチールコード接着物の水熱劣化挙動		2017/11/29	京都大学・宇治キャンパス	日本ゴム協会	会員	
日本ゴム協会第 28 回エラストマー討論会	樹脂とゴムの架橋接着と AFM-nanoIR による界面分析		2017/11/30	京都大学・宇治キャンパス	日本ゴム協会	会員	
日本ゴム協会第 28 回エラストマー討論会	エラストマーと樹脂の接合のおよぼす表面加飾の影響		2017/11/30	京都大学・宇治キャンパス	日本ゴム協会	会員	
The 12th International Conference on Heteroatom Chemistry	Preparation and Electrochemical Properties of Unsymmetrical Phthalocyanines with a TTF Unit		2017/6/15	The University of British Columbia,Vancouver, Canada	Organizing Committee	Researcher	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Preparation and Electrochemistry of Phthalocyanines with Pyridylthio Groups		2017/9/16	岩手大学	日本化学会	研究者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	Preparation and Electrochemistry of Porphyrin Derivative with Triazine Dithio Groups		2017/9/17	岩手大学	日本化学会	研究者	
平成 29 年度化学系学協会東北大会	同上		2017/9/17	岩手大学	日本化学会	研究者	
第 44 回有機典型元素化学討論会	ジフェニルホスフィンを置換したフタロシアニン誘導体の合成とその光学的性質		2017/12/8	東京工業大学	組織委員会	研究者	
第 44 回有機典型元素化学討論会	チオール基を有するボルフィリン誘導体の合成とその電気化学特性		2017/12/8	東京工業大学	組織委員会	研究者	
第 98 日本化学会春季年会	ジフェニルホスフィノフタロシアニン誘導体の合成とその光学的性質		2018/3/21	日本大学船橋キャンパス	日本化学会	研究者	
第 98 日本化学会春季年会	硫黄の軸配位子を有するボルフィリン誘導体の合成とその機能評価		2018/3/21	日本大学船橋キャンパス	日本化学会	研究者	
第 98 日本化学会春季年会	Preparation and Electrochemistry of Phthalocyanine Derivatives with Pyridylthio Groups		2018/3/21	日本大学船橋キャンパス	日本化学会	研究者	
第 98 日本化学会春季年会	Preparation of Dithiaphosphole Rings Fused Phthalocyanine		2018/3/21	日本大学船橋キャンパス	日本化学会	研究者	
三陸水産教育研究部門 ▼							
海洋問題演習	場の利用という視点から見た岩手県における水産業の特徴と東日本大震災からの復興	後藤 友明	2017/4/24	東京大学	東京大学海洋アイアンス	大学院生	約 50 名
平成 29 年度小佐野公民館「釜石中学校総合文化部とのコラボ事業 三陸の海を知る」	三陸の海と水産業を知ろう!!	後藤 友明	2017/5/26	釜石中学校	釜石市	中学生	約 50 名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
東北マリンサイエンス拠点形成事業	岩手県沿岸におけるサケ増殖の特徴	後藤 友明	2017/5/27 2017/5/28	東北大学	東北マリンサイエンス 拠点形成事業	研究者等	約 300 名
東北マリンサイエンス拠点形成事業	大槌湾奥砂浜域の魚類相における東 日本大震災後の変遷	後藤 友明	2017/5/27 2017/5/28	東北大学	東北マリンサイエンス 拠点形成事業	研究者等	約 300 名
平成 29 年度定置大課研修会	クロマグロの放流手法試験について	後藤 友明	2017/8/4	宮古市なあと	岩手県定置漁業協会	漁業者等	約 100 名
日本水産学会 85 周年記念国際シンポジ ウム	Effects of stock and socio- economic variability on long-term fluctuations in small-scale squid jigging fisheries for Japanese common squid, <i>Todarodes</i> <i>pacificus</i> , in Sanriku district, Pacific coast of northeastern Japan	後藤 友明	2017/9/22 2017/9/24	東京海洋大学	日本水産学会	研究者等	約 1000 名
日本水産学会 85 周年記念国際シンポジ ウム	Temporal changes in the surf zone fish assemblage in Otsuchi Bay, Pacific coast of northeastern Japan, with comments on influences of the 2011 Tohoku earthquake and tsunami	後藤 友明	2017/9/22 2017/9/24	東京海洋大学	日本水産学会	研究者等	約 1000 名
日本海洋学会シンポジウム	岩手大学の取り組みと三陸における持 続的な水産業の再構築に向けて必要 とされること	後藤 友明	2017/10/13	東北大学	日本海洋学会	研究者等	約 100 名
2017 年度 海の未来に向けたネットワ ーク会議	漁協を核とした六次産業化 ― 岩手 県久慈市の取り組み	後藤 友明	2017/10/19 2017/10/20	笹川平和財団ビル	笹川平和財団海洋政策 研究所・日本財団	研究者等	約 50 名
日本水産学会東北支部大会ミニシンポジ ウム	岩手県の漁業復興・資源の現状と課 題	後藤 友明	2017/10/28	福島大学	日本水産学会東北支 部会	研究者等	約 100 名
日本水産学会東北支部大会	三陸内湾域におけるヨーロッパバザ ボヤの分布特性	後藤 友明、大場 由貴	2017/10/28 2017/10/29	福島大学	日本水産学会東北支 部会	研究者等	約 100 名
第 4 回水産海洋学会三陸地域研究会 「クロマグロ資源の持続的に洋に向けた 定置網漁業における技術開発」	太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援 事業について	後藤 友明	2017/12/7	盛岡市大通会館	水産海洋学会・本機構・ 水産研究・教育機構	研究者、漁業者 等	約 100 名
岩手県定置漁業講習会	太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援 事業の提案について	後藤 友明	2018/2/22	花巻温泉紅葉館	岩手県定置漁業協会	漁業者等	約 300 名
平成 29 年度東北ブロック底魚研究連絡 会議	東北海域におけるマダコの新獲動向に ついて	後藤 友明	2018/2/27 2018/2/28	八戸商工会議所	水産研究・教育機構東 北区水産研究所	研究者等	約 50 名
平成 29 年度東北ブロック底魚研究連絡 会議	2017 年夏秋季の大槌湾砂浜域にお ける魚類群集と摂餌特性	後藤 友明	2018/2/27 2018/2/28	八戸商工会議所	水産研究・教育機構東 北区水産研究所	研究者等	約 50 名
平成 30 年度日本水産学会春季大会	定置網揚網中の箱網内におけるクロマ グロ小型魚の分布特性	後藤 友明	2018/3/26 2018/3/30	東京海洋大学	日本水産学会	研究者等	約 1000 名
平成 30 年度日本水産学会春季大会	外来種ヨーロッパバザボヤの低水温期 における成熟特性	後藤 友明、大場 由貴	2018/3/26 2018/3/30	東京海洋大学	日本水産学会	研究者等	約 1000 名
The JSFS 85th Anniversary Commemorative International Symposium	Fine scale genetic population structure of chum salmon <i>Oncorhynchus keta</i> in the Tsugaruishi River inferred from microsatellite DNA analysis.	Shino Kitamura et al.		東京海洋大学品川キャン パス	日本水産学会	学会員、水産関 係者	約 1000 名
平成 29 年度日本水産学会春季大会	遼上全期にわたるシロザケの網羅的遺 伝特性解析.	北村 志乃 ほか	2017/3/27-30		日本水産学会	学会員、水産関 係者	約 1000 名
平成 29 年度東北マリンサイエンス拠点形 成事業全体会	岩手県沿岸河川遼上サケの遺伝特性 分析.	北村 志乃 ほか	2017/5/27-28		東北マリンサイエンス	関係者	約 1000 名
平成 29 年度海洋研究者交流会	シロザケの遼上全期にわたる遺伝特性 解析.	北村 志乃 ほか	2017/9/8		いわて海洋研究コン ソーシアム	いわて海洋研究 コンソーシアム 構成機関	約 30 名
The JSFS 85th Anniversary Commemorative International Symposium	Genetic population structure of masu salmon in the Sanriku- region, Japan.	塚越 英晴	2017/9/22		日本水産学会	学会員、水産関 係者	約 1000 名
平成 29 年度日本水産学会春季大会	サケの資源動態と課題 - 三陸における サケの遺伝構造と個体群特性	塚越 英晴	2017/3/27-30		日本水産学会	学会員、水産関 係者	約 1000 名
さーもん・かふえ	三陸岩手のサクラマス産の遺伝特性	塚越 英晴	2017/6/14	盛岡	サケ研究会	サケ関連研究者	約 60 名
18th International Congress of Comparative Endocrinology	Relationship between sexual plasticity and body growth in the ovary of Koi carp (<i>Cyprinus</i> <i>carpio</i>)	平井 俊朗	2017/6/4-9	Chateau Lake Louise, Banff National Park, Alberta, Canada	International Federation of Comparative Endocrinological Societies(IFCES)	研究者	約 300 名
19th International Congress of Comparative Endocrinology	New type of 20 β -hydroxysteroid dehydrogenase is the key enzyme for production of maturation-inducing hormone by medaka (<i>Oryzias latipes</i>) preovulatory ovarian follicles	平井 俊朗	2017/6/4-9	Chateau Lake Louise, Banff National Park, Alberta, Canada	International Federation of Comparative Endocrinological Societies(IFCES)	研究者	約 300 名
第 42 回日本比較内分泌学会大及びシン ポジウム	コイ遺伝的雌生殖腺の性的可塑性に 及ぼす体成長の影響	平井 俊朗	2017/11/17-19	奈良女子大学	日本比較内分泌学会	研究者	約 200 名
第 42 回日本比較内分泌学会大及びシン ポジウム	ニシキゴイ遺伝的雌の生殖腺性分化 に及ぼす高温ストレスの影響	平井 俊朗	2017/11/17-19	奈良女子大学	日本比較内分泌学会	研究者	約 200 名
平成 30 年度日本水産学会春季大会	アメマス遺伝的雌の生殖腺形成に対す る雄化処理の影響	平井 俊朗	2018/3/26-30	東京海洋大学	日本水産学会	研究者	
平成 30 年度日本水産学会春季大会	ニシキゴイ卵巣形成過程に及ぼす高温 ストレスの影響	平井 俊朗	2018/3/26-30	東京海洋大学	日本水産学会	研究者	
平成 29 年度海洋研究者交流会	さけます類の陸上養殖技術確立を目指 した予備的試験について	佐藤 琢哉	2017/9/8	岩手県森林組合会館	いわて海洋研究コン ソーシアム	研究者	約 30 名
日本水産学会創立 85 周年記念国際シン ポジウム	Proteomic response of juvenile chum salmon to thermal acclimation	佐藤 琢哉	2017/9/22	東京海洋大学	日本水産学会	研究者	
さーもん・かふえ	サケ加工利用への取り組み	袁 春紅	2017/6/14	盛岡	サケ研究会	サケ関連研究者	約 60 名
2017 年秋季日本水産学会講演	Gelation of scallop adductor muscle at low ionic strength condition	袁 春紅	2017/9/24	東京	日本水産学会	水産研究者	約 50 名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
2018 年春季日本水産学会講演	ホタテガイ流通中のストレス適応セン サータンパク質の変化メカニズム	袁 春紅	2018/3/28	東京	日本水産学会	水産研究者	約 50 名
水産研究セミナー	三陸水産物の鮮度維持による新規ね り製品の開発	袁 春紅	2017/8/25	釜石	三陸水産研究センター	水産研究者	約 60 名
釜石高校「学問を学ぶ」講演会	岩手大学が目指す地域に貢献する研 究開発について	田中 教幸	2017/6/15	釜石高校	三陸水産研究センター	高校 1 年生	160 名
地域防災教育研究部門▼							
岩手県平成 30 年度土砂災害防止研修会	岩手県における土砂災害の減災に向 けて	井良沢 道也	201/6/6	盛岡市	岩手県	教職員、一般市 民	約 70 名 13 時、15 時 2 回講演
八幡平市寺田地区ワークショップ	地区防災計画制度の課題	井良沢 道也	2017/7/30	八幡平市寺田地区	岩手大学、八幡平市	一般市民	
札幌市講演会	住民と共に歩む減災の取り組み	井良沢 道也	2017/9/26	札幌市		一般市民	
秋田市講演会	住民と共に歩む減災の取り組み	井良沢 道也	2017/9/29	秋田市		一般市民	
仙台市講演会	住民と共に歩む減災の取り組み	井良沢 道也	2017/10/25	仙台市		一般市民	
岩手県県民協働成果報告会	地区防災計画制度の課題	井良沢 道也	2018/2/8	盛岡市	岩手県	一般市民	
八幡平市地域課題発表会	八幡平市における地域防災力向上の 取り組み	井良沢 道也	2018/2/21	八幡平市寺田地区	岩手大学	教職員、一般市 民	
岩手大学第 19 回地域防災フォーラム	自然災害解析部門の活動紹介	井良沢 道也	2018/3/6	岩手大学	地域防災研究センタ ー	教職員、一般市 民	
地域防災リーダー育成	斜面災害	井良沢 道也	2017/9/23	岩手大学	地域防災研究センタ ー	受講生	
地域を支える「エコリーダー」・「防災リー ダー」育成プログラム	地学、火山、視察研修、危機管理講 座実習ほか	鴨志田 直人	2017/5/20 2017/12/9	岩手大学ほか	岩手大学	一般市民	リーダー育成 コース 19 名
がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座	そのとき、どうする? (1 年生の)、大雨・ 洪水ワークショップ (2 年生)、DIG (3 年生)	鴨志田 直人	2017/8/29 2017/9/4	岩手大学	地域防災研究センタ ー、岩手大学教育学部・教 職大学院、盛岡市立上 田中学校	盛岡市立上田中 学校	約 400 名
学校防災アドバイザー派遣事業	八幡平市立西根第一中学校	鴨志田 直人	2017/10/18	八幡平市立西根第一中 学校	岩手県教育委員会 (依 頼機関)	生徒 30 名、教 諭 10 名	
第三回災害文化研究会	災害文化を考える〜ことばと文学を切 り口として	山崎 友子	2018/2/2 2018/2/3	岩手大学、宮古市重茂 半島	災害文化研究会・岩手 大学地域防災研究セン ター	研究者・一般市 民・学生	第一日目研究 会：約 100 名参加、第二日 目巡検：20 名 参加
「東北みらい大学一日入学」と「東日本大 震災レクイエム」パネルディスカッション	これまでの復興、これからの復興	山崎 友子	2018/3/10	盛岡アイーナ	NPO 法人東北みらい 大学	未来大学受講 者、一般市民	メディア聴講・ 取材有、19： 10～21：00
岩手大学・田老第一中学校合同授業	テーマ：防災を支える地域の力	山崎 友子	2017/9/21				
英語科教育法 B：地域素材を用いた英語 活動	紙芝居「つなみ」を用いた小学科英 語活動	山崎 友子	2017/9/2 2017/9/3	岩手大学	岩手大学	岩手大学免許認 定講習「英語教 育法 B」受講者	約 40 名
岩手ネットワークシステム地盤と防災研究 会	講演会の開催、運営	山本 英和	2017/5/19	岩手大学理工学部テク ノホール	岩手ネットワークシ ステム地盤と防災研究会	研究会会員、一 般市民、学生	約 120 名
岩手ネットワークシステム地盤と防災研究 会	講演会の開催、運営	山本 英和	2017/11/18	岩手大学理工学部テク ノホール	岩手ネットワークシ ステム地盤と防災研究会	研究会会員、一 般市民	約 150 名
アラスカ大学岩手大学研究交流会	Evaluation of ground vibration characteristics by using microtremor array survey in Kuji City, Iwate Prefecture, アラスカ 大学アスカレッジ校 (University of Alaska Anchorage, UAA) にお ける研究交流会、	山本 英和	2017/4/21	アラスカ大学アスカレ ジ校、岩手大学	アラスカ大学アスカ レッジ校、岩手大学	大学関係者	約 20 名
岩大 x 上田中 がんちゃん Jr. 防災リー ダー養成講座	防災の講義、地震、地震発生のメカ ニズム、地震の対策	山本 英和	2017/9/1	岩手大学教育学部北桐 ホール	岩手大学、上田中学校	上田中学校 1 年生	約 120 名
平成 29 年度第 1 回東北地方太平洋沖の 地震活動に関する研究委員会	福島県の広帯域リニアアレイで観測さ れた常時微動の地震波干渉法解析― Hi-net 記録を利用した解析―	山本 英和	2017/9/25	如水会館	(公財) 地震予知総合 研究振興回	研究委員	約 30 名
がんちゃん Jr. 防災リーダー養成講座	大雨・台風について	小笠原 敏記	2017/9/4	岩手大学	地域防災研究セン ター、教育学部・教職 大学院、盛岡市立上 田中学校	中学生	155 名
国立研究開発法人、土木研究所、水 災害・リスクマネジメント国際センター ICHARM と岩手大学地域防災研究セン ターとの今後の研究連携にむけての会議	平成 28 年台風 10 号による小本川水 系の被害の概要と対策	小笠原 敏記	2017/12/4	岩手大学	地域防災研究センタ ー	研究機関	11 名
岩手大学体感ツアー	水害について知ろう	松林 由里子	2017/8/9	岩手大学共用教育研究 棟、ハイドロラボ	久慈市山形市民セン ター	小学生	約 20 名
防災教育アドバイザー		松林 由里子	2017/10/10	一関市立永井小学校	岩手県教育委員会	小学生 3、4 年生	約 30 名
ジュニア防災リーダー要塞講座	DIG 実習他	松林 由里子	2017/8/29 2017/9/4	岩手大学教育学部	地域防災研究センタ ー	中学生	
災害図上訓練	災害図上訓練	松林 由里子	2017/11/18	岩手県消防学校	岩手県消防学校	消防団員	約 50 名
釜石東中学校校内研究会	子どもたちに学ぶこれからの防災教 育・復興教育	森本 晋也	2017/4/22	釜石東中学校	釜石東中学校	教員	1 時間講義、 1 時間ワー クショップ
岩手県防災教育研修会		森本 晋也	2017/6/13	サンセール盛岡	岩手県教育委員会	教員	助言
防災教育研修講座	震災の教訓を生かしたこれからの防災 教育	森本 晋也	2017/7/21	神奈川県立総合教育セ ンター	神奈川県教育委員会	教員	2 時間講演
防災講演	災害を生き抜くために	森本 晋也	2017/7/24	大船渡市立日頃市中 学校	大船渡市立日頃市中 学校	中学生	2 時間講演
二戸市教育委員会・東京学芸大学 「防災教育プログラム研修」	『いわての復興教育』のこれまでとこれ から	森本 晋也	2017/8/4	岩手大学	二戸市教育委員会	東京学芸大学学 生	講演
鹿児島県学校安全教室 (防災教室)	東日本大震災を振り返って～そこから 学ぶ防災教育の在り方～	森本 晋也	2017/8/9	鹿児島県立奄美図書館	鹿児島県教育委員会	教員	講演

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
大船渡市立赤崎中学校校内研修会	学校安全の意義と考え方	森本 晋也	2017/8/17	大船渡市立赤崎中学校	大船渡市立赤崎中学校	教員	講義とワーク ショップ
岩手県立宮古恵風支援学校校内研修会	学校防災体制の充実に向けて	森本 晋也	2017/8/19	岩手県立宮古恵風支援 学校	岩手県立宮古恵風支援 学校	教員	講義
釜石東中学校防災学習会	災害から命を守るために ～助けられる人から助ける人へ～	森本 晋也	2017/8/24	岩手大学	釜石市立釜石東中学校	生徒	講演
がんちゃんJr. 防災リーダー養成講座		森本 晋也	2017/8/29 2017/9/4	岩手大学	教育学部・地域防災研 究センター、盛岡市立 上田中学校	生徒	全校生徒を対象 に、3日間講座 を開催。講座の 企画及び演習を 担当。
陸前高田市立第一中学校	バトンを未来につなぐ～故郷の復興・ 発展、防災のために～	森本 晋也	2017/9/7	陸前高田市立第一中 学校	陸前高田市立第一中 学校	生徒、保護者、 地域住民	講演
「学校安全指導者養成研修」		森本 晋也	2017/9/15	つくば中央研修セン ター	独立行政法人 教職員 支援機構	教職員、教育委 員会指導主事等	「災害安全」の 講義、演習
日本安全教育学会発表	生徒の主体的学習にもとづく学校防災 教育のカリキュラムについて	森本 晋也	2017/9/22	岡山大学	日本安全教育学会	学会員	東北工業大学小 川和久教授との 共同研究
日本安全教育学会発表	生徒の主体的学習にもとづく学校防災 教育の評価について	森本 晋也	2017/9/22	岡山大学	日本安全教育学会	学会員	東北工業大学小 川和久教授との 共同研究
みやぎ防災教育推進協力校事業第2回連 絡協議会	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ防 災教育のあり方～釜石東中学校生徒 たちへの聞き取り調査から～	森本 晋也	2017/10/18	宮城県庁	宮城県教育委員会	教員	講演、助言
鴨川市立江見小学校・防災講演会	災害から自分の命を守る～震災を生き 抜いた釜石の子どもたちに学ぶ～	森本 晋也	2017/10/25	鴨川市立江見小学校	千葉県鴨川市教育委員 会	児童、教員、保 護者	講演
いすみ市立大原小学校家庭教育学級	①自分の命は、自分で守る～「てんで んこ」の教え～ ②地域・家庭・学校で連携する防災 教育のあり方～東日本大震災の教訓 を踏まえて～	森本 晋也	2017/10/26	いすみ市立大原小学校	千婁県いすみ市教育委 員会	児童、保護者、 教員	①全校児童・教 員・保護者対象 の講演、②保護 者対象の講話
やまぐち防災シンポジウム・基調講演	震災の教訓を踏まえた学校と地域の 連携について	森本 晋也	2017/11/4	山口県セミナーパーク	山口県	一般	講演
全国学校保健・安全研究大会	発達の段階に応じた効果的な安全教 育～「カリキュラム・マネジメント」 の視点を踏まえて～	森本 晋也	2017/11/17	三重県総合文化セン ター	文部科学省、三重県 教育委員会	教職員	「第9課題」(安 全教育)の講義
仙台市立郡山中学校防災教育シンポジウ ム	自分の命を守り、助けられる人から助 ける人へ～震災の教訓を踏まえて～	森本 晋也	2017/11/18	仙台市立郡山中学校	仙台市立郡山中学校	生徒、教職員、 地域住民	講演
岩手大学 三陸復興・地域創生推進機構 首都圏向け報告会	平成28年第10号台風被害と防災 教育～災害の教訓を未来に生かすた めに～	森本 晋也	2017/12/3	日比谷コンベンション ホール	三陸復興・地域創生推 進機構	一般	講演
山口大学ちやぶ台次世代コーホート研修 会	「震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ 防災教育」～故郷の復興・発展を支 える人づくりを目指して～	森本 晋也	2017/12/23	ホテルかめ福	山口大学教育学部・教 職大学院	教職員	講演
釜石市教育委員会教育研究所・全体会	これからの「いのちの教育」について	森本 晋也	2018/1/10	釜石市立釜石中学校	釜石市教育研究所	教職員	講演
愛媛県防災管理担当者研修会	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ防 災教育	森本 晋也	2018/1/17	愛媛県歴史文化博物館	愛媛県教育委員会	教職員	講演
「ぎゅっと防災博！2018」セミナー「災 害から生き抜く力を育む防災教育」	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ～ 釜石の出来事から～	森本 晋也	2018/1/27	池袋サンシャインシテ ィ文化館	文部科学省	一般	講演
滝沢市立柳沢小学校防災教室	災害から、自分やみんなの命を守るた めに	森本 晋也	2018/2/6	滝沢市立柳沢小学校	滝沢市立柳沢小学校	児童	講演
防災教育フォーラム&東北未来カフェ	震災を生き抜いた子どもたちに学ぶ防 災教育	森本 晋也	2018/2/23	富士通エフサスイノベ ーション&フューチャーセ ンター	NPO 法人かながわ 311 ネットワーク	教職員、一般	講演
第16回学校危機メンタルサポートセン ターフォーラム第2部「安全・防災教育 のプログラム開発プロジェクト」シンポジ ウム	釜石東中学校における防災教育の実 践とその成果～震災を生き抜いた生徒 たちに学ぶ～	森本 晋也	2018/3/2	大阪教育大学学校危 機メンタルサポートセン ター	大阪教育大学学校危 機メンタルサポートセン ター	教職員	基調講演
紫波町立星山小学校防災学習会	災害から、自分やみんなの命を守るた めに	森本 晋也	2018/3/9	紫波町立星山小学校	紫波町立星山小学校	児童	講演、台風・大 雨ワークショップ
岩手県立大槌高校「震災と復興を考える 集い」講話	台風・大雨から身を守るために～ 2016年台風第10号災害を教訓に ～	森本 晋也	2018/3/11	岩手県立大槌高校	岩手県立大槌高校	生徒、教職員	講話
いわての復興教育・防災教育研修講座	自校の復興教育のカリキュラムの見直 し	田代 高章	2017/6/5	岩手県立総合教育セン ター（花巻市）	岩手県	岩手県小 中学校 教員	約100名
平泉文化教育研究部門▼							
ミーツ・ザ・アーティスト	演代画像石における繋馬画像について	劉 海宇	2018/3/21	岩手県立美術館	岩手県立美術館	県民	約30名
平泉文化セミナー第38回例会	中尊寺供養願文写本の基礎的研究一 書の視点から	劉 海宇	2018/2/27	教育学部総合教育研究 棟E21	平泉文化研究センター	市民	約20名
第18回平泉文化フォーラム	五代兩宋期における金銀字一切経及 びその政治的意義	劉 海宇	2018/1/27	一関文化センター	岩手県教育委員会等	県民	約200名
日本中国出土資料学会 2017 年大会	太田夢庵藏先秦古壺の整理與研究	劉 海宇	2017/12/2	帝京大学八王子キャン パス		研究者	約40名
首屈一帯一路儒家文明創新論壇	日本飛鳥京石刻群與儒家天命思想	劉 海宇	2017/11/25	中国孔子研究院	中国曲阜師範大学	研究者	約30名
伝承與創新：考古学視野下的齊文化學術 研討会	釋齊系等北方諸系戰國文字中一類特 殊写法的「與」字及相關諸字	劉 海宇	2017/10/13	中国齊文化博物館	中国山東省文物考古研 究院等	研究者	約50名
世界漢字學會第五屆年會	從清華簡子儀篇帛字構形看莊子的一 處異文	劉 海宇	2017/9/16	中国三峽大學	世界漢字学会	研究者	約40名
平泉文化セミナー第33回例会	中尊寺金銀字一切経と東アジアの王 権	劉 海宇	2017/7/25	教育学部総合教育研究 棟E21	平泉文化研究センター	市民	約20名
第18回平泉文化フォーラム	ポータブル複合 X 線分析による白磁と 青磁の胎土分析（その3）	會澤 純雄・ 平原 英俊 等	2018/1/27	一関文化センター	岩手県教育委員会等	県民	約200名
平泉文化セミナー第30回例会講師	佐渡平泉寺の調査について	伊藤 博幸	2017/4/27	岩手大学	平泉文化研究センター	一般市民	約20名

講演会等の名称	講演題目	氏名	実施日 (複数回の場合は期間)	実施場所	主催機関	対象	備考 (参加者数など)
平成29年度平泉学講演会講師	発掘が語る平泉文化	伊藤 博幸	2017/6/29	平泉小学校	平泉町	町小中学校生	約200名
胆沢城探訪講座講師	胆沢城の地域形成	伊藤 博幸	2017/8/20	奥州市埋文	(財)奥州市埋文セン ター	一般市民	約100名
奥州市観光サポーター研修会講師	平泉藤原文化について	伊藤 博幸	2017/9/4	奥州寺子屋	奥州市観光協会	サポーター	約20名
盛岡市西部公民館古代史講座講師	アテルイ後の胆沢	伊藤 博幸	2017/9/9	西部公民館	西部公民館	一般市民	約100名
和賀地区交流センター文化講演会講師	平泉と黄金の道ー秀衡街道を考える	伊藤 博幸	2017/10/29	同交流センター	北上市和賀地区交流セ ンター	一般市民	約30名
岩手県タクシー協会胆江支部研修会講師	奥州市・金ヶ崎町の文化と歴史につい て	伊藤 博幸	2017/11/15	市銘物センター	県タクシー協会胆江支 部	支部加盟職員	約50名
日報カルチャースクール「歴史の跡を訪ね る」講師	藤原清衡と平泉	伊藤 博幸	2017/12/2	岩手日報社	岩手日報社事業部	受講生	約50名
浅草寺仏教文化講座	浅草寺別当公遵法親王と「伝教大師 石像」	菅野 成寛	2018/3/23	東京・丸の内マイブラ ザ	浅草寺	都民	約400名
石造物科研	大陸と半島から見た日本経塚	菅野 成寛	2017/11/12	平泉町役場	科研 A（研究代表者・ 市村高男大阪産業大学 教授）	町民	約20名
岩手日報カルチャースクール	平泉「伝教大師」石像の成立	菅野 成寛	2017/6/17	岩手日報社	岩手日報社事業部	市民	約20名
御所野遺跡講演会	北海道・北東北の環状列石とアイヌ語 系地名	八木 光則	2018/3/25	御所野縄文博物館	御所野縄文博物館		
東アジアの古代文化を考える会	アイヌ語系地名と蝦夷	八木 光則	2017/12/23	豊島区生活産業プラザ	東アジアの古代文化を 考える会		
盛岡市遺跡の学び館企画展特別講演会	古代蝦夷と律令国家	八木 光則	2017/11/22	盛岡市遺跡の学び館	盛岡市遺跡の学び館	市民	約80名
『東北太平洋沿岸地域の歴史学・考古学 的総合研究』研究集会	移住と北方交易研究の諸課題	八木 光則	2017/9/23				

05 委員会

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間	備 考
三陸復興部門▼				
いわて高等教育コンソーシアム連携班				
いわて高等教育コンソーシアム：運営委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2017/4/1	2018/3/31 委員
いわて高等教育コンソーシアム：単位互換・高大連携推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2017/4/1	2018/3/31 委員長
いわて高等教育コンソーシアム：地域人材育成推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	後藤 尚人	2017/4/1	2018/3/31 副委員長
いわて高等教育コンソーシアム：FD・SD 連携推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	江本 理恵	2017/4/1	2018/3/31
いわて高等教育コンソーシアム：地域人材育成推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	藤本 幸二	2017/4/1	2018/3/31 委員
いわて高等教育コンソーシアム：単位互換・高大連携推進委員会	いわて高等教育コンソーシアム	脇野 博	2017/4/1	2018/3/31 委員
地域コミュニティ再建支援班				
盛岡市建築紛争調整委員会委員	盛岡市	委倉 哲	2014/7/1	2018/3/31
盛岡市図書館利用者協議会委員	盛岡市教育委員会	委倉 哲	2014/7/1	2018/3/31
日本社会病理学会理事	日本社会病理学会	委倉 哲	2016/10/1	2018/9/30
NPO ふるさとの会理事	NPO ふるさとの会	委倉 哲	1999/10/1	
渡嘉敷村文化財審議会委員	渡嘉敷村	委倉 哲	2017/11/1	
平成29年度大槌町心の復興事業補助金等審査委員会	大槌町	船戸 義和	2017/4/1	2018/1/31
地域コミュニティ形成アドバイザー	山田町	船戸 義和	2017/4/1	2018/3/31
地域アドバイザー	大槌町	船戸 義和	2017/4/1	2018/3/31
アドバイザー	大船渡市応急仮設住宅支援協議会	船戸 義和	2017/4/1	2018/3/31
東日本大震災被災者の生活復興プロジェクト 東日本大震災から7年 事例に学ぶ生活復興	公益財団法人 ひょうご震災記念 21 世紀研究機 構	船戸 義和	2017/10/1	2018/3/31 ワーキングチー ム委員
平成30年度大槌町心の復興事業補助金等審査委員会	大槌町	船戸 義和	2018/2/1	2018/3/31 平成30年度 に継続
まち・ひと・しごと総合戦略策定会議	陸前高田市	五味 壮平	2015/8～	
岩手県社会貢献活動支援審議会委員	岩手県	五味 壮平	2016/6～	
岩手県を中心とした北東北インバウンド誘客推進調査・検討等業務に係る観光コンテンツ評 価・検証会議	復興庁若手復興局	五味 壮平	2017/9	2018/3
震災遺構等サインに関する検討委員会	国土交通省	五味 壮平	2018/3	2019/3
一般社団法人・生命環境産業振興協議会理事会	一般社団法人・生命環境産業振興協議会	五味 壮平	2015/8～	副理事長
農林畜産業復興総合計画班				
観光振興審議会	八幡平市	山本 清龍	2012/4/1	2017/9/30 会長
自然公園等施設技術指針（ビジターセンター）検討委員会	環境省	山本 清龍	2015/4/1	2018/3/31 委員
産業振興アドバイザー会議	北上市	山本 清龍	2016/4/1	2018/3/31 委員

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間		備 考
地域創生部門▼					
いわて農商工連携ファンド審査委員	いわて産業振興センター	今井 潤	2017/4/19	2018/3/31	
いわて希望ファンド審査委員	いわて産業振興センター	今井 潤	2017/4/17	2018/3/31	
宮古市産業支援アドバイザー	宮古市	今井 潤	2016/4/1	2019/3/31	
ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援事業地域採択枠審査委員	岩手県中小企業団体中央会	今井 潤	2016/5/1	2017/2/28	
調査研究事業審査委員	公益財団法人さんりく基金	今井 潤	2017/5/11	2018/3/31	
アドバイザー	宮古港フェリー利用促進協議会	今井 潤	2016/4/1	2019/3/31	
評価・検証委員会委員	盛岡商工会議所	今井 潤	2018/1/1	2018/2/28	
産業育成特別委員会委員	盛岡商工会議所	今井 潤	2016/12/26	2018/10/30	
盛岡市産学共同研究事業等審査委員会	盛岡市	今井 潤	2017/3/24	2019/3/23	
滝沢市産学共同研究事業費補助金審査会	滝沢市	今井 潤	2016/6/17	2019/3/31	
盛岡市新事業創出支援センター指定管理者候補者選定委員会	盛岡市	山下 晋	2017/7/12	2018/3/31	
岩手県地域イノベーション創出緩急開発課題審査委員会	岩手県	小川 薫			
盛岡市ブランド推進委員会	盛岡市	小川 薫			
東北みらい創りサマースクール実行委員会	東北みらい創りサマースクール実行委員会事務局	今井 潤			
日本現代詩歌文学館企画委員会	日本現代詩歌文学館	木村直弘	2017/4/1	2018/3/31	副委員長
ものづくり技術教育研究部門▼					
科学研究費審査意見書作成者	独立行政法人日本学術振興会		2018/1/5	2018/1/19	
第３次・電子回路の教育プログラム調査専門委員会	社団法人電気学会		2015/6/1	2018/5/31	
花巻市産業支援アドバイザー	花巻市		2017/3/28	2019/3/31	アドバイザー
積層ゴム支承の耐久性評価に関する検討会委員	一般財団法人 阪神高速道路技術センター		2017/4/1	2019/3/31	委員
岩手県立水沢高等学校スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員	岩手県立水沢高等学校		2016/6/1	2019/3/31	委員
化学系学協会東北大会実行委員	公益社団法人日本化学会東北支部		2017/9/30		委員
三陸水産教育研究部門▼					
沿岸域における漁船漁業ビジネスモデル研究会	国立水産研究・教育機構開発調査センター	後藤 友明	2017/4/13	2018/3/31	会長
日本水産学会水産政策委員会	日本水産学会	後藤 友明	2016/3/1	2018/2/28	委員
日本水産学会 85 周年国際シンポジウム委員会	日本水産学会	後藤 友明	2016/3/1	2018/2/28	委員
日本水産学会東北支部幹事	日本水産学会	後藤 友明	2016/3/1	2018/2/28	委員
水産海洋学会活性化委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2017/2/1	2019/1/31	委員長
水産海洋学会学会賞選考委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2017/2/1	2018/1/31	委員長
水産海洋学会学会評議委員会	水産海洋学会	後藤 友明	2017/2/1	2019/1/31	委員
水産海洋学会学会理事	水産海洋学会	後藤 友明	2017/2/1	2019/1/31	理事
大船渡市漁業就業者確保育成協議会	大船渡市	後藤 友明	2017/4/1	2018/3/31	委員
我が国周辺漁業資源評価	水産研究・教育機構	後藤 友明	2017/8/15	2018/3/31	外部有識者
岩手県資源管理協議会平成 29 年度第 3 回定例会	岩手県資源管理協議会	後藤 友明	2017/9/13		オブザーバー
板鯢類研究会幹事	板鯢類研究会	後藤 友明	2017/4/1	2018/3/31	編集幹事
岩手県三陸海域研究論文知事表彰選考委員会	岩手県	田中 教幸	2017/4/1	2018/3/31	委員
スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会	岩手県立釜石高等学校	田中 教幸	2017/4/1	2018/3/31	委員
釜石市水産審議会	釜石市役所	田中 教幸	2017/2/29	2019/2/21	委員
岩手県水産試験研究評価委員会	岩手県	田中 教幸	2016/4/1	2018/3/31	委員
田野畑村漁業就業者育成協議会	田野畑村役場	田中 教幸	2016/5/19	2018/3/31	委員
三陸地域研究論文知事表彰選考委員会	岩手県	田中 教幸	2016/4/1	2018/3/31	委員
大船渡市漁業就業者確保育成協議会ワーキンググループ委員	大船渡市	田村 直司	2017/4/1	2018/3/31	委員
大槌町水産振興会委員	大槌町	田村 直司	2017/4/1	2018/3/31	委員
釜石市漁業担い手育成プロジェクトチーム	釜石市	田村 直司	2017/12/23	2018/3/31	委員
地域防災教育研究部門▼					
鰯山川地すべり検討委員会	林野庁東北森林管理局	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	委員長
磐井川地すべり検討委員会	林野庁東北森林管理局	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	
秋田県公共事業評価検討委員会	秋田県	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	
青森県公共事業評価検討委員会	青森県	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	
秋田焼山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会	国土交通省東北地方整備局	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	
土木研究所外部評価検討委員会	土木研究所	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	
秋田県落石対策検討委員会	秋田県	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	委員長
岩手県国土利用計画審議会委員会	岩手県	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	委員長
岩手ブロック公共工事等総合評価委員会	国土交通省東北地方整備局	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	
東北森林管理局事業評価技術検討会	林野庁東北森林管理局	井良沢 道也	2017/4/1	2018/3/31	委員長
宮古市都市計画審議会	宮古市	鴨志田 直人	2016/10/13	2018/9/30	会長職務代理者
岩手県防災会議	岩手県	山崎 友子	2017.4.1	2018.3.31	委員
岩手県津波防災技術専門委員会	岩手県	山本 英和	2017/4/1	2018/3/31	
東北地方・太平洋沖の地震活動に関する調査研究委員会委員	(公財) 地震予知総合研究振興会	山本 英和	2017/4/1	2018/3/31	

委員会等名	依頼機関	氏名	委嘱期間		備 考
下北半島周辺における地震活動等調査検討委員会	(公財) 地震予知総合研究振興会	山本 英和	2017/4/1	2018/3/31	
盛岡地区かわまちづくり	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2009/8/1		
リバーカウンセラー (北上川)	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2010/3/1		
米代川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2014/9/1		
北上川水系河川整備学識者懇談会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2014/10/1		
北上川上流河道管理検討会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2016/3/1		
東北地方整備局事業評価監視委員会	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2016/4/1		
河川水辺の国勢調査 アドバイザー	国土交通省東北地方整備局	小笠原 敏記	2017/4/1		
いわての川づくりプラン懇談会	岩手県	小笠原 敏記	2013/7/1		
岩手県政策評価委員会	岩手県	小笠原 敏記	2016/2/1		
小本川河川整備連絡協議会	岩手県	小笠原 敏記	2017/4/27	2018/3/31	会長
浪板海岸砂浜再生検討業務技術検討委員会	岩手県	小笠原 敏記	2017/5/1	2018/3/24	
根浜海岸復興養浜技術検討委員会	岩手県	小笠原 敏記	2017/5/29	2018/3/31	副委員長
風水害対策支援チーム	岩手県	小笠原 敏記	2017/4/1		
岩手県防災会議委員	岩手県	堀 久美	2015/3/1	2018/3/31	
いわて未来づくり機構「復興教育作業部会」	岩手県	田代 高章	2017/4/4	2018/3/31	座長
防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業推進委員会	岩手県教育委員会	森本 晋也	2017/7/1	2018/3/31	委員
釜石市鶴住居地区津波伝承施設展示運営委員会	釜石市	森本 晋也	2017/9/11	2019/3/31	委員長
学校安全資料作成会議	日本スポーツ振興センター	森本 晋也	2017/9/15	2018/3/21	委員

平泉文化教育研究部門▼					
平成 29 年度えさし郷土文化館運営協議会 (伊藤 博幸)	えさし郷土文化館		2016/4/1	2019/3/31	委員
平成 29 年度第 1 回胆沢城跡整備活用指導委員会 (伊藤 博幸)	奥州市教育委員会		2017/4/1	2019/3/31	委員
第 2 回奥州・金ヶ崎観光ガイドタクシー運営協会 (伊藤 博幸)	岩手県タクシー協会胆江支部		2016/4/1	2019/3/31	副委員長
平成 29 年度第 2 回胆沢城跡整備活用指導委員会 (伊藤 博幸)	奥州市教育委員会		2017/4/1	2019/3/31	委員
第 32 回志波城跡史跡整備委員会 (伊藤 博幸)	盛岡市教育委員会		2017/4/1	2018/3/31	委員

06 プロジェクト・外資

プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	委託期間	備考
三陸復興部門▼					
地域コミュニティ再建支援班					
岩手県被災者の参画による心の復興事業	大槌町・盛岡市における傾聴支援・サロン活動による心の復興事業	麦倉 哲	復興庁心の復興事業／岩手県復興局生活再建課	2017/7/1～2018/3/31	175 万円
被災者の主体性醸成による地域コミュニティ再建支援		船戸 義和	岩手県	2017/6/29～2018/3/31	平成 29 年度被災者の参画による心の復興事業
地域課題解決プログラム	多世代コミュニティの在り方とその構築手法について	五味 壮平	盛岡生活文化研究室	2017/4～2018/3	
地域課題解決プログラム	世界遺産平泉 PR キャラクター「ケロ平」が地域住民に愛され、活用されるための方策についての研究	五味 壮平	岩手県県南広域振興局	2017/4～2018/3	
地域課題解決プログラム	「久慈港」を起点とする地域の活性化にむけた実践的研究～久慈港イメージアッププロジェクト～	五味 壮平	久慈市港湾・エネルギー推進課	2017/4～2018/3	
ものづくり産業復興推進班					
受託事業	地域ものづくり技術支援委託業務		(公財) 釜石・大槌地域産業育成センター	2017/4/1～2018/3/31	¥15,640,000
農林畜産産業復興総合計画班					
科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) (基盤研究 (C) (一般))	地域制公園の自然保護制度を活かした文化資源の保護と協働に関する研究		日本学術振興会	2016/4/1～2019/3/31	代表：山本 清龍
地域創生部門▼					
盛岡市産学官連携研究センター指定管理		今井 潤	盛岡市	2017/4/1～2018/3/31	¥13,438,268

プロジェクト名称	課題名	氏名	委託機関	委託期間	備考
共同研究員受入	産学官連携による地域活性化にかかる研究	今井 潤	八幡平市	2017/4/1～2018/3/31	
共同研究員受入	産学官連携による東日本大震災津波からの復興に関する実践的調査研究	今井 潤	釜石市	2017/4/1-2018/3/31	
共同研究員受入	北上市における産学官金連携システムの発展と人材育成にかかる実践研究	今井 潤	北上市	2017/4/1-2018/3/31	
共同研究員受入	産学官連携による内発型産業を基軸とした地域産業活性化及び地域課題解決、地域連携システムの構築による地域情報交流の実践的調査研究	今井 潤	久慈市	2017/4/1-2018/3/31	
共同研究員受入	盛岡市における産学官連携による持続的な産業振興に関する実践的研究	今井 潤	盛岡市	2017/4/1-2018/3/31	
共同研究員受入	イノベーター思考法と対話手法を活用したビジネスプラン作成支援事業	今井 潤	大船渡市	2017/6/1-2017/12/31	
岩手大学平成 29 年度研究力強化支援経費	賢治学の多面的展開―学部を超えた富沢賢治研究の拠点形成―		岩手大学	2017/7/5～2018/3/31	研究代表者：木村直弘
生涯学習部門▼					
社会教育主事講習	平成 29 年度社会教育主事講習		文部科学省	2017/6/23-2018/2/28	
ものづくり技術教育研究部門▼					
SIP（戦略的イノベーション創造プログラム）／革新的設計生産技術	分子接合技術による革新的ものづくり製造技術の研究開発		NEDO	2014/11/1-2019/3/31	
三陸水産教育研究部門▼					
さんりく基金調査研究事業	三陸の貝類養殖漁業に大きな被害をもたらす外来種ヨーロッパザラバヤの生態学的研究	後藤 友明	公益財団法人さんりく基金	2017/6/15-2018/1/31	
さんりく基金調査研究事業	ミズダコを主対象としたカゴ漁業における資源管理型漁業の促進	後藤 友明	公益財団法人さんりく基金	2017/6/15-2018/1/31	岩手県水産技術センター、種市南漁業協同組合との共同研究
地域資源を活用した省エネ・省コスト・高付加価値型の水産業・水産加工業の実用化・実証事業	高鮮度化技術を用いた漁船漁業の 6 次産業化の実証	後藤 友明	国立研究開発法人水産研究・教育機構	2017/4/22-2018/3/31	
貝殻を活用したナマコ増殖場造成試験	貝殻を活用したナマコ増殖場造成試験	後藤 友明	一般社団法人漁港漁場漁村総合研究所	2017/10/1-2018/5/31	
平成 29 年度太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援事業	改良漁具の効果検証	後藤 友明	水産庁	2017/4/3-2018/3/31	
海洋再生可能エネルギー実証フィールド漁業協調調査事業	海洋再生可能エネルギー実証フィールド漁業協調調査	後藤 友明	岩手県	2017/5/1-2018/3/16	
地域課題解決プログラム	料理教室を通じた釜石産水産物消費拡大のための新メニュー開発と魚食普及	袁 春紅	岩手大学	2017/7/1-2018/3/31	
農林水産省 食料生産地域再生のための先端技術展開事業	地域資源を活用した省エネ・省コスト・高付加価値型水産業・水産加工業の実用化実証研究	田中 教幸	国立研究開発法人水産研究・教育機構	2017/4/1-2018/3/31	
「知」の集積による産学連携推進事業のうち研究開発プラットフォーム運営等委託事業	研究開発プラットフォームの推進体制の整備等	田中 教幸	農林水産省農林水産技術会議	2017/10/25-2018/3/8	
地域防災教育研究部門▼					
平成 29 年度岩手県県民協働型評価推進事業	地区防災計画制度の普及による地域防災力の強化方策の検討	井良沢 道也	岩手県	2017/4/1～2017/9/30	
「平成 30 年度大規模地震が地盤に与えた影響とこれに起因する土砂災害に関する技術研究開発（代表：北海道大学丸谷知己教授）」	岩手・宮城内陸地震以降の崩壊地の推移	井良沢 道也		2017/4/1-2018/3/1	
日本植生塾	防災に関する活動支援	井良沢 道也		2017/4/1-2018/3/31	奨学寄付金
災害文化研究	災害文化展開の現状と課題に関する研究～レジリエントな地域社会確立のために	山崎 友子	科学研究費	2014/4/1-2018/3/31	基盤（C）
災害文化研究	「災害文化」の概念の深化と確立～減災の扉の鍵を提供するものとして	山崎 友子	科学研究費	2017/4/1-2020/3/31	基盤（C）
宮古プロジェクト	宮古市観光パンフレットの多言語化	山崎 友子	宮古市港湾観光課	2017/10/1-2018/3/31	教育学部専門科目スクール・インターンシッププログラムで対応、岩手大学課題解決科目に選定
科学研究補助（基盤研究（C））	氾濫流下におけるヘッドマウントディスプレイ型高精度車避難疑似体験システムの開発	小笠原 敏記	日本学術振興会	2016/4/1-2019/3/31	
平泉文化教育研究部門▼					
平泉文化の総合的研究基本計画（劉 海宇）	東アジアの視点から見た中尊寺の金銀字経（その 2）		岩手県教育委員会	2017/9/1-2018/3/31	
平泉文化の総合的研究基本計画（曾澤 純雄）	ポータブル複合 X 線分析による白磁と青磁の胎土分析（その 3）		岩手県教育委員会	2017/9/1-2018/3/31	

07 その他

活動内容	氏名	依頼機関等	実施日	実施場所	備考
三陸復興部門▼					
心のケア班					
研修講師（心理教育授業）	佐々木 誠	住田町教育委員会	2017/5/19	世田米中学校	
研修講師（心理教育授業）	佐々木 誠	住田町教育委員会	2017/5/30	世田米中学校	
研修講師（子ども養育支援研修）	佐々木 誠	釜石市	2017/6/15	鶴住居公民館	
研修講師（心理教育研修）	佐々木 誠	大船渡保健所	2017/6/21	県立大船渡病院	
研修講師（心理教育授業）	佐々木 誠	住田町教育委員会	2017/6/22	世田米中学校	
研修講師（喪失関連講話）	佐々木 誠	麦倉研究室（岩手大学）	2017/6/24	大槌町マスト	
研修講師（支援者研修）	佐々木 誠	宮古保健所	2017/7/11	宮古市総合福祉センター	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	大船渡市傾聴ボランティア	2017/7/13	大船渡地区合同庁舎	
研修講師（子ども養育支援研修）	佐々木 誠	釜石市	2017/8/22	鶴住居公民館	
研修講師（心理教育授業）	佐々木 誠	住田町教育委員会	2017/8/25	世田米中学校	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	釜石保健所	2017/9/7	釜石地区合同庁舎	
研修講師（復興・心理支援関連研修）	佐々木 誠	上智大学グローバル・コンサーン研究所	2017/9/20	岩手大学釜石サテライト	
研修講師（心理教育授業）	佐々木 誠	住田町教育委員会	2017/9/25	世田米中学校	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	宮古市傾聴ボランティア	2017/9/28	シートピアなあと	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	大船渡市	2017/10/4	大船渡市役所	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	久慈保健所	2017/10/7	久慈地区合同庁舎	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	大船渡保健所	2017/10/17	大船渡地区合同庁舎	
研修講師（子ども養育支援研修・傾聴）	佐々木 誠	釜石市	2017/10/19	釜石市中妻地区生活応援センター	
研修講師（復興関連講話）	佐々木 誠	岩手県立黒沢尻北高等学校	2017/10/24	黒沢尻北高等学校	
研修講師（喪失関連研修）	佐々木 誠	岩手県教育委員会養護教諭部会	2017/11/2	やはパーク（矢巾町）	
研修講師（PTSD）	佐々木 誠	NPO 釜石カリタス	2017/11/8	釜石カリタス会議室	
研修講師（アンガーマネジメント）	佐々木 誠	NPO 釜石カリタス	2017/11/8	釜石カリタス会議室	
研修講師（子ども養育支援研修・トラウマ）	佐々木 誠	釜石市	2017/11/15	釜石市青葉ビル	
研修講師（子ども養育支援研修・子どもの喪失）	佐々木 誠	釜石市	2017/12/16	釜石市青葉ビル	
研修講師（いじめ関連）	佐々木 誠	世田米中学校	2018/1/9	世田米中学校	
研修講師（子ども養育支援研修・喪失）	佐々木 誠	釜石市	2018/1/18	釜石市青葉ビル	
研修講師（傾聴研修）	佐々木 誠	遠野保健所	2018/1/25	福祉の里遠野	
研修講師（子ども養育支援研修）	佐々木 誠	釜石市	2018/2/10	釜石市青葉ビル	
研修講師（支援者のメンタルヘルス）	佐々木 誠	沿岸広域振興局	2018/2/16	釜石地区合同庁舎	
研修講師（子ども養育支援研修）	佐々木 誠	釜石市	2018/2/21	釜石市青葉ビル	
研修講師（心理教育実践）	佐々木 誠	住田町教育委員会	2018/2/21	住田町役場	
研修講師（傾聴）	佐々木 誠	久慈市傾聴ボランティア	2018/3/8	久慈地区合同庁舎	
被災動物支援班					
宮城県蔵王キツネ村への「ワンにゃん号」出動		宮城県蔵王キツネ村	2017/7/22-23	宮城県蔵王キツネ村	
岩手県合同防災訓練におけるペット同行避難訓練参加		岩手県	2017/8/26	盛岡市立見前南小学校	
動物愛護フェスティバルにおける「動物なんでも相談会」開催		岩手県獣医師会	2017/9/23	滝沢市うまっこパーク	
岩手県主催ペット同行避難シンポジウム・パネリスト		岩手県	2017/11/3	アイーナ	
VMAT キックオフシンポジウムについての新聞記事（毎日、朝日、河北、岩手日報他）					
ドキュメンタリー映画「被ばく牛と生きる」内で取り組みが紹介					
集英社文庫「牛と土」内で取り組みが紹介					

活動内容	氏名	依頼機関等	実施日	実施場所	備考
地域コミュニティ再建支援班					
生活再建の裏に格差	麥倉 哲	読売新聞	2017/9/13		
犠牲者の生きた証訪ぐ調査 被災地の希望の光に	麥倉 哲	河北新報	2017/7/10		
押し付けず支援 個々に寄り添い	麥倉 哲	岩手日報	2017/6/26		
長引く仮設住宅 苦しみに応える施策を	麥倉 哲	岩手日報	2017/7/20		
応急仮設6年 心に影 岩手大社会学研究室の仮設住宅調査上	麥倉 哲	朝日新聞	2017/7/27		
不安に耐え希望探し 岩手大社会学研究室の仮設住宅調査下	麥倉 哲	朝日新聞	2017/7/28		
感謝込め仮設住宅訪問 大槌で岩手大学麥倉研究室最後の聞き取り	麥倉 哲	岩手日報	2017/8/9		
渡嘉敷の歴史、後世に 初の専門部会 沖縄戦証言、映像で記録	麥倉 哲	琉球新報	2017/12/25		
被災7年仮住まいの先に 下	麥倉 哲	読売新聞	2018/3/10		
精神面、6割回復せず 大槌の仮設入居者岩手大学調査	麥倉 哲	朝日新聞	2018/3/19		
心の平穏まだ遠く 岩手大・大槌の仮設住民調査報告	麥倉 哲	岩手日報	2018/3/22		
仮設住宅でリスク85% 生計や人間関係、精神面	麥倉 哲	毎日新聞	2018/3/24		
集団自決「生きた証」後世へ	麥倉 哲	朝日新聞	2018/3/25		
人 麥倉哲（「生きた証」を通して戦争と大震災を記録する岩手大学教授）	麥倉 哲	朝日新聞	2018/3/28		
戦争体験語り 後世へ／渡嘉敷 島の高齢者集い共有	麥倉 哲	沖縄タイムス	2018/4/5		
JSURP 震災復興タスクフォースシンポジウム パネリスト	船戸 義和	日本都市計画家協会	2017/7/8	東京大学工学部	約 50 名
復興教育	船戸 義和	盛岡市立手代森小学校	2017/11/22	手代森小学校	4 年生約 40 名及び保護者
復興岩手県民会議 東日本大震災津波 7 年のつどいシンポジウム コーディネーター "	船戸 義和	東日本大震災津波救援・復興岩手県民会議	2018/3/17	野田村総合センター	約 130 名
陸前高田アパセットかたと&市立図書館紹介プロジェクト	五味 壮平	高田松原商業開発協同組合と協働	2017/11～2018/4	陸前高田市	授業科目および COC+ 事業として実施
陸前高田アートプロジェクト	五味 壮平	あすなるホームなどと協働	2017/11～2018/4	陸前高田グローバルキャンパス	
ものづくり産業復興推進班					
釜石・大槌産業フェアにてサテライト紹介		釜石・大槌地域産業育成センター	2017/12/1	釜石・大槌地域産業育成センター	
農地復興班					
平成 29 年度農業農村工学会東北支部岩手大会支部研修会ローカルセッション・パネラー	倉島 栄一、金山 素平、山本 清仁	農業農村工学会東北支部	2017/11/10	ホテルルイズ	
平成 29 年度農業農村工学会東北支部岩手大会支部研修会ローカルセッション・コーディネーター	原科 幸爾、濱上 邦彦	農業農村工学会東北支部	2017/11/10	ホテルルイズ	
第 1 回いわてスマート農業祭出展	倉島 栄一、原科 幸爾、武藤 由子、山本 清仁	岩手県	2017/8/25	岩手産業文化センター「アビオ」	
ローカルセッション・パネ					
園芸振興班					
炬かりふ栽培研修会		主催	2017/5/13	久慈市	参加者 7 名
炬かりふ栽培研修会		主催	2017/6/9	陸前高田市	参加者 4 名
夏イチゴ作柄検討会		主催	2018/1/17	岩手大学	参加者 23 名
パネルディスカッション「三陸の園芸振興に向けて」		RTGC 大学シンポジウムの一環として、標記の会合を開催した	2018/3/4	陸前高田グローバルキャンパス	参加者数 19 名
農林畜産業復興総合計画班					
あおもり自然公園フォーラム「自然公園の魅力向上のための保全と活用の取組」	山本 清龍	青森県	2018/2/18	青森国際ホテル	パネリスト、コメンテーター、司会、運営参加・支援
平成 29 年度岩手大学地域連携フォーラム in 釜石（活動報告）	山本 清龍	岩手大学	2017/12/18	釜石情報交流センター	
みちのく潮風トレイルふだいミーティング（研究成果報告）	山本 清龍	岩手大学山本清龍研、普代村	2018/3/12	国民宿舎くさき荘	
コラボ MIU・IPU イノベ合同イベント「研究フィールドから事業創出（観光&水産業編）」（活動報告）	山本 清龍	ふるさといわて創造協議会（事務局：岩手大学 COC 推進室）	2017/7/27	盛岡市産学官連携研究センター（コラボ MIU）	
あおもり自然公園フォーラム「自然公園の魅力向上のための保全と活用の取組」					パネリスト、コメンテーター、司会、運営参加・支援
地域創生部門▼					
岩手経済研究所座談会 岩手の地方創生を考える～折り返し地点に立って～	今井 潤	岩手経済研究所機関誌	2017/7/21		10 月号
「カイコ冬虫夏草」店頭に 岩手大ベンチャー企業開発サブリ手づくり村などで販売	㈱バイオコクーン研究所 鈴木 幸一所長	盛岡タイムス	2017/7/27	盛岡手づくり村	
東京で産学マッチングイベント イノベーションジャパン	理工学部 平原 英俊教授	岩手日報	2017/9/1	東京ビックサイト	
全国 6 大学の活動を情報交換 岩手大環境マネジメント全国大会	本機構 今井 潤教授	盛岡タイムス	2017/9/16	岩手大学	

活動内容	氏名	依頼機関等	実施日	実施場所	備考
岩手大地域連携フォーラム in 盛岡ーコラボ MIU 開設 10 周年記念		盛岡タイムス	2017/11/7	盛岡市産学官連携研究センター	
焼けた山林 再生へ 釜石親子連れら作業の汗	本機構 山本 清龍客員准教授（東京大学准教授）	読売新聞	2017/11/12		尾崎 100 年学会、地域課題解決プログラム
岩手大が技術実証ラボ 現場規模の試作可能	今井 潤	岩手日報	2017/12/21		
岩大 多彩な地域連携活動 釜石で紹介フォーラム	共同研究員 井上 諭宜氏、理工学部 大西 弘志准教授、金 天海准教授他	読売新聞	2017/12/22	釜石情報交流センター	
ヘルスケア産業の育成・支援 盛岡地域で協議会設立 行政や大学、民間企業で雇用創出や企業誘致へ	今井 潤	盛岡タイムス	2018/1/19		
養蚕再生へバイオの力 サナギを使い「冬虫夏草」培養	㈱バイオコクーン研究所 鈴木 幸一所長	朝日新聞	2018/1/29		
岩大地域連携フォーラム 八幡平市で 21 日	農学部 井良沢 道也教授、由比 進教授他	盛岡タイムス	2018/2/7	八幡平ハイツ	
「家族グルメ」日めくりで 岩手大の小山内さんカレンダーを作製	人文社会科学部 五味 壮平教授	岩手日報	2018/2/14		地域課題解決プログラム
ひと 北上市更木地区で養蚕プロジェクトに乗り出すバイオコクーン研究所所長	㈱バイオコクーン研究所 鈴木 幸一所長	岩手日報	2018/3/26		
ものづくり技術教育研究部門▼					
ざぜん草祭り		北上市藤根地区	2018/3/9	藤根地区交流センター	
三陸水産教育研究部門▼					
親子料理教室 1 回目	袁 春紅	釜石リージョナルコーディネーター（釜援隊）	2017/12/23	釜石市尾崎白浜番屋	参加保護者 4 名・児童 5 名 協力釜石湾漁協白浜浦女性部 "
親子料理教室 2 回目	袁 春紅	釜石リージョナルコーディネーター（釜援隊）	2018/2/17	釜石市小佐野公民館	参加保護者 3 名・児童 12 名 協力釜石湾漁協平田女性部 "
地域防災教育研究部門▼					
卒業論文 三軒庄館下における来待砂岩の動的変形特性	鴨志田 直人	岩手大学理工学部社会環境工学科	2017/2/14		社会環境工学科 奥山太郎（外部での発表無し）
紙芝居による災害文化伝承についてインタビュー記事	山崎 友子	「小さな親切」運動本部	2017/9/25		" てらこあん " 内「学校で学ぼう」で紹介 http://www.kindness.jp/kids/school
紙芝居による津波災害の語り部田畑ヨシさんについてのインタビュー、追悼記事に掲載	山崎 友子	朝日新聞	2018/3/9		2018/03/10 の朝日新聞「天声人語」に掲載
紙芝居による津波災害の語り部田畑 ヨシさんについてのインタビュー、追悼番組放映	山崎 友子	めんこいテレビ	2018/3/2		2018/05/26 放映
外国人の見た日本についてのスピーチコンテスト参加協力	山崎 友子	盛岡ソントクラブ	2017/11/8	ブラザおでんせ	対象者：盛岡ソントクラブ、被災地見学をした岩手大学留学生 テレビいわてで放映、岩手大学学生 2 位・3 位受賞
地域を支える「エコリーダー」・「防災リーダー」育成プログラム	小笠原 敏記	岩手大学	2017/5/20-12/9		
アラスカ大学アンカレッジ校との防災ハンドブックの作成	小笠原 敏記	アラスカ大学	2017/4/19-4/22		
アラスカ大学アンカレッジ校との防災ハンドブックの作成	小笠原 敏記	アラスカ大学	2017/5/16		
平成 28 年台風第 10 号の取材	小笠原 敏記	岩手日報	2017/5/6		
ハンバット大学による Hydro Labo. 実験施設見学	小笠原 敏記	研究高度化・グローバル化特別対策室	2017/10/10		
岩手日報「読者のまなざし」小中学生の避難行動についてのインタビュー	森本 晋也	岩手日報社	2017/5/11		
岩手県立宮古高校での出張授業「命を守る言葉ー石碑の文字を解読し、学び、生かす」の講師	田中 成行	岩手県立宮古高等学校	2017/9/20		
「命を守る言葉」としての「姉吉の碑」の碑文のポスターセッション（2月2日）と、宮古市重茂地区の「姉吉の碑」の巡検（2月3日）	田中 成行	災害文化研究会	2018/2/2、 3		
千葉大学 E S D 研究会 シンポジウム	森本 晋也	千葉大学	2017/8/21	千葉大学	シンポジスト
研修動画「校内研修シリーズ」No.26 「災害安全」	森本 晋也	独立行政法人 教職員支援機構	2018/2/20		2018 年 2 月から配信
平泉文化教育研究部門▼					
シンポジウム「古代蝦夷と城柵」コーディネーター	伊藤 博幸	蝦夷研究会・国学院大学院友会岩手県支部	2017/12/17	ブラザおでって	
奥州エフエム「平泉の文化」レギュラー出演	伊藤 博幸	奥州エフエム放送 ㈱	2017/4/6 ～	奥州エフエム	全 52 回
I BCラジオ「平泉ウォーク」ゲスト出演	伊藤 博幸	I BC岩手放送	2017/6/4	平泉町	
I BCまつり「世界遺産ワンストップ」講演会講師	伊藤 博幸	I BC岩手放送	2017/9/16	アビオ	

岩手大学の復興支援に関する主な出来事

●平成23年3月11日(金)午後2時46分 東日本大震災発生(※盛岡市 震度5強)

●平成23年

- 3月11日 **「危機対策本部」を設置**
(1) 学生・児童・教職員の安否確認
(2) 建物・設備の被害状況等確認
- 【岩手大学の状況】**
(1) 学生・児童・教職員の被災状況
犠牲者：1名(学部学生)、被災学生※：377名
※家屋(実家)の損壊、家計支持者が亡くなった又は大幅に収入がなくなった、実家が原発の影響を受けた者など
被災教職員：14名
(2) 建物・設備に関する被害建物：「危険」「要注意」はなかったが、天井の破損、水漏れ等はある
設備：分析機器等、修理・メンテナンスが必要な物品あり
- 3月12日 **一般入試後期日程試験を中止**
- 3月23日 **卒業式中止(※代替行事として、課程ごとの学位授与式を実施)**
- 3月28日 **岩手大学調査団による沿岸被災地の調査を実施**
復興構想の作成に向けて、沿岸被災地にて津波被害の状況を把握するための調査を実施。
- 4月1日 **「岩手大学東日本大震災復興対策本部」を設置**
①情報・連絡調整、②学生支援、③施設・整備、④地域復興支援、⑤健康管理の5部門からなる復興対策本部を設置し、全学体制による復興支援活動を開始。
- 移動診療車による被災動物の診療を開始**
農学部附属動物病院の産業動物用検診車を移動診療車「わんにゃんレスキュー号」として活用し、被災地での診療を実施。5月までに計5回実施し、延べ131頭の犬、猫等を診療。
- 4月6日 **学生によるボランティア活動開始**
清掃作業、地域イベント運営支援、学習支援活動、ボランティアセンター運営支援等を実施。「岩手大学三陸復興サポート学生委員会」などが活動中。(平成29年3月までに延べ3,262名が活動)
- 4月7日 **入学式中止(※代替行事として、5月9日に「新入生歓迎の集い」を実施)**
- 4月11日 **震災復興に関する委員会等への参画**
政府の復興構想会議(検討部会)に教員1名参画。また、岩手県の津波復興委員会や被災市町村の復興計画策定委員会等に教員延べ25名が参画。
- 4月29日 **教職員によるボランティア活動開始**
宮古市及び釜石市にて、避難所運営支援や側溝の汚泥除去、家屋清掃、物資配付等を実施(平成23年10月までに延べ298名が活動)。
- 5月9日 **前期授業開始(※例年より約1ヶ月遅れ。教育学部のみ4月18日に授業開始)**
- 5月18日 **「岩手県沿岸復興プロジェクト」開始**
『被災者(緊急)支援』、『海洋産業』、『地域防災』、『産業復興』の4つの分野について、学内からプロジェクトを公募。平成23年度中に28事業を実施。
- 10月1日 **「岩手大学三陸復興推進本部」を設置**
復興対策本部を発展的改組し、長期的に復興支援を行う体制を整備。①教育支援、②生活支援、③水産業復興推進、④ものづくり産業復興推進、⑤農林畜産産業復興推進、⑥地域防災教育研究の各事業を展開。また、三陸沿岸での活動拠点として、釜石市にサテライト施設(釜石サテライト)を設置。
【釜石サテライト】常勤職員2名、コーディネーター1名、事務補佐員1名を配置。



被災直後の図書館
(3月11日)



課程ごとの学位授与式
(3月23日)



移動診療車での診察
(4月1日～)



学生ボランティア活動
(4月6日～)



釜石サテライト設置
(10月1日)

- 10月30日 **東京海洋大学及び北里大学と「三陸水産業の復興と地域の持続的な発展に向けた3大学連携推進に関する基本合意書」を締結**
三陸水産業の復興に向けた3大学連携推進シンポジウムの開催
東日本大震災により被害を受けた三陸沿岸の水産業について、岩手大学、東京海洋大学及び北里大学の3大学が地域と連携し、復興・発展を推進するため、「3大学連携推進に関する基本合意書」を締結し、シンポジウムを開催。
- 11月7日 **岩手県沿岸市町村復興期成同盟会と「岩手県沿岸市町村の復興と地域の持続的発展に向けた連携・協力書」を締結**
三陸沿岸の復興と地域の持続的発展に向けて、岩手大学が取り組む復興支援事業について連携・協力をを行うため、岩手県沿岸市町村復興期成同盟会(沿岸13市町村で構成)と連携・協力書を締結。
- 12月9日 **文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」(平成23年度第3次補正予算)に採択**
○三陸沿岸地域の「なりわい」の再生・復興の推進事業
三陸沿岸地域の「なりわい」の再生・復興として、三陸ものづくり産業復興支援事業、農林畜産業復興支援事業、生活復興支援事業の3事業の復興を推進。
○いわての教育及びコミュニティ形成復興支援事業
いわて高等教育コンソーシアム構成5大学(岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手大学)が互いの特徴とこれまでの復興支援の取組を最大限に生かし、「地域を担う中核人材育成事業」を展開。



3大学連携推進基本
合意書締結
(10月30日)



寄贈されたワンにゃん号
(3月22日)

●平成24年

- 3月22日 **マースジャパン社から岩手大学にペット専用移動診療車「ワンにゃん号」を寄贈**
マースジャパン社が実施している被災地支援の一環として、岩手大学にペット専用移動診療車を寄贈。沿岸各地で開催される動物支援イベントにて、無料診療や相談会等を実施中。
- 4月1日 **「岩手大学三陸復興推進機構」を設置**
復興推進本部を発展的改組し、学則に基づく組織に格上げ。復興支援に携わる教職員数を拡充し、復興支援体制をさらに強化。
「岩手大学地域防災研究センター」を設置
工学部附属地域防災研究センターを、文理融合型の全学施設として強化・充実。
SANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業を開始
岩手大学、東京海洋大学、北里大学の3大学連携による水産業の高度化・三陸水産品のブランド化を目指したSANRIKU(三陸)水産研究教育拠点形成事業が開始。
- 4月3日 **「久慈エクステンションセンター」を設置**
三陸沿岸での情報収集・発信や関係機関との連絡調整機能の強化のため、久慈市にエクステンションセンターを設置。大学本部・釜石サテライト・関係自治体等と連携・協力し、復興に向けた各種事業を推進。
- 10月1日 **「宮古エクステンションセンター」を設置**
宮古市に宮古エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト・久慈エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。
- 11月2日 **第7回マニフェスト大賞にて、震災復興支援・防災対策最優秀賞を受賞**
第7回マニフェスト大賞(マニフェスト大賞実行委員会主催、毎日新聞社・早稲田大学マニフェスト研究所共催)において、自治体や民間企業、市民団体などによる活動を表彰する「震災復興支援・防災対策賞」の最優秀賞を岩手大学が受賞。



久慈エクステンション
センター設置
(4月3日)



第7回マニフェスト大賞
「震災復興支援・防災
対策賞」最優秀賞を受賞
(11月2日)

●平成25年

- 3月18日 **「釜石サテライト」 移転**
釜石市平田地区に釜石サテライト竣工。「岩手大学三陸水産研究センター」と「こころの相談ルーム」も開設。
- 4月1日 **「三陸水産研究センター」を設置**
釜石サテライト内に岩手大学三陸水産研究センターを設置、隣接する岩手県水産技術センター等と連携しながら、三陸水産業の復興活動を推進。
- 4月3日 **「大船渡エクステンションセンター」を設置**
大船渡市に大船渡エクステンションセンターを設置。既存の釜石サテライト・久慈・宮古エクステンションセンターや関係自治体等と連携・協力して、復興支援活動を推進。
- 5月11日 **「釜石サテライト竣工及び三陸水産研究センター設置記念式典」を実施**
釜石サテライトの竣工と三陸水産研究センターの設置を記念し、式典を実施。
- 5月21日 **公開討論会「復興を通じた革新産・官・学・NPO それぞれの役割 ～ニューオリンズに学ぶ～」を開催**
2005 年ハリケーン・カトリーナにより被災したニューオリンズの復興に貢献した企業家等民間の代表を招へいし、釜石・岩手の復興の一助にすることを目的として、(公財) 渋沢栄一記念財団と岩手大学が共催。
- 7月10日 **下村博文文部科学大臣が釜石サテライトを訪問**
被災地でボランティアを行っている岩手大学、岩手県立大学の学生らと意見交換。
- 10月3日～ **後期全学共通教育科目として「岩手の研究『三陸の復興を考える』」を開設**
震災からの復興について学術的観点から検討し、復興への関心を高めるとともに、復興を担う次代の人材を養成することを目的として、東日本大震災の概要、本県における被災状況及び復興に向けての課題・方向性などを総括的に学習し、その上で、復興への岩手大学の取組みを事例的に学習。
- 11月9日 **第3回 全国水産系研究者フォーラムを開催**
「震災後の三陸地域における水産業の現状と復興」をテーマに、全国水産系研究者のより一層の横断的ネットワークの構築と三陸復興を目指して開催し、100名以上が参加。
- 12月7日 **岩手大学三陸復興推進機構シンポジウム 2013 「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催**
東京都板橋区において、岩手大学で行われている震災復興活動について紹介するとともに、東京でも広がりつつある被災地コミュニティについて、参加者の方々との対話も交えながら考えるシンポジウムを開催し、約 230 名が参加。

●平成26年

- 1月17日・18日 **被災地の現状と復興の取り組みを学ぶ現地研修を実施**
岩手の研究を履修している学生と実際に被災地でボランティア活動を行っている学生を対象に、1泊2日の現地研修を実施し、16名が参加。
- 3月22日 **SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業報告会を開催**
岩手大学・東京海洋大学・北里大学の3大学が取り組んできた研究成果について三陸地域の漁業関係者の方々に知っていただくと共に、公設試験機関や全国の水産研究者との連携を強化していくことを目的に開催し、約90名が参加。



釜石サテライト
(3月18日)



大船渡エクステンション
センター設置
(4月3日)



下村文部科学大臣が
釜石サテライトを訪問
(7月10日)



「つながって岩手～東京で
広げる被災地コミュニティ～」
を開催 (12月7日)



旧大槌町役場の前で
説明を受ける学生
(1月18日)

- 4月26日 **地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクトによる被災地学修がスタート**
地域の歴史・文化・特色を理解し、異分野の専門家との協働で自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる人材の育成を目指す地域と創る“いわて協創人材育成+地元定着”プロジェクトの一環として、今年度から全学部1年生の必修科目として「被災地学修」を実施。
- 6月27日 **低温低湿乾燥法による魚介乾製品「潮騒の一夜干し」販売記者会見開催**
岩手大学と久慈市の加工販売会社との共同研究で誕生した魚介乾製品「潮騒の一夜干し」販売記者会見を開催。岩手大学の「低温低湿乾燥法」の技術を商品化に応用。
設備導入の段階で、公益財団法人さんりく基金などの助成を受けるとともに、パッケージデザインは県内のプロデュース会社が担当し、産学官が協力したオール岩手の製品となった。
- 6月28日 **水産加工工業車座研究会 in 大船渡を開催**
岩手大学、東京海洋大学、北里大学の共催により、水産加工工業車座研究会 in 大船渡を開催。3大学の研究事例を紹介するとともに、「商品開発・魚食普及」「ブランド化」「水産物の有する機能性」「加工工程改善、生産拡大」の4つのテーマに分かれて車座形式での意見交換会を実施。
- 8月3日 **地域防災フォーラム「未来への復興まちづくり」を開催**
神戸大学都市安全研究センターと連携し、阪神淡路大震災からの復興の経験を踏まえ、未来志向の復興まちづくりについて討議。
- 10月22日 **三陸で夏イチゴを作ろう in 田野畑村を開催**
三陸沿岸の「夏は北海道よりも涼しく、冬は関東内陸並みに暖かい」という気候の特徴を活かした作物の普及に取り組んでおり、今回は夏から秋にかけて収穫できる夏イチゴの普及を目的に企画。

●平成27年

- 1月31日 **平成26年度岩手大学三陸復興推進機構シンポジウムを開催**
6部門の活動報告を行うとともに、「震災復興・地域創生と大学の役割」をテーマにパネルディスカッションを開催し、約 100 名が参加。
また各部門・サテライト・エクステンションセンターの活動パネルと成果品等を展示。
- 3月4日 **岩手大学三陸復興シンポジウム 2014 「つながって岩手～東京で広げる被災地コミュニティ～」を開催**
25年度に引き続き、東京都板橋区において、「つながって岩手 Part2 ～春が来た、さあ三陸に出かけよう!～」をテーマに首都圏向けのシンポジウムを開催し、約 120 名が参加。
観光をテーマに首都圏向けに具体的な被災地への関わり方を提案し、被災地の交流人口増加を目指した。
- 3月14～18日 **国連防災世界会議に参加
岩手大学主催フォーラム「地域社会のレジリエンスとキャパシティ・ビルディング～被災地での岩手大学の実践と検証～」を開催**
仙台で開催された第3回国連防災世界会議に参加するとともに、岩手大学主催のフォーラムでは、岩手大学がこれまで取り組んできた緊急対応、地域コミュニティの再生、防災教育などに関する実践活動の報告を行った。
- 3月21日 **SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業報告会を開催**
岩手大学・東京海洋大学・北里大学の3大学が取り組んできた研究成果について三陸地域の漁業関係者の方々に知っていただくと共に、公設試験機関や全国の水産研究者との連携を強化していくことを目的に開催し、約100名が参加。
- 5月31日 **小泉進次郎復興大臣政務官が岩手大学を訪問**
本学の震災復興に向けた取組を紹介するとともに、復興支援活動を行っている学生や卒業生と意見交換。



潮騒の一夜干し
販売記者会見
(6月27日)



地域防災フォーラム
(8月3日)



国連世界防災会議に参加
(3月14日～18日)



小泉復興大臣政務官との
ミーティング
(5月31日)

●平成27年

- 6月11日 **減塩加工食品開発セミナーを開催**
宮古市内の水産加工会社を対象とした減塩加工食品の開発にまつわるセミナーを開催。
- 9月16日 **公開シンポジウム「東日本大震災からの地域と農業の復興」を開催**
農業環境工学関連5学会 2015 年合同大会実行委員会との共催。本学の教員などが被災地の農業やコミュニティの復興支援について説明した。
- 10月21日～11月4日 **岩手大学三陸復興推進機構企画展「東日本大震災における岩手大学の復興推進活動～被災地とともに希望の創出～」を開催**
岩手大学三陸復興推進機構の取組についての展示のほか、土日祝日に三陸沿岸企業との産学官連携商品を中心とした物販を行った。また、サイドイベントとして 10 月 24 日に「岩渕学長と復興推進活動を行っている学生たちとのミーティング」を開催。
- 12月11日 **岩手大学東日本大震災復興支援活動報告会「東京都北区・板橋区を中心とする首都圏の皆様へ感謝を込めて～」を開催**
東日本大震災後に、東京都北区・板橋区の企業・一般市民の方々が「岩手大学被災学生支援の会」を設立し、被災学生へご支援をいただいたことに対して、支援活動の報告を行うとともに感謝の気持ちをお伝えした。

●平成28年

- 3月2日 **「いわて南部地粉そば」農林水産大臣賞受賞記者会見を開催**
岩手大学と釜石市の企業との共同研究で誕生した「いわて南部地粉そば」が平成 27 年度優良ふるさと食品中央コンクール・新技術開発部門にて農林水産大臣賞を受賞したことを受け記者会見を開催。「低酸素気流を利用した粉体用連続式殺菌装置」を開発し、そばの生麺の風味を保ったまま賞味期限を延ばすことに成功。
- 4月1日 **「三陸復興・地域創生推進機構」を設置**
「三陸復興推進機構」と「地域連携推進機構」を統合し新設。再建途上の三陸復興と人口減少化にある岩手県のまち・ひと・しごと創生を目的に県内自治体と連携し岩手発の新たな地方創生モデルを構築する。
- 5月10日～9月30日 **熊本地震の被災動物支援のためワンにゃん号を貸出**
4月に発生した熊本地震の被害を受け、宮崎大学の要請によりペット専用移動診療車ワンにゃん号を貸出。宮崎大学農学部獣医学科が被災動物支援にあたった。
- 6月6日 **スタースト☆レビューからの寄附を受け感謝状贈呈**
音楽グループ「スタースト☆レビュー」が本学の復興推進活動に10,000,000 円を寄附。陸前高田市においてフリーライブを開催し、感謝状を贈呈。
- 9月3日～ **台風10号被災地へのボランティア活動**
8月31日に発生した台風10号の被害を受け、学生、教職員が9月3日から久慈市、宮古市、岩泉町に流木撤去や泥上げ作業の支援に入った。(延べ411名が活動)
- 10月15日 **台風10号緊急報告会開催**
台風10号による水害、流木被害、土石流及び土砂災害の調査結果を報告。地域防災研究センターを核とする岩泉支援チームを設置し、被害の大きかった岩泉町の防災教育やコミュニティ支援に取り組んでいく。



三陸復興推進活動の企画展示
(10月21日～11月4日)



支援の会から被災学生の
代表者に記念品を贈呈
(12月11日)



いわて南部地粉そば記者会見
(3月2日)



スタースト☆レビューへ
感謝状贈呈
(6月6日)



久慈市街地での泥上げ作業
(9月3日)

- 11月25日 **三陸復興・地域創生推進機構発足記念シンポジウムを開催**
「三陸復興・地域創生推進機構」の発足を記念して本田敏明遠野市長、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長を招いてシンポジウムを開催。
- 12月1日 **ものづくり技術研究センター看板除幕式・特別講演会を開催**
「ものづくり技術教育研究部門」を担う「ものづくり技術研究センター」の看板除幕式と特別講演会を開催。発足を記念して本田敏明遠野市長、坂本修一文部科学省産業連携・地域支援課長を招いてシンポジウムを開催。
- 12月11日 **三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会を開催**
東京海洋大学を会場に首都圏に住む方を対象とした報告会を開催。被災地で活動している教員・学生からの活動紹介とともにパネル展示やビデオ上映を通して取組を紹介。

●平成29年

- 2月11日 **子どもの心とあゆみを支えるシンポジウムを開催**
心のケア班において福島・宮城・岩手で行われている子どもへの支援活動を通して、東日本大震災のこれまでとこれからの心の支援を考えるシンポジウムを開催。
- 2月20日 **岩手大学地域連携フォーラム in 久慈を開催**
相互友好協力協定締結自体である久慈市との連携により、本学がこれまで取り組んできた様々な活動を広く一般市民に紹介するフォーラムを開催。
- 6月11日 **釜石キャンパス看板除幕式及び開設記念フォーラムを開催**
農学部食料生産環境学科水産システム学コースと大学院総合科学研究科地域創生専攻地域産業コース水産業革新プログラムが新設されたことに伴い釜石キャンパスを開設した。それを記念して釜石キャンパス看板除幕式及び開設記念フォーラムを開催。
- 7月27日 **第1回 アドバイザリーボード会議を開催**
三陸復興・地域創生推進機構の運営に関して、評価・助言をいただく、アドバイザリーボード会議を開催。
- 12月3日 **「第2回三陸復興・地域創生推進機構首都圏向け報告会」を開催**
日比谷コンベンションホールを会場に首都圏に住む方を対象とした報告会を開催。被災地で活動している教員・学生からの活動紹介とともにパネル展示やビデオ上映を通して取組を紹介。

●平成30年

- 1月10日 **VMAT キックオフシンポジウム ～東北初の動物医療支援チーム発足を考えるを開催**
過去の震災での獣医師等の活動をもとに東北初の VMAT 結成に向けて VMAT キックオフシンポジウムを開催。



三陸復興・地域創生推進機構発
足記念シンポジウムでのパネル
ディスカッション(11月25日)



第1回アドバイザリーボード
会議の様子
(7月27日)



VMAT キックオフシンポジウムで
のパネルディスカッション
(1月20日)

① 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則

(平成 28 年 3 月 24 日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第7条の3の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 機構は、岩手大学の社会貢献目標に基づき、東日本大震災により被災した三陸沿岸地域等の復興を支援し推進するとともに、岩手大学の実験研究成果及び知的資産の地域への普及・還元を図り、地域創生における大学戦略を各部署と連携の上、推進することを目的とする。

(業務)

第3条 機構は、前条の目的を遂行するため、次に掲げる業務を行う。

- 一 三陸沿岸地域等の復興支援・推進に関すること。
 - 二 地域創生の企画、推進に関すること。
 - 三 生涯学習機会の提供及び支援に関すること。
 - 四 大学発ベンチャーの創出・育成に関すること。
 - 五 盛岡市産学官連携研究センターに関すること。
 - 六 三陸水産研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 七 平泉文化研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 八 地域防災研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 九 ものづくり技術研究を通じた教育研究領域に関すること。
 - 十 その他第2条の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 2 機構の業務を行う際には、他部署と連携・協力を図るものとする。

(部門等)

第4条 機構に前条の業務を遂行するため、次に掲げる部門を置く。

- 一 三陸復興部門
 - 二 地域創生部門
 - 三 生涯学習部門
 - 四 三陸水産教育研究部門
 - 五 平泉文化教育研究部門
 - 六 地域防災教育研究部門
 - 七 ものづくり技術教育研究部門
- 2 部門の業務を円滑に遂行するため、部門に班又はそれに相当する組織を置くことができる。
- 3 三陸水産教育研究部門の業務は、三陸水産研究センターが担うものとする。
- 4 平泉文化教育研究部門の業務は、平泉文化研究センターが担うものとする。
- 5 地域防災教育研究部門の業務は、地域防災研究センターが担うものとする。
- 6 ものづくり技術教育研究部門の業務は、ものづくり技術研究センターが担うものとする。

(組織)

第5条 機構に、次の職員を置く。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 部門長
- 四 専任教員
- 五 特任教員、特任研究員、特任専門職員
- 六 兼務教員
- 七 兼務職員
- 八 その他の職員（以下「機構職員」という。）

(機構長)

第6条 機構長は、機構全般の業務及び運営を統括する。

- 2 機構長は、復興・地域創生を担当する理事又は副学長をもって充てる。

(副機構長)

第7条 機構長が必要と認めるときは、副機構長を置くことができる。

- 2 副機構長は、機構長の職を補佐する。
- 3 副機構長は、岩手大学の専任教員のうちから当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。
- 4 副機構長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(部門長等)

第8条 部門長は、当該部門の業務を総括整理するとともに、機構長の職務を補佐する。

- 2 部門長は、岩手大学の専任教員のうちから当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。
- 3 部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(副部門長)

第9条 機構長が必要と認めるときは、副部門長を置くことができる。

- 2 副部門長は、部門長の職を補佐する。
- 3 副部門長は、部門所属の専任教員及び兼務教員のうちから、当該教員の所属する学部等の長の同意を得て機構長が推薦し、学長が任命する。
- 4 副部門長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第10条 専任教員は、機構の当該部門の業務を処理する。

- 2 専任教員は、第19条に規定する岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議（以下「機構会議」という。）が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。

(特任教員、特任研究員、特任専門職員)

第11条 特任教員、特任研究員、特任専門職員（以下「特任教員等」という。）は、所属する部門の業務を処理するとともに、他部門の業務について協力し分担する。

- 2 特任教員等は、機構会議が候補者を推薦し、学長が任命する。

(兼務教員)

第12条 兼務教員は、専任教員と協力し所属する部門の業務を処理するとともに所属学部等との連絡調整に当たるものとする。

- 2 兼務教員は、機構会議が候補者を推薦し、機構長の申請に基づき学長が任命する。
- 3 機構長は、前項の申請に当たっては、当該教員の所属する学部等の長の同意を得るものとする。
- 4 兼務教員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(兼務職員)

第13条 兼務職員は、所属する部門の業務を処理する。

- 2 兼務職員は、部門長が候補者を推薦し、学長が任命する。

(客員教授等)

第14条 機構に客員教授及び客員准教授（以下「客員教授等」という。）を置くことができる。

- 2 客員教授等の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 客員教授等の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(客員研究員)

第15条 機構に、客員研究員を置くことができる。

- 2 客員研究員の任期は、1年以内とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 客員研究員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

（地域創生推進協力員）

第16条 機構に、地域創生等の推進を図るための調査及び企画・調整等の業務に従事する地域創生推進協力員を置くことができる。

- 2 地域創生推進協力員に関し必要な事項は、別に定める。

（機構職員）

第17条 機構職員は、機構の業務に従事する。

（サテライト等）

第18条 機構は、第3条に掲げる業務を行うため、現地における活動拠点として各市町村にサテライトを置くことができる。

- 2 機構は、各市町村等との連絡調整を行うため、各市町村にエクステンションセンターを置くことができる。

（機構会議）

第19条 機構に、第3条に掲げる業務に関する事項及び機構の運営に関する事項を審議するため、三陸復興・地域創生推進機構会議を置く。

- 2 機構会議に関する規則は、別に定める。

（企画マネジメント会議）

第20条 機構に、各部門の連絡調整等を行うため、企画マネジメント会議を置く。

- 2 企画マネジメント会議に関する規則は、別に定める。

（部門会議）

第21条 機構の各部門の運営に関する事項を審議するため、部門会議を置く。

- 2 部門会議に関する規則は、別に定める。

（庶務）

第22条 機構の庶務は、関係部局等の協力を得て、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

第23条 この規則に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

② 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議規則

（平成28年3月24日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第19条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議（以下「機構会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（審議事項）

第2条 機構会議は、規則第3条に規定する岩手大学三陸復興・地域創生推進機構（以下「機構」という。）の業務に関する事項を審議するほか、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 機構の中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
- 機構の管理・運営の基本方針に関すること。
- 機構の予算及び決算に関すること。
- 機構の評価に関すること。

五 機構の専任教員の人事（懲戒を除く。）に関すること。

六 機構の特任教員、特任研究員、特任専門職員及び兼務教員候補者の推薦に関すること。

七 機構の客員教授等に関すること。

八 機構の専任教員の兼業兼職審査に関すること。

九 機構の外部資金受入審査に関すること。

十 その他機構の運営に関する重要事項

（組織）

第3条 機構会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 機構長
- 副機構長（副機構長が置かれている場合に限る。）
- 部門長
- 専任教員
- 各学部の副学部長又は評議員各1名
- 地域連携推進部長
- その他機構長が必要と認めた者

（議長）

第4条 機構会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

2 議長は、機構会議を招集し、議長となる。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第5条 機構会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。

2 機構会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

3 前項の規定にかかわらず、第2条第5号に掲げる事項については、出席した委員の3分の2以上の賛成をもって決する。

（委員以外の者の出席）

第6条 機構会議が必要と認めたときは、委員以外の者を機構会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（専門委員会）

第7条 機構会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

（庶務）

第8条 機構会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

第9条 この規則に定めるもののほか、機構会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年4月1日から施行する。

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

③ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第20条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議（以下「マネジメント会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

(任務)

第2条 マネジメント会議は、三陸復興・地域創生推進機構各部門の連絡調整並びに三陸復興・地域創生推進機構会議の審議事項の原案作成及び議題整理を行う。

(組織)

第3条 マネジメント会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 部門長
- 四 専任教員
- 五 地域連携推進部長
- 六 地域創生推進課長
- 七 地域連携・COC 推進課長
- 八 三陸復興支援課長
- 九 その他機構長が必要と認めた者

(議長)

第4条 マネジメント会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

- 2 議長は、機構会議を招集し、議長となる。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

(会議)

第5条 マネジメント会議は、委員の3分の2以上の出席をもって成立する。ただし、委員の代理出席を認めるものとする。

- 2 マネジメント会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 マネジメント会議が必要と認めたときは、委員以外の者をマネジメント会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 マネジメント会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、マネジメント会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

二 兼務教員

三 共同研究員

四 その他部門長が必要と認めた者

2 部門に規則第9条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

(議長)

第4条 部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。

2 議長は、部門会議を招集し、主宰する。

(組織構成員以外の者の出席)

第5条 部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 部門会議の庶務は、地域連携推進部地域連携・COC 推進課において処理する。

(雑則)

第7条 この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

⑤ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門会議規則

(平成28年7月15日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則(以下「規則」という。)第21条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門会議(以下「部門会議」という。)に関し、必要な事項を定める。

(審議事項等)

第2条 部門会議は、次に掲げる事項を審議するとともに、必要に応じて岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議への提言を行う。

- 一 生涯学習部門に係る中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
- 二 生涯学習に係る事業計画の策定及び実施に関すること。
- 三 その他生涯学習に関すること。

(組織)

第3条 部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 生涯学習部門長
- 二 専任教員
- 三 特任教員、特任研究員、特任専門職員
- 四 本学の教職員のうち、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構長(以下「機構長」という。)が指名する者 若干名
- 五 その他生涯学習部門長が必要と認めた者

2 前項の機構長が指名する教職員については、当該教職員が所属する部局等の長の同意を得るものとする。

3 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構生涯学習部門に規則第9条に定める副部門長を置いた場合は、第1項の部門会議の組織構成員とする。

(議長)

第4条 部門会議に議長を置き、生涯学習部門長をもって充てる。

- 2 議長は、部門会議を招集し、主宰する
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。。

④ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門会議規則

(平成28年7月15日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則(以下「規則」という。)第21条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門会議(以下「部門会議」という。)に関し、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構地域創生部門(以下「部門」という。)の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

(組織)

第3条 部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 部門長

（組織構成員以外の者の出席）

第5条 生涯学習部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（会議）

第6条 部門会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

2 部門会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（庶務）

第7条 部門会議の庶務は、地域連携推進部地域連携・COC 推進課において処理する。

（雑則）

第8条 この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則

この規則は、平成29年10月20日から施行し、平成29年10月1日から適用する。

⑥ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門会議規則

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構規則（以下「規則」という。）第21条第2項の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門会議（以下「部門会議」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 部門会議は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構三陸復興部門（以下「部門」という。）の業務を円滑に行うため、部門長が必要と認める事項に関する意見交換を行う。

（組織）

第3条 部門会議は、次に掲げる者をもって組織する。

- 1 部門長
- 2 規則第4条第2項に定める班の長
- 3 その他部門長が必要と認めた者

2 部門に規則第9条に定める副部門長を置いた場合は、前項の部門会議の組織構成員とする。

（議長）

第4条 部門会議に議長を置き、部門長をもって充てる。

2 議長は、部門会議を招集し、主宰する。

（組織構成員以外の者の出席）

第5条 部門長が必要と認めたときは、組織構成員以外の者を部門会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

（庶務）

第6条 部門会議の庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、部門会議に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

⑦ 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議ミーティング内規

（平成28年7月15日制定）

（趣旨）

第1条 この内規は、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議規則（以下「規則」という。）第8条の規定に基づき、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構企画マネジメント会議ミーティング（以下「マネジメント会議ミーティング」という。）に関し、必要な事項を定める。

（任務）

第2条 マネジメント会議ミーティングは、岩手大学三陸復興・地域創生推進機構の各部門の活動を円滑に進めるため、次に掲げる事項の意見交換、情報共有及び部門間調整等を行う。

- 一 機構の中期目標・中期計画及び年度計画に関すること。
- 二 機構の管理・運営の基本方針に関すること。
- 三 機構の予算及び決算に関すること。
- 四 機構の評価に関すること。
- 五 機構の専任教員の人事（懲戒を除く。）に関すること。
- 六 機構の特任教員、特任研究員、特任専門職員及び兼務教員候補者の推薦に関すること。
- 七 機構の客員教授等に関すること。
- 八 機構の専任教員の兼業兼職審査に関すること。
- 九 機構の外部資金受入審査に関すること。
- 十 その他機構の運営に関する重要事項

（組織）

第3条 マネジメント会議ミーティングは、次に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 専任教員
- 四 地域連携推進部長
- 五 地域創生推進課長
- 六 地域連携・COC 推進課長
- 七 三陸復興支援課長
- 八 地域創生推進課員
- 九 地域連携・COC 推進課員
- 十 三陸復興支援課員
- 十一 エクステンションセンターコーディネーター
- 十二 その他機構長が必要と認めた者

（議長）

第4条 マネジメント会議ミーティングに議長を置き、機構長をもって充てる。

2 議長は、マネジメント会議ミーティングを招集し、議長となる。

3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代理する。

（会議）

第5条 マネジメント会議ミーティングは、第2条の任務に関し必要な委員の出席をもって成立する。

（庶務）

第6条 マネジメント会議ミーティングの庶務は、地域連携推進部地域創生推進課において処理する。

（雑則）

第7条 この規則に定めるもののほか、マネジメント会議ミーティングに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成28年7月15日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

⑧ 平成 29 年度三陸復興・地域創生推進機構構成員

平成 29 年度 岩手大学三陸復興・地域創生推進機構会議構成員名簿

(平成 29 年 7 月)

摘要条項		氏 名	部 局	備 考
第 3 条一	機構長	菅 原 悦 子	理事（復興・地域創生・男女共同参画担当）・副学長	
第 3 条二	副機構長（実践領域）	八 代 仁	副学長（総合科学研究科・COC 担当）	
第 3 条三	三陸復興部門長	後 藤 尚 人	人文社会科学部教授	
	地域創生部門長	今 井 潤	三陸復興・地域創生推進機構教授	第 3 条四・専任教員
	生涯学習部門長	朴 賢 淑	三陸復興・地域創生推進機構准教授	第 3 条四・専任教員
	ものづくり技術教育研究部門長	長 田 洋	理工学部教授	
	三陸水産教育研究部門長	田 中 教 幸	農学部教授	
	地域防災教育研究部門長	南 正 昭	理工学部教授	
	平泉文化教育研究部門長	宇佐美 公 生	教育学部教授	
第 3 条四	専任教員	今 井 潤	三陸復興・地域創生推進機構教授	
		朴 賢 淑	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
		山 下 晋	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
		小 川 薫	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
		河 村 弘 之	三陸復興・地域創生推進機構准教授	
第 3 条五	各学部の副学部長又は評議員	宮 本 ともみ	人文社会科学部評議員／教授	
		田 代 高 章	教育学部副学部長／教授	
		藤 代 博 之	理工学部評議員／教授	
		倉 島 栄 一	農学部副学部長／教授	
第 3 条六	地域連携推進部長	晴 山 均	地域連携推進部長	